

1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 市民病院としての役割の発揮
 (1) 救急医療

平成 29 事業年度の業務実績に関する
 小項目評価案

中期目標 本市の救急医療システムの下、初期救急医療から3次救急医療まで、市民病院の役割に応じて「断らない救急」に努めること。中央市民病院は、救命救急センターとして、重症患者及び重篤患者への対応を常時確保すること。西市民病院及び西神戸医療センターは、年間を通じて24時間体制で救急医療の提供に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。 (中央市民病院) 救命救急センターとして、地域医療機関との役割分担を明確にした上で密接に連携し、より重症及び重篤な患者に対して年間を通じて24時間救急医療を提供し、市民の生命と健康を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。 【中央市民病院】 地域医療機関との適切な役割分担の下、救命救急センターとして24時間365日、あらゆる救急需要に対応することにより、引き続き市民病院としての役割を果たしていく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ確かな診断及び処置を進めるほか、診療当初からチームによる救急医療を展開するとともに、病床の一元的管理を徹底し、病院全体で救急患者の受け入れ体制の充実を図る。また、先端医療センター病院の中央市民病院への統合後は南館60床を含めた一元管理を行う ○脳卒中、胸痛、産科、小児科ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を強化する ○他院からの転送依頼について、受け入れられなかった患者の検証を行い「断らない救急」に努める ○救急病棟、EICU・CCU、第二救急病棟、MPU病棟を含めた救命救急センター(62床)を効率的に運営することで 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の安心・安全を守るため、地域医療機関と密接に連携しながら、各病院においてそれぞれの役割に応じて「断らない救急」の実践に取り組んだ。 【中央市民病院】 救命救急センターとして24時間365日体制の救急医療を提供し、救急外来患者数35,244人(前年度比829人増)、うち入院患者数8,130人(前年度比667人増)、救急車搬送受入数10,532人(前年度比873人増)の受入れを行い、市内救急車搬送の応需率は99.1%(前年度比0.5%増)であった。また、救命率向上の一層の強化を図るため、ドクターカーを174回(前年度比17回増)出動し、ヘリコプターによる救急搬送患者について53件(前年度比4件減、7%減)受入れた。 厚生労働省が発表した「平成29年度全国救命救急センター評価」(平成28年度実績)で全国284か所の救命救急センターのうち、総合評価で4年連続全国1位となった。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○救急救命士の資格を持ったクラーク(9名)や専門看護師(急性・重症患者看護)(2名)の配置、総合内科と救急科との連携により、救急医療も含め個々の患者に最も適した医療を提供する体制を継続した。 ○救急患者の円滑な搬送及び受入れを行うため、脳卒中、胸痛、産科及び小児科のホットラインを継続するとともに、平成28年1月より他病院からの搬送依頼のうち3次救急相当の患者については、直接救急科の医師が対応し、救急患者の受け入れ体制の充実を図った。 ○毎月の救急委員会において、救急車搬送の応需件数と理由について検証し、病院幹部会で報告するとともに、他病院からの要請に対して応需のケースについては、妥当な判断であるか院内で検討のうえ、内容によっては各診療科部長に指導を行った。 ○救急病床の充実と院内全体の病床運営の効率化のため 	4	4	5	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院では、神戸市全域の基幹病院・救命救急センターとして、救急受入体制を非常に高い水準で維持し、「断らない救急」を実行し、厚生労働省が実施する「全国救命救急センター評価」において総合評価で4年連続全国1位となった。 西市民病院と西神戸医療センターでは、院内救急体制の改善を図り、24時間体制の救急医療を着実に提供した。 上記3病院ともに救急車搬送の応需率が前年度を上回った。
		<p>【ウエイト付の理由】市民病院としての公的役割を果たす上で重要であるため</p> <p>第2救急病棟(8床)、8月に精神科身体合併症(MPU)病棟(8床)</p>				

<p>(西市民病院)</p> <p>・年間を通じて24時間体制で救急医療を提供し、地域住民の安心及び安全を守る。</p>	<p>救急患者の受け入れの充実を図る</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・内科系・外科系全日24時間1次2次救急医療体制ならびに小児科2次救急輪番体制を継続し、市民病院としての役割を果たす。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○救急車搬送患者の受け入れを断った理由の分析とともに受入促進のための改善策を救急委員会で検討し、病院全体で救急患者の円滑な受け入れに取り組む</p>	<p>の運用を開始した。</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・24時間救急医療の提供を着実に継続し、救急外来患者数13,967人(前年度比268人減)、うち入院患者数3,060人(前年度比±0人)、救急車搬送受入数2,857人(前年度比119人減)の受入れを行った。また、全科対応ではない中で、市内救急車搬送の応需率は63.1%(前年度比2.8%増)であった。</p> <p>・外科系診療科を受診した内科救急患者に関しては、外科系医師がトリアージ・初期対応を行った上で内科の専門診療科へ紹介するように促し、救急患者受入れの円滑化を図った。また、救急患者トリアージ実施基準を活用し、専任の担当者による救急受診者のトリアージを継続した。さらに、初期研修医のための外科系救急患者の対応指針を活用し、外科系救急患者の初療研修を行い、初療対応の充実を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○救急車搬送患者受入不能理由について、毎週の幹部会議において状況の分析と改善策の検討を行い、院長自ら業務経営会議にて地域医療支援病院としての救急診療の重要性について周知した。また、平成28年度より、時間内救急体制の受入れについて運用を見直すとともに、中央市民病院救急部の救急専門医による時間内救急対応や、ICU管理への応援体制を試行的に実施したほか、救急医の公募を開始する等、時間内救急体制の改善を図った。</p>			
<p>(西神戸医療センター)</p> <p>・年間を通じて24時間体制で救急医療を提供し、地域住民の安心及び安全を守る。</p>	<p>【西神戸医療センター】</p> <p>・年間を通じて24時間体制で救急医療を提供し、地域住民の安心及び安全を守る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○脳卒中、循環器に加えて平成28年度より開始した吐下血ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ</p>	<p>【西神戸医療センター】</p> <p>・24時間救急医療の提供を着実に継続し、救急外来患者数24,650人(※22,565人)(前年度比1,995人増(※90人減))、うち入院患者数3,405人(※2,346人)(前年度比1,174人(※115人)増)、救急車搬送受入数3,559人(前年度比66人増)の受入れを行った。また、救急車搬送の応需率は70.3%(前年度比0.9%増)であった。</p> <p>※29年度より時間内ウォークインの救急患者数を加算。</p> <p>※印カッコ内は時間内ウォークインを除いた数を表記。</p> <p>・時間内救急患者を円滑に受入れるため、各医師にオンコール医師へのコンサルト基準冊子を診療科別に作成・配布してコンサルト体制の充実を図ったほか、一部の診療科において、ファーストコール担当医に加えて、セカンドコールの担当医を決めて対応する体制を継続した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○救急患者のスムーズな搬送及び受け入れを行うため、脳卒中、循環器ホットラインの運用を継続するとともに、消化器疾患の受け入れ体制を充実させるため、吐下血ホットラインの運用を継続した。また、今年度は</p>			

	<p>体制を強化する</p> <p>○受け入れられなかった救急車搬送患者について、その理由を把握し、病院全体で救急患者の受け入れ体制の充実を図る</p>	<p>神戸西地域合同カンファレンスにて、ホットラインをテーマに講演し、周辺の医療機関や消防署にホットラインの利用促進を呼びかけた。</p> <p>○受け入れられなかった救急車搬送患者について、その理由を院長副院長会議に報告し、救急委員会で状況の把握・分析を行った。また、「断らない救急」の方針徹底を図るため、各診療科部長が出席する病院運営協議会で救急車応需率を毎月報告するとともに、院長ヒアリングにおいて、各診療科長に対して時間内救急の応需件数、お断り件数を提示し、救急患者の受け入れ促進を指示した。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 1: 救急外来患者数／No. 2: 救急外来患者数うち入院患者数</p> <p>No. 3: 救急外来患者数うち救急車受入患者数</p>				
--	--	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(2) 小児・周産期医療

中期目標	地域医療機関との連携及び役割分担に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子供を産み、かつ、育てられるよう医療の提供を確保すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	判断理由
<p>・地域医療機関との連携及び役割分担を図り、市域における小児・周産期医療を安定的に提供する。また、市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い医療を提供する。</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>・総合周産期母子医療センターとして、県立こども病院との連携及び役割分担の下、ハイリスクな出産への対応をはじめ、小児・周産期医療を安定的に提供する。</p> <p>・小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一貫した医療を提供する。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>・市街地西部の中核病院の周産期施設としての役割を果たすため、正常分</p>	<p>・市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い小児・周産期医療を安定的に提供する。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・総合周産期母子医療センターとして、医師確保及び養成に努め、ハイリスクな出産にも対応できる受け入れ体制の確立を図る。</p> <p>・成育医療センターにおいて、小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一体となり、次世代を担う子ども達が健やかな成長発達を遂げるように支援する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○総合周産期母子医療センターとして、合併症妊娠、重症妊娠中毒症、切迫早産、胎児異常等母体又は児におけるリスクの高い妊娠への対応を積極的に行う。また、低出生体重児や病気をもった新生児についても、最新の医療技術を用いて診断し、救命に努めていく</p> <p>○連携登録医など地域医療機関と、定期的な情報交換と患者情報の共有を図るとともに、母体搬送・産褥への受け入れ、小児科受診への円滑な対応に努める</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・市街地西部の中核病院として、正常分娩を中心とした周産期医療を安定的に提</p>	<p>・スタッフの医療技術の向上に取り組むとともに、市内の医療機関等との連携を図ることによって、安定的な小児・周産期医療の提供を行った。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・総合周産期母子医療センターは、産科（MFICU6床、病児扱いをしない健康新生児を含む）32床と、NICU9床、GCU12床で構成、運営し、小児・周産期医療の安定的な提供を行うため、週1回の院内カンファレンスにおいて症例検討を行い、医療技術の向上に努めるとともに、夜間や休日は必ず小児科医が当直待機し、救急患者の対応処置にあたる体制を継続した。</p> <p>・成育医療センターは、周産期外来、周産期医療センター（産科、新生児科）、小児外来、小児センターの機能を持ち、産科・新生児科・小児科が一体となり、医療・保健を一貫した体制で支援を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○母体に病気がある場合は、各診療科と協力して対応するとともに、胎児に異常がある場合は、胎児超音波検査、胎児血流波形分析、胎児治療等、最新の医療技術を用いて救命に努め、ハイリスク出産への対応を行った。</p> <p>○連携登録施設（平成30年3月現在：産科・産婦人科で34施設、小児科で126施設）について、患者情報の共有化等を図るとともに、患者紹介や緊急搬送の受入れ、逆紹介等を積極的に行った。</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・周産期センターを中心として、引き続き、周産期医療を安定的に提供するとともに、小児二次救急輪番について、平成27年度より月6～8回に</p>	3	3	3	

<p>娩を中心に安定した周産期医療を提供するとともに、小児救急においては神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸西地域の中核病院として、地域医療機関での受け入れ困難なハイリスクな出産の受入をはじめ、安定した周産期医療を提供するとともに、小児救急においては神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。 	<p>供するとともに、小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療の安定的な提供に努める。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正常分娩や未成年層や高齢出産等のハイリスク分娩への対応などにおける質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに、助産師外来の継続など妊婦の多様なニーズに応える ○小児救急輪番への貢献を継続するとともに、小児科病棟の一部個室化により感染症対応の充実を図るなど、小児医療を安定的に提供する <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児救急においては、引き続き準夜帯（17時～24時）の小児救急外来を継続するとともに、小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。 神戸西地域の中核病院として、地域医療機関での受け入れ困難なハイリスクな出産の受け入れをはじめ、安定した周産期医療を提供する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県立こども病院移転に伴い、合併症妊娠、切迫早産等リスクの高い妊娠への対応の充実を図ることで、質の高い周産期医療を提供する。 	<p>増加した二次救急輪番の担当回数を継続し、地域の小児救急医療に貢献した。また、学校や施設の職員を対象に、食物アレルギーとアナフィラキシーに関する講習会を実施する等、地域の小児医療に貢献した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周産期システムを活用して、妊娠経過、分娩時の異常（リスク因子）を適切に把握し、新生児に起こりうる異常を予測しながら妊娠、分娩、新生児の管理を行う等、ハイリスク分娩への対応を行った。また、助産師外来を継続して週2日（火・木）実施し、平成29年度実績で419人（前年度比112人減、21.1%減）の利用があった。 ○育児外来、アレルギー外来、頭痛外来、県立こども病院の医師による小児循環器の専門外来（月2回）を継続した。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き準夜帯（17時～24時）の小児救急外来を継続するとともに、小児科の二次救急輪番の担当を継続し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供した。また、金曜日の準夜帯の再開に向け、小児科医師の確保に取り組んだ。 地域医療機関での受け入れが困難な早産、40歳以上の高齢妊婦、胎盤早期剥離、妊娠高血圧症、双胎、心疾患、糖尿病、精神疾患の患者などの受け入れを各診療科と協力して対応するほか、分娩時には小児科医が立ち会う等、引き続き安定した周産期医療を提供した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児科との協力体制の下、妊娠30週以降の切迫早産妊婦の受け入れを継続し、リスクの高い妊娠へ対応した。 <p>関連指標</p> <p>No. 4: 小児科入院延患者数 / No. 5: 小児科外来延患者数 No. 6: 小児科救急患者数 / No. 7: 小児科救急患者数うち入院患者数 No. 8: N I C U患者数 / No. 9: 分娩件数 No. 10: 分娩件数うち帝王切開件数 No. 11: ハイリスク妊娠件数（実患者数） No. 12: ハイリスク分娩件数（実患者数） / No. 13: 助産師外来患者数</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(3) 結核・感染症医療

中期目標	<p>新興感染症発生時などの緊急時には、新型インフルエンザの経験を生かし、病院機能の維持と、迅速かつ適切な初動対応に備えるための体制づくりや訓練を行うとともに、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）等に基づき、市長の求めに応じて対応すること。</p> <p>特に中央市民病院は、感染症指定医療機関等としての役割を果たすこと。</p> <p>また、西神戸医療センターは、市内唯一の結核病棟を有する総合病院として、結核医療における中核的機能の維持に努めること。</p>
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・新興感染症発生時等には、感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・新興感染症発生時においては、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。</p>	<p>・新興感染症発生時等には、感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・新興感染症発生時においては、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○新興感染症発生時に対応できるよう、行政機関が行う訓練に参加する等関係機関と連携した対応を円滑に行うほか、市全域における安全確保に向けて率先した対応を行う</p> <p>○エボラ出血熱をはじめとした一類感染症、鳥インフルエンザ、結核等に対応する感染症指定医療機関としての役割を果たすため、感染管理室が中心となって、職員の安全面を確保</p>	<p>・新興感染症発生時には、感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市・県及び地域医療機関とも連携を図れる体制を継続した。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・新興感染症発生の際には、いつでも市・県及び地域の医療機関とも連携を図れる体制を継続した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○神戸市インフルエンザ等対策病院連絡協議会に毎回出席し、市内の主な病院、関係機関と平時から有事に備えており、神戸市のH I V・梅毒の現状や、S F T S（重症熱性血小板減少症候群：ダニ媒介性感染症）の情報提供を受けた（29年度開催4回）。</p> <p>○2月に関連病棟の看護師とI C T（感染管理チーム）で、M E R S患者が入院した場合の対応について訓練を実施し、個人防護具の着脱、バイタルサイン測定、検体採取と検査室への搬送について実演した。</p> <p>○新興感染症等に対応するため、空気感染対策として、関連部署のスタッフ及び新規採用者に対し、N95マスク（微粒子用マスク）のフィットテストを実施した（5～6月計9日間で約180名に実施）。</p>	2	3	3	

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症発生時等には，中央市民病院，市，県及び地域医療機関と連携を行い，円滑な対応を図ることで，市民の安全を確保する。 ・また，感染症医療の専門医師及び感染対策チームメンバーを中心として，課題へ対応する。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症発生時等には，中央市民病院，市，県及び地域医療機関と連携を行い，円滑な対応を図ることで，市民の安全を確保する。 ・結核患者の専用病棟，結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し，総合的な結核医療を提供する。 	<p>のうえ取り組む</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症発生時等には，中央市民病院や市，県及び地域医療機関と連携を行い，円滑な対応を図ることで，市民の安全を確保する。 ・新興感染症発生時には，中央市民病院の患者の転院を受け入れる等連携を図るとともに，感染対策チームメンバーを中心として，医療課題への対応に取り組む。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症発生時等には，中央市民病院，市，県及び地域医療機関と連携を行い，円滑な対応を図ることで，市民の安全を確保する。 ・市内唯一の結核病床を有する病院として，結核患者の専用病棟，結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し，引き続き総合的な結核医療を提供する。 	<p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症拡大の際には，中央市民病院を中心として，県・市とも連携を図れる体制を継続した。 ・感染管理認定看護師の専従配置を継続するとともに，感染管理室を中心に，感染防止の積極的な取り組みや，新興感染症対策を行った。また，職員，パート，委託業者を対象としたインフルエンザワクチン接種を継続し，罹患及び媒介となるリスクの低減を図った。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症拡大の際には，中央市民病院を中心として，県・市とも連携を図れる体制を継続した。 ・感染管理認定看護師の専従配置を継続し，感染防止対策室を中心に，感染防止の取り組みや，新興感染症対策を行った。また，院内で働く職員を対象に，インフルエンザ（委託職員も含む），麻疹，風疹，水痘，ムンプス，HB等のワクチン接種を継続し，罹患及び媒介となるリスクの低減を図った。 ・市内唯一の結核病床を有する病院として，結核患者の専用病棟，結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し，引き続き総合的な結核医療を提供した。 <p>関連指標</p> <p>No. 14: 感染症延患者数（一類）／No. 15: 感染症延患者数（二類）</p> <p>No. 16: HIV患者数</p> <p>No. 17: 延患者数・入院（結核）／No. 18: 延患者数・外来（結核）</p> <p>No. 19: 新規患者数・入院（結核）／No. 20: 新規患者数・外来（結核）</p>				
--	---	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(4) 災害医療その他の緊急時における医療

中期目標	阪神・淡路大震災の経験や東日本大震災で得た教訓を生かし、災害時における病院機能を維持し、及び緊急時に対応し得る医療のリーダーとして迅速かつ適切な初動対応に備えるための体制づくりや訓練を行うこと。 また、災害時には、神戸市地域防災計画等に基づき、市長の求めに応じて対応するとともに、自らの判断でも医療救護活動を行うこと。 中央市民病院は災害拠点病院として、西市民病院、西神戸医療センターは神戸市災害対応病院として、それぞれの役割を果たすこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、災害拠点病院である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、災害拠点病院である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。 大規模災害時に災害拠点病院としての役割を果たせるよう、受け入れ体制を万全にする。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の院内合同防災訓練の結果等もふまえ、防災対応マニュアルの整備を行うとともに、引き続き、院内合同防災訓練、各部署での訓練を実施し、一人一人の危機対応能力を高め、災害拠点病院としての役割を果たせるよう、受け入れ体制を万全にする 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時には、災害拠点病院である中央市民病院を中心に、市・県及び地域医療機関とも連携を図れる体制を継続した。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院として、災害その他の緊急時に、役割に応じた機能が発揮できるよう災害訓練等を実施し、市・県及び地域の医療機関とも連携を図れる体制を継続した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内閣府主催の大規模災害時医療活動訓練に参加し、兵庫県下の災害拠点病院と合同で南海トラフ地震を想定した訓練を行った。これに併せて、院内にて災害対策本部の立上げ訓練、シナリオ訓練、港島寮への参集アナウンス訓練を実施した。 ○今年度から危機管理体制整備会議の下部組織として、「多数傷病者受入訓練WG」を明確に組織化し、多数傷病者受入訓練（12月、3月）を全ての診療エリアで実施するとともに、表出した課題についてはWGで議論を深めた。また、災害拠点病院の要件として求められている「BCP（事業維持計画）」についても、危機体制整備会議を中心にWGを立上げ、計画的に策定を進めた。 ○「災害対応マニュアル（暫定版）」を整備したうえで、南海トラフ地震を想定した院内総合防災訓練を12月に実施した。また、病院幹部を中心と 	2	3	3	

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、中央市民病院、西神戸医療センター、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで神戸市災害対応病院として、市民の安全を確保する。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、中央市民病院、西市民病院、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、神戸市災害対応病院として、市民の安全を確保する。 	<p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、中央市民病院、西神戸医療センター、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、神戸市災害対応病院として市民の安全を確保する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害時の病院組織の危機対応能力を高め、職員が自ら考え行動できるように、災害対応訓練や研修会を実施するとともに、災害対応マニュアルの改訂を含めた災害対策の改善に取り組む <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、中央市民病院、西市民病院、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、神戸市災害対応病院として、市民の安全を確保する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸市の災害対応病院として、災害時等に備え、危機対応能力を高め、自ら考え行動できるよう防災訓練等を行う等、災害対策について病院全体で取り組みを進める 	<p>した図上（シナリオ）訓練を実施し、災害対策本部の機能と役割の確認を行った。</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害の際には、中央市民病院を中心として、県・市とも連携を図れる体制を継続した。 神戸市災害対応病院として、必要な医薬品や衛生資材等の備蓄を行うとともに、災害対策委員会で災害対応マニュアルの改訂等の検討を進めた。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害対策委員会において、災害対応マニュアルの改訂に関し、防災・災害対応計画及び各部署の初動対応ダイジェスト版と一体的に取り組んだ。 ○職員が災害その他の緊急時に速やかに対応するため、少人数傷病者同時来院時対応訓練（8月）、平日時間内震災対応訓練（11月、2月）を実施するとともに、外部講師を招いた災害対応研修会を開催（年3回）し、職員の参画意識を高めた。さらに、医師・看護師・救急隊員等を対象とした心肺蘇生法トレーニング（ICLSコース4回実施、BLSコース3回実施）についても継続的に開催した。 ○夜間に地震が発生した場合を想定した夜間想定地震対応訓練を実施し、災害時に自ら考え、行動できる職員の養成に取り組んだ。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時等には、中央市民病院、西市民病院、市、県及び地域医療機関と連携を図れる体制を継続した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸市災害対応病院として、必要な医薬品や衛生資材については買い替えを行い、備蓄管理を継続するとともに、緊急時の利便性を高めることを目的に災害対応時の職員用非常食料品（9,000食分）の一元管理を行った。 ○職員が災害その他の緊急時に速やかに対応するため、夜間想定火災避難訓練（12月）、情報伝達訓練（6月、1月）、各所属における災害訓練（都度実施）を継続して実施し、職員の防災意識を高めた。 ○医師・看護師・コメディカル等を対象とした心肺蘇生法トレーニング（ICLSコース3回、BLSコース1回実施）についても継続的に開催した。 <p>関連指標</p> <p>No. 21: 災害訓練回数／No. 22: 災害訓練参加者数 No. 23: 災害研修回数／No. 24: 被災地等への派遣件数</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

中期目標	市民病院が有する医療機能に応じて、より高度な医療及び質の高い総合診療を含む専門的な医療を提供すること。 他方、高齢化等に伴い複数の疾患を持つ患者に対して横断的に対応するため、診療科の枠を超えた総合的な診療を行うこと。 なお、市民病院としての役割を果たした上で、疾病構造の変化、新たな医療課題、患者の動向などの社会の変化及び市民の多様な要望に柔軟に対応し、診療部門の見直しを行い、及び充実を図るなど、市内の医療需要に応じた医療の提供を行うこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 3病院の医療機能に応じたより高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、患者のQOL（生活の質）向上のため、より身体の負担が少ない手術や検査の充実に取り組む。 疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。 複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実する。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市全域の基幹病院として、専門外来をはじめ各専門医療センターの充実等を通じて、より高度で専門性を必要とする疾患に対応する。 医療需要の変化に応じて、他の地域医療機関では提供できない医療に適切に対応する。また、先進医療等に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 3病院の医療機能に応じ、身体の負担が少ない手術や検査の充実等、より高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実していく。さらに、疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応していくため、内科系医師、外科系医師、コメディカル等がチームを組んで治療に当たる体制を充実し、来院当初から最適な治療を提供するために、引き続き高度専門医療センターの運営に取り組む。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手術支援ロボット（ダヴィンチ）の活用及びTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）の実施などにより、引き続き手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図る ○急性呼吸不全症例に対して、治療成績の向上を図るため体外式膜型人工 	<ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院は市全域の基幹病院として、西市民病院は市街地西部の中核病院として、西神戸医療センターは神戸西地域の中核病院として、それぞれの医療機能に応じ、身体の負担が少ない手術や検査の充実等、より高度な医療及び専門的な医療を提供した。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応するため、他の医療機関では提供できない高度医療機器による検査や手術を行った。特に、腹腔鏡手術や胸腔鏡手術等、高度かつ患者に負担の少ない手術に積極的に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手術支援ロボット「ダヴィンチ」の更なる活用を図っていくため、5月にロボット手術センターを新設するとともに、保険適用を見据えて胃がんのダヴィンチ手術を開始した。（平成29年度実施件数：保険159件（腎52件、前立腺107件）、自費1件（膀胱1件）、病院負担7件（胃7件））。また、TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）についても継続して実施した（平成29年度実施件数：44件）。 ○急性呼吸不全症例に対する体外式膜型人工肺による治療成績の向上を目 	2	4	4	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院においては、手術支援ロボットの活用による質の高い医療提供をさらに進めるため、ロボット手術センターを新設した。 西市民病院においては最新の内視鏡システムを整備し、医療機能の向上を図り、西神戸医療センターにおいてはPET-CTを導入し、がんの集学的治療を提供した。

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器内科をはじめとした診療科の体制強化、内視鏡検査部門の充実等により、さらなる専門性の高い医療を提供する。 ・高齢者医療や生活習慣病医療等、地域が必要とする医療を強化するとともに、総合内科の充実をはじめとする「やさしさのある医療」を提供することにより、病院の特色づくりを行い、魅力ある病院を目指す。 	<p>肺（ECMO）による治療に引き続き取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○侵襲性の低い内視鏡下手術を増加させる ○総合内科において、患者ニーズに合わせた総合的な医療及び他の診療科からのコンサルテーション対応等に、引き続き取り組む ○腫瘍内科において、各種悪性腫瘍の診断、治療方針の決定及びがん化学療法の実行とともに地域医療機関（紹介元）との連携に引き続き取り組む ○移植・再生医療センターでは、移植医療を実施し、将来的には技術の進展等を見極めながら、患者の選択肢の拡大に向けて高度で質の高い医療の提供に取り組んでいく ○先端医療センター病院の中央市民病院への統合後は、医療機能を継承し、引き続き高度専門医療を提供できるよう取り組む <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○腹腔鏡下手術（手術支援ロボットによるものを含む）、胸腔鏡下手術及び内視鏡手術等、侵襲性の低い手術や検査を引き続き積極的に行う ○増設したCTを活用し、循環器内科分野にも対応しながら、需要が増加しているCT検査を円滑に実施する ○内視鏡センターの拡張や最新の内視鏡システムの整備により、内視鏡処置等の質の向上や鎮静剤を用いた内 	<p>的とした、ECMO（体外式膜型人工肺）による治療を引き続き実施した（平成29年度1件）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各診療科において患者への負担が少ない内視鏡下手術を行った（平成29年度実績：がん内視鏡下手術件数404件、前年度比2件増）。 ○複数疾患を同時に持っている患者、多臓器に問題がある患者、一般的な内科疾患のある患者等、臓器別の枠を超えて患者のニーズに合わせた医療を提供するため、総合内科において引き続き総合的な医療の提供に取り組んだ（平成29年度実績：延外来患者数11,682人、延入院患者数9,087人）。 ○腫瘍内科において、各診療科と連携して、がん化学療法等を行った（平成29年度実績：延外来患者数11,682人、前年度比4,464人増、延入院患者数5,092人、前年度比3,585人増）。 ○移植・再生医療センターは、無菌室（3床）、準無菌室（9床）を含む45床で構成し運営していたが、先端医療センター病院の統合に伴い、11月より5階南病棟に無菌室4床、準無菌室15床を増床し、患者の治療の選択肢の拡大と、より質の高い医療の提供を目指し治療に取り組んだ。 ○先端医療センター病院との統合までのがん化学療法の治療計画や、治験・臨床試験の継承作業を終了させ、統合後業務を円滑に推進した。 <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハイビジョン内視鏡下手術システムを活用し、外科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、耳鼻咽喉科において、高度かつ侵襲性の低い手術や検査を行った。また、腹腔鏡下手術および胸腔鏡下手術で使用する内視鏡システムや、手術中の透視、撮影を行う手術室用X線装置を用いて、より安全で低侵襲な手術を行った。 ○増加傾向にあるCT検査に対応し、低侵襲・高精度で、短時間での検査が可能な大腸CT検査を平成28年より開始し、検査体制の充実を図った。 ○既存施設の改修において、内視鏡センターを拡張し、最新の内視鏡システムの整備による内視鏡処置・手術の質の向上、鎮静剤を用いた内視鏡検査の充実や待ち時間の解消等、医療機能の向上を図った（内視鏡室2→3室、 				
---	--	--	--	--	--	--

<p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん関連の専門外来や化学療法の実等により、市民の多様な医療ニーズに対応した専門医療を提供する。また、カテーテル治療や内視鏡治療の実等を図ることで、低侵襲な高度医療を提供する。 ・市民が適切な医療を身近な地域で受けられるよう、大規模投資（手術室増室）や手術支援ロボット等の高度医療機器を活用して、診療科やチームが先進医療など特色ある高度専門医療を提供していく。 	<p>視鏡検査の実等を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こうべ市歯科センターの救急対応及び後送システムを継続するとともに、日帰り全身麻酔手術を積極的に行う ○歯科用パノラマX線撮影装置を導入し、歯科診療の実等を図る ○急性期病院を維持するため、今後の診療報酬改定で予想される7対1一般病棟入院基本料算定要件の更なる厳格化への対応として、地域包括ケア病棟を早期に導入する <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん関連の専門外来や化学療法の実等により、市民の多様な医療ニーズに対応した専門医療を提供する。また、カテーテル治療や内視鏡治療の実等を図ることで、低侵襲な高度医療を提供する。 ・市民が適切な医療を身近な地域で受けられるよう、増室した手術室や手術支援ロボット、新たに導入するPET-CT等の高度医療機器を活用して、高度専門医療を提供していく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○腹腔鏡下手術（手術支援ロボットによるものを含む）、胸腔鏡下手術等、侵襲性の低い手術や検査を引き続き積極的に行う ○更なるがん診断機能の向上を図るため、新たにPET-CTを導入する ○がん関連の専門外来（薬剤師外来・がん看護外来等）や拡張した化学療法センターを活用することで、がん診療をはじめ、市民の多様な医療ニーズに対応した専門医療を提供す 	<p>リカバリー室5床)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全市の拠点として、歯科の日帰り全身麻酔手術の体制を継続し、こうべ市歯科センターの救急対応・後送システムに対応した。また、日帰り全身麻酔手術枠を継続し、毎週1~2件の症例を実施した。 ○歯科用パノラマX線撮影装置を導入し、短時間のX線照射による、歪みの少ない繊細な画像を断面で観察することで、歯科診療の実等を図った。 ○平成29年7月1日より、11階37床を地域包括ケア病棟として開設した。急性期病院を維持するため、今後の診療報酬改定で予想される7対1一般病棟入院基本料算定要件の更なる厳格化へ対応するとともに、地域包括ケアシステム推進の取組みの一環として、入院患者の在宅復帰支援・調整を強化し、病院全体で病床の効率的運用を図った。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関では提供できないがん関連の専門外来や化学療法を提供するほか、高度医療機器によるカテーテル検査・治療や内視鏡治療による低侵襲な高度医療を提供した。 ・手術支援ロボット手術をはじめ腹腔鏡手術や胸腔鏡手術等、高度かつ患者に負担の少ない手術に積極的に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使った手術を継続するとともに、ハイビジョン内視鏡下手術システムを使用し、外科・消化器外科のほか、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科、脳神経外科、耳鼻いんこう科、整形外科において、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術及び内視鏡手術等、高度かつ侵襲の低い手術を実施した。 ○更なるがん診断機能の向上を図るため、平成30年2月より新たにPET-CTを導入した。 ○化学療法センターの活用や、薬剤師外来における副作用説明やモニタリング、がん看護外来における精神的支援やリンパ浮腫への対応を行う等、引き続きがん診療をはじめ市民の多様な医療ニーズに対応した専門医療を提供した（平成29年度実績：薬剤師外来件数1,347件、がん看護外来件数264件）。 				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>る</p> <p>○拡張した内視鏡センターを活用し、件数が増加している内視鏡検査及び治療を充実していく。また、鎮静を行う内視鏡検査・治療の実施により侵襲性の低い高度医療を提供する</p>	<p>○内視鏡センターを平成28年10月に拡張したことに併せて、鎮静を伴う内視鏡検査・治療を開始し、上部については地域医療機関からの紹介枠も新設し、内視鏡検査及び治療の充実を図った。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 25: 検査人数 (CT) / No. 26: 検査人数 (MRI)</p> <p>No. 27: 検査人数 (PET) / No. 28: 検査人数 (心臓血管造影)</p> <p>No. 29: 検査人数 (脳血管造影) / No. 30: 手術件数 (入院・外来合計)</p> <p>No. 31: 手術件数 (入院・外来合計) うち腹腔鏡・胸腔鏡手術件数</p> <p>No. 32: 内視鏡による手術件数 / No. 33: 全身麻酔実施件数</p>				
--	--	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(2) 5 疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病及び精神疾患）への対応

中期目標	5 疾病への対応は，市民の健康の重要課題であり，地域医療機関と役割を分担した上で，市民病院の機能に応じた医療を提供すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> がん，脳卒中，急性心筋梗塞については，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にした上で，3病院に求められている使命を果たす。 糖尿病については，教育入院や糖尿病教室を引き続き行うとともに，糖尿病地域連携パスの利用を促進する等，生活習慣病医療を強化する。また，糖尿病合併症については，関係診療科との連携を図りながら取り組む。 精神疾患については，地域の専門病院と連携を図りながら，身体合併症等への対応を中心に取り組む。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域がん診療連携拠点病院として，がん診断治療の分野において，高度の標準治療を提供するとともに，化学療法及び放射線治療等のより負担の少ない治療を提供する。 脳卒中をはじめとした脳血管障害や急性心筋梗塞をはじめとした心臓循環器領域の疾患に対しては，内科系医師，外科系医師，看護師及びコメディカル等がチームを組んで最適な医療を提供する体制を一層強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの疾患について，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にしたうえで，3病院に求められている使命を果たす。なお，精神疾患については，身体合併症への対応を中心に取り組む。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> がん治療については，地域がん診療連携拠点病院として，地域連携パスを活用しながら地域医療機関との連携を図り，侵襲性の低い治療，化学療法及び放射線治療等をより多くの患者に提供する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○がんセンターでは，高度ながん治療と緩和医療を提供することにより，がん患者のQOL（生活の質），治癒率の向上を図る ○5大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心で質の高い医療を提供していくことを目指す ○新規の抗がん剤についても積極的に導入し，最適ながん薬物療法を提供する。新規の抗がん剤は未知の副作用 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関との役割分担及び連携の下，3病院それぞれの医療機能に応じて以下の通り5疾患への対応を行った。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域がん診療連携拠点病院として，がん診療の中心的役割を担い，引き続き地域連携パスを活用し，地域医療機関との連携を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き腫瘍内科において診療を行ったほか，がん診断と治療に関係した各診療科ががんセンターの中心となって運用した。また，兵庫県がん診療連携協議会（4月），兵庫県がん診療連携協議会幹事会（6月，2月）に，がんセンター長らが出席し，情報共有等を図った。 ○5大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し，地域の医療機関との連携を図った（平成29年度実績：連携医療機関233施設，100件）。 ○新規の抗がん剤について，医薬品医療機器総合機構（PMDA）や製薬企業へ副作用報告を行うことで情報提供に協力し，未知の副作用の早期発見に取り組んだ。 	2	3	4	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院では，精神疾患を伴う患者を積極的に受け入れ，精神科身体合併症病棟を効率的に運用した。また，がん患者外来化学療法数と放射線治療数が前年度を大幅に上回った。 西神戸医療センターにおいては，PET-CTを導入し，がんの集学的治療を提供した。（再掲）

	<p>用発現の可能性もあるため、薬剤師は医師診察前予診などを利用し副作用の早期発見に努める</p> <p>○臓器別ユニット外来において、胃がんは消化器内科や消化器外科、肺がんは呼吸器内科や呼吸器外科といった各臓器に対応可能な医師が診療にあたり、また外来化学療法センター、放射線治療部門、手術部等とも協働し、各診療科と連携することにより、専門的にがんに対応する</p> <p>○外来化学療法センターにおいて薬剤師による副作用の説明や治療開始後のモニタリングを行うことにより、安全な治療を提供する。また、外来化学療法センターでは、外来通院治療機能の充実を図るために、がん患者に対する化学療法や血液浄化療法及び外来腹膜透析の管理指導等を行う</p> <p>○緩和ケア外来において、医師、看護師、薬剤師等多職種によるがん患者の症状コントロール、不安・不眠等の心理的な問題への対応、患者や家族の悩み相談等により、がん患者のQOLの改善に貢献する</p> <p>○がん診療オープンカンファレンス及び研修会を開催し、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす</p> <p>○がん患者の栄養指導を積極的に行い、入院、外来とも低栄養の改善、予防につなげる</p> <p>・脳卒中治療については、継続して高度な治療技術を提供し、患者や家族の要望を踏まえた上で、出来る限り早期にリハビリへの移行を図ることが出来るよう体制の強化を図る。</p>	<p>○臓器別ユニット外来において、各臓器に対応可能な医師が診療にあたり、また外来化学療法センター、放射線治療部門、手術部等とも協働し、各診療科と連携して、より専門的にがんに対応できるよう患者にとって最善の治療を行った。</p> <p>○初めてがん化学療法を受ける患者や、がん化学療法の新たな治療計画を開始する患者に対し、薬剤師が事前の副作用説明・対策を行うことで、患者の不安を取り除き、円滑に治療が行えるよう取り組んだ。さらに副作用をモニタリングし、用量・用法の変更、支持療法の処方提案をすることで患者の副作用軽減を図った（平成29年度実績：初回副作用説明320件、副作用説明外来607件、疑義照会件数1,651件）。</p> <p>○緩和ケア内科において、がん疾病等の患者の早期転院、円滑な在宅支援及びがん救急による緊急入院の回避を図るとともに、地域がん診療連携拠点病院として地域連携を深めるための取組みを引き続き行った（平成29年度実績：延外来患者数1,788人）。また、緩和ケア外来の薬剤師は、患者の症状変化に合わせ、薬物によるがん患者の症状コントロールを行い、がん患者のQOLの改善に引き続き取り組んだ。</p> <p>○がん診療連携オープンカンファレンスを継続して開催し、計68名が参加した。また、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を6月に開催した。</p> <p>○栄養指導のうち、がん患者の割合は、個別指導23.6%、病棟指導42.5%、2階相談室12.7%であった。</p> <p>・脳卒中治療については、脳卒中センターにおいて、継続して高度な治療技術を提供し、患者や家族の要望を踏まえた上で、できる限り早期にリハビリへの移行を図ることが出来るよう体制の強化を図った。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <p>・がん治療については、患者の負担が少ない手術や高水準の治療をより積極的に行い、患者のQOLの向上に取り組むとともに、化学療法や市民病院間との連携による放射線治療の充実を図る等、専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を發揮する。</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○脳卒中センターでは、SCU（脳卒中ケアユニット）を引き続き設置し、救命救急センターとの連携の下、ホットラインを活用し24時間体制で専門医による脳卒中診療を行う</p> <p>・急性心筋梗塞治療については、継続して高度な治療技術を提供するとともに、糖尿病性合併症等については、フットケア等のチーム医療活動の充実を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○心臓センターでは圏域内の心・大血管疾患の中心的病院として救命救急センターとの連携の下24時間対応できる体制により、救命に寄与する</p> <p>○平成28年8月に供用開始した精神科身体合併症病棟において、精神疾患に合併した急性期の身体疾患により、入院治療の必要性のある患者を受け入れる</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域の中核病院の役割を果たす。特に、がん治療については、患者の負担が少ない手術や高水準の治療をより積極的に行い、患者のQOLの向上に取り組むとともに、化学療法や市民病院間との連携による放射線治療の充実を図る等、専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を發揮する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○がん治療については、低侵襲かつ安全な手術や臓器機能の温存術の実施、化学療法等に取り組むとともに、</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○脳神経外科と神経内科が協力して脳卒中センターの一体的運用を図り、救命救急センターとの連携のもと、24時間体制で脳卒中専門医による脳卒中診察を行い、救命率の向上、後遺症発生率の低減、早期のリハビリへの移行を図った。</p> <p>・急性心筋梗塞治療については、継続して高度な治療技術を提供した。また、循環器医師、皮膚科医師、専門看護師のチームでフットケア症例検討を行い、血流障害治療、潰瘍治療、全身状態の管理、足のケア教育に力を入れた。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○心臓センターでは、救命救急センターとの連携の下、心筋梗塞、狭心症等の疾患だけでなく、入院患者を含め虚血性心疾患や大動脈疾患等の心血管患者を対象とし、救命に寄与した。</p> <p>○平成28年8月から精神科身体合併症病棟（8床）を開設した（平成29年度実績：延入院患者2,398人、平均在院日数17.8日、新入院136人、利用率82.1%、平均単価47,792円）</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・がん治療については、「がん診療連携拠点病院に準じる病院」に認定されるとともに、県保健医療計画の「専門的ながん診療の機能を有する医療機関」に位置づけられており、がん登録・がん治療検討委員会等において、外来化学療法、緩和ケアチーム活動、がんリハビリテーション、がんカウンセリング等についての情報共有や意見交換を積極的に行い、がん治療への取り組みの充実を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○特に外科的手術を中心に、患者への負担の少ない安全な腹腔鏡下、胸腔鏡下での手術を積極的に行うとともに、外来化学療法センターにおいて引き続き外来化学療法治療を実施し、放射線治療が必要な患者に</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として、がん治療の専門性を最大限に活かし、多職種のスタッフの力を結集し、地域 	<p>放射線治療施設を有する市関連病院や市内の医療施設と連携して放射線治療を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「がん看護相談室」を継続し、がん患者及び家族に対する精神的支援や啓発活動を行うなど、多様なニーズに対応する ○前立腺がんについては、泌尿器科において手術支援ロボット（ダヴィンチ）を活用し、従来の手術より低侵襲で安全な手術に取り組む ○急性心筋梗塞については、循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療を行うとともに、心臓リハビリテーションの充実を図る ○糖尿病については、引き続き、糖尿病教室の開催等に取り組むとともに、糖尿病地域連携パスの運用による地域医療機関との連携を図る ○精神疾患については、各精神科病院から「こころの健康センター」経由で身体合併症患者を受け入れるほか、地域の専門病院との連携にも努める ○認知症鑑別診断を引き続き実施し、神戸市長田区認知症連携パスの運用も継続する ○リエゾン・認知症ケアチームが中心となり、リエゾン回診や院内カンファレンスを通じて病院全体として認知症や精神症状をもつ患者への対応力やケアの質の向上に取り組む <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域で求められている役割を果たす。特に、 	<p>については、市関連病院及び市内の放射線治療装置を有する施設と密接な連携を図りながら治療を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「がん看護相談室」を毎日実施し、化学療法を受ける患者や家族に対する副作用症状のマネジメントや意思決定への支援など、がん治療への精神的支援を積極的に行った。 ○手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用し、内視鏡手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図った（平成27年度の導入から平成29年度末までの実績：前立腺悪性腫瘍手術件数98件、胃切除手術件数7件）。 ○時間内の救急受入れ及び循環器内科医師の日当直日における時間外救急受入れを円滑に行うとともに、血管造影検査、血管内治療を積極的に実施した。また、心肺運動負荷試験装置（CPX）・心臓運動負荷モニタリングシステムを活用した外来での心臓リハビリテーションを開始した。 ○糖尿病合併症予防等の教育・啓発のため、引き続き、糖尿病教室を積極的に実施した（平成29年度末実績：開催回数10回）。また、神戸市医師会の発案により運用を開始した、病院と診療所が協力して患者の治療にあたるK o b e D M n e t（神戸糖尿病地域連携）において、累積で93診療所以上、484症例以上の連携実績をあげた。 ○精神障害者の身体合併症病床（4床）を活用し、各精神科病院から「精神保健福祉センター」経由で受入れを行ったほか、地域の専門病院との連携に取り組んだ。 ○神戸市長田区認知症連携パスの運用に積極的に関わり、認知症鑑別診断を引き続き実施した。また、認知症患者の地域での生活を支えるため、地域のケアマネジャー等を対象に、認知症対応能力研修を開催した。 ○リエゾン・認知症ケアチームとして、患者に対して積極的にリエゾン・認知症ケア回診を行い、精神症状の改善を図るとともに、治療に関わるスタッフへの心身の健康サポートに取り組んだ。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として、がん診療の中心的役割を担い、施設要件に即して、化学療法センターの拡張や薬剤師外来の新設等の診療体制やがん相談支援センターの運営等の相談業務体制の強化を図った。 				
--	--	---	--	--	--	--

<p>医療機関とともに患者・家族が安心して生活できる診療連携体制を整備・構築する。</p>	<p>がん治療については、地域がん診療連携拠点病院として、がん治療の専門性を最大限に活かし、多職種のスタッフの力を結集し、地域医療機関とともに患者・家族が安心して生活できる診療連携体制を整備・構築する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手術支援ロボット（ダヴィンチ）を活用し、泌尿器科において前立腺悪性腫瘍や腎がんに対し、より侵襲性が低く安全な手術に取り組む ○高度ながん治療と診断早期から緩和医療を提供することにより、がん患者のQOL（生活の質）、治癒率の向上を図る ○5大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下、患者の視点に立った、安心して質の高い医療を提供していくことを目指す ○手術だけでなく、更なるがん診断機能の向上を図るため、新たにPET-CTを導入するとともに、内視鏡センターにおける早期発見・治療、化学療法センターにおける最適ながん薬物療法、放射線治療部門における、各種放射線治療を提供することで、総合的ながん診療を実施していく ○薬剤師は、服薬の継続が困難な抗がん剤等を中心に薬剤師外来において服薬指導を適切に行う ○緩和ケア外来と緩和ケアチームにおいて、医師、看護師、薬剤師等多職種によるがん患者の症状コントロー 	<p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用し、内視鏡手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図った。また、平成 28 年度より腎がんへの適応も開始した（平成 29 年度実績：前立腺がん手術 45 件、腎がん手術 16 件）。 ○平成 27 年 5 月より緩和ケア病床（2 床）を設置し、緩和ケア外来や救急外来、地域の医療機関から、緊急にがん性疼痛等の苦痛症状の緩和治療が必要な患者を受け入れられる環境を整備した（平成 29 年度実績：緩和ケア病床延患者数 101 人）。 ○5 大がん地域連携パスを開始するにあたり、連携 3 区の医療機関向けに 5 大がんパスの説明会を兼ねて、合同カンファレンス「がん医療と地域連携」を開催する等、地域の医療機関との連携を垣根なく行うために地域医療課がパイプ役になりサポートを行った。 ○平成 27 年 10 月に 3 次元 CTWS を更新し、従来の冠動脈描出や肝臓解析に加えて、他の放射線装置画像との統合画像作成や、肝切除術や肺切除術、腎切除術を施行する際に 3 次元の描出画像を基に術前計画を立案することが可能となった。また、マンモグラフィ撮影装置をトモシンセシス機能付装置に更新し、より精緻な乳がん検査が行える体制を整えた。さらに、2 月には新たに PET-CT を導入し、更なるがん診療機能の向上に取り組んだ。 ○初めてがん化学療法を受ける患者等に対し、薬剤師が事前の副作用説明・対策を行うことで、患者の不安を取り除き、治療が円滑に行えるよう取り組んだ。また、副作用をモニタリングし、用量・用法の変更、支持療法の処方提案をすることで患者の副作用軽減を図った。 ○外来患者に対しては緩和ケア内科において症状緩和を、入院患者に対しては緩和ケアチームにおいて、がん疾病等の患者の円滑な転院・在宅支援及びがん患者の救急再入院の回避を図るとともに、地域がん診療連携拠点病院として地域連携を深めるための取り組みを引き続き行った。また、平成 28 				
---	--	--	--	--	--	--

	<p>ル、不安・不眠等の心理的な問題への対応、患者や家族の悩み相談等により、がん患者のQOLの改善に貢献する</p> <p>○県内初の国立がん研究センター認定がん相談支援センターにおいて、「認定がん専門相談員」による質の高い相談体制の充実を図るほか、がん患者への支援や情報提供を行い、がん患者サロン開催や暮らしの相談（就労支援）の導入に取り組む等、がん患者支援の強化を図る</p> <p>○急性心筋梗塞については、ホットラインを活用するとともに、引き続き循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療への対応を行う</p> <p>○糖尿病透析予防指導について、医師、看護師、管理栄養士が取り組み、体制の強化を図る</p> <p>○脳卒中については、ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を継続する</p> <p>○入院や疾患に伴って生じるさまざまな問題について精神科リエゾンチームによる支援や、認知症サポートチームによる支援を行う等、患者やその家族が安心して治療を受けることが出来るよう努めていく</p>	<p>年4月より緩和ケア専門医を招聘し外来の充実を図った（平成29年度実績：緩和ケア外来患者数2,085件、緩和ケアチーム介入件数3,471件）。</p> <p>○平成29年1月に認定を受けた国立がん研究センター認定がん相談支援センターにおいて、「認定がん専門相談員」による質の高いサービスを提供した。アピアランス支援に重点を置き、7月にウィッグや頭皮ケア等について講演や情報交換を行い、9月にアピアランスケア「ネイルケア」をテーマに患者サロンを開催した。また、がん患者の就労支援への取り組みとして、平成28年3月にハローワーク西神と就労支援協定書を締結し、支援を必要とする患者に適時適切な支援を行った（平成29年度実績：がん相談件数917件）。</p> <p>○急性心筋梗塞については、ホットラインの活用による該当患者をスムーズに受け入れる体制を継続するとともに、引き続き循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療を行った。</p> <p>○糖尿病患者や糖尿病腎症第2期以上の患者に対し、医師、看護師、管理栄養士が患者の病期分類、栄養指導、運動指導、その他の生活習慣に関する指導を行ったほか、広く市民向けに開催している「糖尿病教室」において指導・予防の啓発を行った。</p> <p>○脳卒中については、脳神経外科と神経内科が協力してホットラインの運用による救急患者のスムーズな受け入れ体制を継続するとともに、脳卒中連携パスを活用した地域医療機関からの受け入れを継続した。</p> <p>○精神科リエゾンチームを発足させ、せん妄や抑うつ症状などの患者に対し多職種チームにてケアを行うとともに、平成28年5月には高齢者・認知症サポートチームを発足させ、全国的にも増加している認知症患者に対し、身体疾患の治療を円滑に受け、安心安全な入院生活を送れるよう主治医や看護師等が協働して積極的に支援を行った。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 34: がん退院患者数／No. 35: がん患者外来化学療法数</p> <p>No. 36: がん患者放射線治療数／No. 37: 緩和ケア外来延べ患者数</p> <p>No. 38: がん患者相談受付件数／No. 39: 脳卒中退院患者数</p> <p>No. 40: 急性心筋梗塞退院患者数／No. 41: 糖尿病退院患者数</p> <p>No. 42: 精神・神経科が関わった救急入院患者数</p> <p>No. 43: 身体合併症受入延患者数／No. 44: 認知症鑑別診断数</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

中期目標

全ての医療現場において、医療に携わる全ての職員が、部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下で、チーム医療を実践するとともに、それぞれの専門性を発揮した医療を提供すること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・高齢化社会の下、高度複雑化する疾患や高度に進化した治療法に対応するため、あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。</p>	<p>・あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○心臓血管外科と内科とで、大動脈弁狭窄症やコロナリー（冠動脈）手術及び術後ケアに関する連携を強化する</p> <p>○下肢静脈瘤について、心臓血管外科が中心となり形成外科と皮膚科とで連携した診療体制を構築する</p> <p>○膠原病患者に対しては、総合内科を中心に関係各科が連携した診療体制を構築する</p> <p>○腫瘍内科においては、患者や診療科のニーズに合わせた横断的な腫瘍のための医療を提供していく</p> <p>○入院前または入院当初より、患者の病歴をはじめ身体的・社会的危険を評価するリスクアセスメントを行い、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組み、安全で安心な医療を提供する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○複数の診療科医師、看護師、コメディカルで構成するチームにおいて、</p>	<p>・あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、両病院においてチーム医療の推進に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○心臓血管外科に加え、循環器内科、呼吸器内科、また、患者の全身状態に応じて腎臓内科、消化器内科、神経内科等も治療に加わりチーム医療を行った。</p> <p>○下肢静脈瘤について、心臓血管外科が中心となり、形成外科及び皮膚科とも連携し、治療を行った。</p> <p>○膠原病については、総合診療科を中心に関係各科が連携し、治療にあたった。</p> <p>○腫瘍内科においては、消化器内科や外科等と連携することで、悪性腫瘍について診療科の枠を超えた横断的な医療を提供した。</p> <p>○入院前準備センターやデイサージャリーセンターにおいて、入院前のリスクアセスメントを実施した。看護師がリスクアセスメントの取得を行い、必要に応じて薬剤師や栄養管理士、医療ソーシャルワーカー等が介入し、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組んだ。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○複数の診療科医師、看護師、コメディカルで構成される各チームが定期的にミーティングを実施し、コミュニケーションを図ったほか、</p>	1	3	3	

<p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療を提供する。</p>	<p>定期的なカンファレンスで、コミュニケーションを図るとともに、事例検討等で情報交換を行い、患者へのより良い治療・ケアにつなげる</p> <p>○チームによる回診を定期的を実施し、患者を中心とした活動を積極的に行う</p> <p>○診療科医師，看護師，薬剤師等の連携により，入院前オリエンテーションを充実させ，患者の安心感・安全性の向上を図る</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○複数の診療科医師，看護師，コメディカルで構成するチームにおいて，定期的なカンファレンスやチーム回診でコミュニケーションを図るとともに，事例検討等で情報交換を行い患者へのより良い治療・ケアにつなげる</p> <p>○高齢者の肺炎患者等については，入院当初より，積極的なリハビリを実施することにより，廃用症候群等のリスクを軽減し，患者のADLを維持していく</p> <p>○診療科医師，看護師，薬剤師等の連携により，入院前オリエンテーションを実施し，患者の安心感・安全性の向上を図る</p> <p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し，より良い医療を提供する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○NST(栄養サポートチーム)，摂食嚥下チーム，褥瘡対策チーム，口腔ケアチーム，緩和ケアチーム，呼吸管理ケアチーム，フットケアチーム，</p>	<p>事例検討等の勉強会や情報交換を行い，患者へのより良い治療・ケアにつなげた。また，チーム医療推進部が，各チームの活動を発表する「チーム医療発表会」を開催(年1回)し，各チームの活動推進に取り組んだ。</p> <p>○院内ラウンドや市民向け教室の運営を行ったほか，定期的なカンファレンスや回診を行う等，患者を中心とした活動を積極的に行った。</p> <p>○入院患者の在院日数の短縮，患者の不安軽減，外来医師の負担軽減等を目的に平成26年度より外科系の診療科で実施していた入院前オリエンテーションについて，平成27年度より消化器内科・呼吸器内科においても全例実施し，他の内科系診療科について状況を見ながら順次拡大を行った(平成29年度：全内科系診療科で実施済み)。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○複数の診療科医師，看護師，コメディカルで構成される各チームが定期的にミーティングを実施し，コミュニケーションを図ったほか，事例検討等の勉強会や情報交換を行い，患者へのより良い治療・ケアにつなげた。また，チームの活動内容については，「新・チーム医療勉強会」を通して院内に広く周知し，情報共有を図った。</p> <p>○高齢者の肺炎患者等については，廃用症候群等のリスクを軽減し，患者のADLを維持するため，入院当初より，可能な限り早期のリハビリ介入を実施した。</p> <p>○入院前支援センターを新たに設置するとともに，6月より，5診療科から9診療科(内科系2科・外科系7科)に拡大し，入院前オリエンテーションを実施した(平成29年度実績：2,864件)。</p> <p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し，より良い医療を提供した。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○院内の多職種のメンバーで構成された各チームにおいて，専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践した。NST(栄養サポートチーム)では，症例検討(平成29年度実績：437件)や，栄養療法の普及活動として，勉強会，講演会を行った。CAPS(児童虐待防止チーム)，AAA</p>			
--	---	--	--	--	--

	<p>H I V / A I D S サポートグループ、せん妄ケアチーム、精神科リエゾンチーム、I C T (感染管理チーム)、C A P S (児童虐待防止チーム)、A A A (成人虐待防止チーム) による専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○入院診療計画書の特別な栄養管理の有無については、入院時に医師、看護師、管理栄養士等、多職種で確認する。また、特別な栄養管理の必要性の有無の基準を明確にするとともに、特別な栄養管理が必要な患者への介入を確実に行う</p> <p>○低栄養のリスクの高い患者の簡便なスクリーニング方法を構築し、入院時の栄養管理につなげる</p> <p>○院内の栄養管理体制の充実のため、管理栄養士の病棟担当の役割を強化し、各病棟のN S T サテライトチームの充実、医師、看護師、薬剤師等との連携を進める</p> <p>○N S T コアと各病棟でのN S T サテライトとが連携を強化し、N S T 加算算定の増額につなげる</p> <p>○栄養管理に関わるT N T (臨床栄養教育プログラム) 修了医師やN S T 専門療法士を増やしていく</p> <p>○リハビリテーションへの的確な移行時期を把握するため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と医師、病棟看護師との連携を引き続き実践していく</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○N S T (栄養サポートチーム)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、リエゾンチーム、糖尿病チーム、感染対</p>	<p>(成人虐待防止チーム) では、看護師・MSWの専門性を活かしながら対応策について議論を継続するとともに、虐待事例検討会を開催した。また、こども家庭センターとの連携のもと、虐待疑い事例に対する院内外のスムーズな連携及び手順の検討を行った(平成29年度実績: C A P S 報告症例件数472件、うち、こども家庭センターへの通報件数7件、こども家庭センターからの通報による受診依頼件数18件、A A A 報告症例件数18件)。</p> <p>○管理栄養士が入院時早期から介入し、医師や看護師とともに「入院診療計画書の特別な栄養管理の必要性」の有無の決定に関与した。また、特別な栄養管理が必要な患者に対し、確実に介入を行った(特別な栄養管理の必要性有の割合: 平成29年度平均28.0%)。</p> <p>○入院前準備センターでの確認や入院前栄養指導などを行い、低栄養または低栄養のリスクのある患者には早期に介入した。</p> <p>○各病棟のN S T サテライトチームは、病棟担当管理栄養士が多職種連携に関与することで院内の栄養管理体制の充実を図った。また、N S T 加算算定の増額につなげるため、N S T コアと各病棟でのN S T サテライトの連携を進めた(平成29年度実績: N S T 加算算定件数437件、N S T サテライトチームからN S T コアチームへの紹介数183人)。</p> <p>○栄養管理に関わる専門知識を持つ職員を引き続き育成した。平成29年度では看護師1名、薬剤師1名がN S T 専門療法士を取得した(平成29年度末T N T (臨床栄養教育プログラム) 修了医師21名、N S T 専門療法士13名(管理栄養士5名、看護師6名、薬剤師3名、臨床検査技師1名))。</p> <p>○早期離床を目指して、365日リハビリを提供するとともに、専従リハビリスタッフの配置を重症部門から一般病棟にも一部拡充(6階~8階)し、医師及び病棟看護師との連携をより一層強化することにより、適切なリハビリ介入時期の把握に取り組んだ。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○院内の多職種のメンバーで構成された各チームにおいて、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供に取り組んだ。</p> <p>○4月1日より小児アレルギーチームを新たに設置し、小児アレルギー</p>				
--	---	--	--	--	--	--

	<p>策チーム（ICT）、呼吸管理チーム、CPR（心肺蘇生）チーム、改善活動チーム等による専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○NSTにおいては、新たに部門システムを導入し、栄養不良の入院患者の抽出・評価や栄養改善に取り組み、早期の回復・退院を進める</p> <p>○リハビリテーションについては、各職種の連携により、土曜日リハビリテーション診療を含め、充実したリハビリテーションの提供を継続する （西神戸医療センター）</p> <p>○NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、呼吸ケアマネジメントチーム、精神科リエゾンチーム、ICT（感染対策チーム）、糖尿病療養指導支援チーム、認知症サポートチーム、ICLS教育推進チームによる専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○病棟での薬剤師業務を継続し、看護師の負担を減らすとともに、医療安全・患者サービスを向上させる</p> <p>○各職種の連携のもと、土曜・休日リハビリテーションを含め、充実したリハビリテーションの提供を継続する</p>	<p>疾患やその家族を医師・看護師・管理栄養士で連携をとりながら治療・支援を行った。</p> <p>○NST（栄養サポートチーム）において、勉強会及びコアスタッフミーティングを毎月1回開催し、栄養管理の観点からの治療向上に向けての検討を行った。また、医師がオーダーしやすいよう医療情報端末での注意喚起や、栄養管理室が中心となって入院患者の既往歴に応じた適切な特別食の提供行う等、栄養サポートチーム加算の取得に積極的に取り組んだ（平成29年度実績：462件）。</p> <p>○より効果的・効率的なリハビリテーションの実施のため、土曜日リハビリテーションを継続して実施した。また、地域包括ケア病棟の開設に合わせて体制を強化し、11階の入院患者に対して在宅復帰を目指したリハビリテーションを強化した。 （西神戸医療センター）</p> <p>○院内の多職種のメンバーで構成された各チームにおいて、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供に取り組んだ。また、平成29年度は「新・チーム医療勉強会」を開催し、院内スタッフに各チームの実績を紹介し、新しいメンバー確保に取り組んだ。</p> <p>○9月より新たに「排尿ケアチーム」を設置し、退院後の患者のQOLの向上に向けた新たな活動を開始した。</p> <p>○全病棟（ICU除く）への薬剤師の常駐を継続し、全ての患者の持参薬の鑑別から副作用や重複服用等の確認等を行い、患者サービスの向上や看護師の負担軽減に繋がった。</p> <p>○土曜日やゴールデンウィーク期間、年末年始等大型連休中にできる限り間隔を空けずにリハビリテーションを実施し、ADLの後退を防止するとともに、入院中の血液腫瘍により化学療法を実施する全患者に対してリハビリテーション介入をすることで治療効果の向上を図った。また、更なるリハビリテーションの拡充として、乳がん患者や透析中の患者に対するリハビリテーションの開始にむけた準備を行った。</p> <p>関連指標 No.45：薬剤管理指導（服薬指導）件数／No.46：栄養指導件数（個別）</p>				
--	--	---	--	--	--	--

		No. 47 : 栄養指導件数 (集団) / No. 48 : リハビリ実施件数 (運動器) No. 49 : リハビリ実施件数 (脳血管疾患等) No. 50 : リハビリ実施件数 (呼吸器) No. 51 : リハビリ実施件数 (心大血管疾患) No. 52 : リハビリ実施件数 (がん患者) No. 53 : リハビリ実施件数 (廃用症候群) / No. 54 : 口腔ケア実施件数				
--	--	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(4) 臨床研究及び治験の推進

中期目標	より多くの市民に提供できる医療となるよう、医療機器や新薬の開発への貢献や再生医療等の高度な医療の早期実用化に向けて体制整備の充実を図るなど、臨床研究及び治験を推進すること。なお、推進にあたっては、患者への十分な説明の下で行うとともに、安全性及び倫理性を十分に確保すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、様々な職種の参画又は他病院との共同研究も含め、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント(患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行ったうえで同意を得ること。)を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p>	<p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント(患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。)を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○臨床研究中核病院の要件を踏まえて治験・臨床研究推進に向けた体制、機能の充実に取り組む ○治験・臨床試験管理センターにおいて、データマネージメントスキルを有する職員を活用しデータセンターなどの環境の整備に努めるとともに、治験・臨床研究のさらなる推進・充実を図る ○院内講習会等を通じて臨床研究倫理 	<p>・各病院において、治験及び臨床研究を継続して積極的に推進した。また、実施にあたっては、患者への説明責任を徹底するとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行った。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先端医療センター病院の統合に併せてより一層治験・臨床研究の推進を図るため、11月1日に「臨床研究推進センター」を新設した。また、「臨床研究推進センター運営委員会」を新たに設置し、臨床研究推進センターの運営及び、臨床研究中核病院の準備に関する重要事項を審議した。 ○文科科研費を取得できるよう文部科学省認定の研究機関の指定を目指し、同省より3月29日に機関指定を受けた。 ○論文数を増やすため特定臨床研究を実施している研究者に対して個別にヒアリングを行い、進捗の管理を行った。また、治験・臨床研究の意識を高めるため、講演会及びセミナーを開催した。 ○治験・臨床試験管理センターについては、11月の先端医療センター病院の統合を機に、臨床研究推進センターへ体制強化し、脳神経外科、血液内科、呼吸器内科、腫瘍内科、神経内科、眼科等の治験とi P S臨床研究を支援した。 ○臨床研究推進センターにおける、データマネージメント機能を強化させるため、学術支援センターの統合について決定(平成30年度組織改正)し、データセンターを担う環境整備を図った。 ○公的研究費等の取り扱いに関する勉強会(3月)や、臨床研究に関する 	2	4	4	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央市民病院では、臨床研究中核病院を目指し、11月の先端医療センター病院との統合に併せ、臨床研究推進センターを新設し、臨床研究推進担当理事を配置するとともに、治験や臨床研究に関する講演会やセミナーの開催などに積極的に取り組み、新しい医療の開発を推進するための体制づくりを行った。

<p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データを下に、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また、論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。</p>	<p>についての啓発に努めるとともに、利益相反管理委員会において利益相反についての透明性の確保や適正な管理に取り組む</p> <p>○再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、先端医療振興財団や独立行政法人理化学研究所神戸事業所と連携し、治験及び臨床研究に取り組んでいく</p> <p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また、論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○学術支援センターにおいて、論文の書き方や統計解析のセミナーの開催、相談窓口の設置、ポスター作成、データ入力等、論文投稿や学会発表等の支援を行い、論文投稿や学会発表等の実績や意欲の向上を図り、医療の発展に貢献していく</p>	<p>院内講習会（5月、7月）を開催し、院内の研究者に対して利益相反管理についての意識付けをするとともに、臨床研究倫理についての啓発に取り組んだ。</p> <p>○国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）からの資金を基に、中央市民病院、大阪大学、京都大学 i P S 細胞研究所、理化学研究所の4者による共同体制で、加齢黄斑変性に対する i P S 細胞を用いた網膜移植の臨床研究を引き続き行った。</p> <p>○先端医療センター臨床研究支援部に薬剤師を1名（週1.5日）派遣し、治験・臨床研究推進体制の構築に向けた業務を行った。また、先端医療センターとの統合に伴い、治験・臨床試験を継承した。</p> <p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信するとともに、論文投稿や学会発表に各病院とも積極的に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○学術支援センターにおいて、研究立案から発表、論文作成に至る支援業務を実施し、臨床研修セミナーを開催した。</p> <p>【平成29年度実績】</p> <table border="1" data-bbox="1190 1110 2039 1749"> <thead> <tr> <th></th> <th>業務内容</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究計画立案支援</td> <td>学術研究アドバイザー相談</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎データ作成支援</td> <td>研究用データ入力</td> <td>2,051</td> </tr> <tr> <td>術野画像の取り出し・編集</td> <td>2,506</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">研究発表支援</td> <td>スライド作成</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>ポスター作成</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td>挿入用イラスト作成</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>挿入用動画編集</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>論文作成支援</td> <td>英語論文翻訳校閲</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他</td> <td>学会等主催データ入力</td> <td>12,287</td> </tr> <tr> <td>学会研究会開催支援</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>講習会等の開催</td> <td>臨床研修セミナー</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>○学術支援センターと西神戸医療センターに新設された学術研修部とで連携を図り、職員の資質向上に取り組んだ。</p> <p>関連指標</p>		業務内容	合計	研究計画立案支援	学術研究アドバイザー相談	91	基礎データ作成支援	研究用データ入力	2,051	術野画像の取り出し・編集	2,506	研究発表支援	スライド作成	29	ポスター作成	340	挿入用イラスト作成	4	挿入用動画編集	7	論文作成支援	英語論文翻訳校閲	165	その他	学会等主催データ入力	12,287	学会研究会開催支援	2	その他	45	講習会等の開催	臨床研修セミナー	12				
	業務内容	合計																																					
研究計画立案支援	学術研究アドバイザー相談	91																																					
基礎データ作成支援	研究用データ入力	2,051																																					
	術野画像の取り出し・編集	2,506																																					
研究発表支援	スライド作成	29																																					
	ポスター作成	340																																					
	挿入用イラスト作成	4																																					
	挿入用動画編集	7																																					
論文作成支援	英語論文翻訳校閲	165																																					
その他	学会等主催データ入力	12,287																																					
	学会研究会開催支援	2																																					
	その他	45																																					
講習会等の開催	臨床研修セミナー	12																																					

		No. 55 : 治験実施件数 / No. 56 : 受託研究件数 / No. 57 : 臨床研究件数 No. 58 : 論文掲載件数 / No. 59 : 学会発表件数				
--	--	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底（クリニカルパス及び臨床評価指標の充実等）

中期目標	より質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）の充実と活用に積極的に取り組むこと。また、電子化を推進し、並びにDPC（診断群分類別包括評価）による診療情報のデータを活用し、臨床評価指標などを設定し、及び分析することによって、医療の質の向上と標準化を図るとともに、患者に最適でより効果的な医療を提供すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。また、ICT化の促進等により、医療の質を継続的に管理できる体制を確立する。</p>	<p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○各診療科がクリニカルパスによる診療の評価やバリエーション分析を行い、診療内容を変更し、クリニカルパスの改定を行う</p> <p>○DPCを用いてコスト等の面からクリニカルパスを評価し、改善する。疾患ごとの入院期間を確認し、クリニカルパスの見直しを診療科に提案していく</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○DPCデータ分析を行い、院長ヒアリングや業務経営改善委員会等において、各診療科に向けて入院診療に関する改善提案等を積極的に行う</p> <p>○クリニカルパスについては、実状に合わせて追加・改定及び削除を行い、医療の標準化を進める</p>	<p>・各病院において、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用し、質の高い医療の提供に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○クリニカルパス大会（2月）を開催し、250名が参加して14診療科がパスの分析を行い、診療内容やパス改訂の評価など分析内容を深めた。クリニカルパスの評価数は増えてきており、分析の上、改定を行った（平成29年度実績：改定数延べ158件）。また、クリニカルパス運用徹底のため、全医師向けの講習会を実施するとともに、クリニカルパス運用時のガイドラインを電子カルテ端末上で参照可能にし、周知を行った。</p> <p>○DPC入院期間毎のクリニカルパス適用患者が電子カルテのトップ画面で確認可能となり、クリニカルパスの見直しを検討した。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○主要診療科についてDPC分析を行い、適切なコーディングを行うため、DPC保険対策委員会を毎月開催し、毎月の査定事例の詳細な検討や情報共有を行い、査定減対策を図った。また、包括から出来高となる薬剤や点数の改定、病名の付け方等、医師に対し周知を行った。</p> <p>○クリニカルパス委員会を毎月開催し、現状の把握とパス適用率向上に向けた進め方について検討するとともに、医療職への積極的な働きかけや、使用されていないパスの利用促進、DPCデータを用いた疾患別パスの</p>	1	3	3	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者に最適な医療を提供するため、運用講習会等を通じてクリニカルパスの充実と活用に継続して取り組んだ。 ・今後は、医療情報システムの共通化を検討し、市民病院機構全体でさらなる医療の質の向上と標準化を推進すべきである。

<p>・医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。</p>	<p>(西神戸医療センター)</p> <p>○院長ヒアリング等において，D P Cデータ等を参考に改善提案等を各診療科に向けて積極的に行う</p> <p>○クリニカルパスについては，実状に合わせて追加・改定，及び削除を行い医療の質の標準化を進める</p> <p>・医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○病院機能評価並びに卒後臨床研修評価の更新時の評価項目を踏まえ，引き続き医療の質の向上に取り組んでいく</p> <p>○医療情報システムの内部監査を年1回行い，医療情報システム運用の安全性の向上を図る</p> <p>○前年度の監査結果等を踏まえ診療録監査要綱を改訂し，診療録監査要綱に従い監査を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○病院機能評価並びに卒後臨床研修評価の評価結果等をもとに，改善の必要な事項に関して対策を実践し，医療の質向上に努める</p>	<p>提案を引き続き行い，パスの適用率の向上に取り組んだ。また，医事課で傷病別の診療構造を分析し，パスに適用可能な症例については，新しいパス作成の参考資料として各診療科に提示した。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○院長ヒアリングにおいて，診療科についてD P C分析を行い，改善提案を積極的に行った。</p> <p>○クリニカルパス小委員会を定期的に開催し，現状の把握と，パス適用率向上に向けた今後の進め方について検討した。各医療職への積極的な働きかけや，D P Cデータを用いた疾患別パスの提案を引き続き行った。また，使用されていないパスの利用促進や，D P Cデータを用いた提案を行うとともに，医事課で疾病別の診療構造を分析し，パスに適用可能な症例については，新しいパス作成の参考資料として各診療科に提示した。</p> <p>・各病院において，医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成25年度に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受け，すべての項目で概ね良好との講評を得，認定証の交付を受けたが，さらなる医療の質の向上を目指して，平成30年8月の更新審査受審準備に取り組んだ。また，N P O法人卒後臨床研修評価機構(J C E P)の認定病院に対する訪問調査を10月24日に受審し，概ね良好との講評を得，4年間の認定証の交付を受けた。</p> <p>○全49部署のうち病棟を中心に18部署について，医療情報システムの内部監査を1月に実施し，指導項目に対する改善を指導した。監査結果については，2月に院長へ報告を行った。</p> <p>○10月に診療録の質的監査を実施し，12月に診療情報委員会にて結果報告を行った。また，前年度の監査結果を踏まえ，診療録記載に関する注意事項を院内周知するとともに，診療情報監査規程を見直し，改訂を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を平成26年2月に受審し，平成26年5月に5年間の更新認定を受けた。また，療養環境の整備に加え，各職種が集まり事務処理面における課題についても点検・検討を重ね，感染対策マニュアル等の各種マニュアルの改訂を行うとともに，カルテの記載の仕方を統一する等の事務</p>				
---	---	--	--	--	--	--

<p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図る。 <p>医療情報の共有化を進め、市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行う。</p>	<p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度に受審した病院機能評価の結果等の外部評価をもとに、必要な事項は改善し、医療の質向上に努める <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを含む医療情報システムの更新基本計画を基に、平成29年度からの更新を進める CI（臨床指標）・QI（医療の質評価指標）について定期的な検討会で分析内容を検討した上で、改善策を講じ、改善結果をデータで確認する 診療補助や学術研究のための診療情報の2次利用について、費用削減の観点から院内開発を進める。 <p>医療情報の共有化を進め、市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 市関連病院を中心とした医療情報システムの相互閲覧を検討する 	<p>改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO法人卒後臨床研修評価機構の認定施設登録について、平成28年6月30日に訪問調査を受審し、概ね良好との評価を受け、2年の施設認定を受けた（平成28年8月1日～平成30年7月31日）。また、臨床研修の基本理念をベースに臨床研修プログラムの改訂及び診療科毎の研修プログラムの見直しを随時進め、引き続き臨床研修体制の向上に取り組んだ。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を受け、すべての項目について概ね良好との講評を得、認定証の交付を受けた。また、2月に「認定期間中の確認」を実施した。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療情報システムについて、各ワーキンググループで運用を検討し、更新に向けての準備を進めた。基幹システム、物流管理システム、生理・脳神経検査部門システムの入札を実施し、構築ベンダを決定した。また、PACSの構築が5月に完了し、9月に切り替え作業を終了させ、新PACSの稼働を開始した。 CI（臨床指標）については、平成28年の診療実績を各診療科部長へ報告し、ホームページへの掲載指標を確認（4～5月）したうえ、CI検討会で公表指標の承認をした。また、QI（医療の質評価指標）プロジェクトワーキングにおいて、事例報告、分析内容の検討を行い、改善策を講じた。 診療現場の多様なニーズに柔軟に対応するため、診療情報データを活用したツールを院内で開発した（平成29年度実績：新規7件、改造28件）。 <p>市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行うため、医療情報の共有化について検討を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 西市民病院との医療情報相互閲覧システムを構築後、運用細則及び運用管理規程に準拠したマニュアルを作成し、4月より運用を開始した。また、神戸アイセンター病院との医療情報相互閲覧システムを構築し、12月より稼働させた。 県立こども病院との医療情報相互閲覧システムの運用を実施した（平成 				
---	---	--	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを中心とした総合的な医療情報システムを円滑に導入する。また、導入により医療の質向上と安全確保を図るとともに、患者へのきめ細かい情報提供や経営の効率化にも繋げる。 <p>電子カルテを中心とした医療情報システムの導入により有用な臨床評価指標を設定し、医療の質の改善及び向上を図る。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを中心とした病院総合情報システムにより、医療の質・安全の確保を図り、患者サービスの向上に努める。また、管理運営支援・経営支援として活用し経営の効率化に繋げる。 	<p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ及び部門システムを中心に院内ICT化を促進する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテの円滑な運用と医療情報システムの充実により、医療安全や患者サービスの向上、業務の効率化を図る 年1回以上情報セキュリティに関する研修を行うなど、情報セキュリティ対策を推進する 臨床評価指標を更新するとともに、電子カルテ導入によるデータの蓄積状況を踏まえ、より有用な指標の設定に向けた検討を行う <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを中心とした病院総合情報システムにより、医療の質・安全の確保を図り、患者サービスの向上に努める。また、管理運営支援・経営支援として活用し経営の効率化に繋げる。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを含む医療情報システムの更新に向けての準備を進める 電子カルテの円滑な運用と医療情報システムの充実により、医療安全や 	<p>29年度実績：こども病院から中央市民病院へ紹介：2件。中央市民病院からこども病院へ紹介：4件)。</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ及び部門システムを中心に院内ICT化の促進に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度末に電子カルテを導入し、平成27年1月に入院カルテ、3月に外来カルテの運用を開始した。医療情報委員会や電子カルテ部会において、部門システムの新規導入や新たな機能を付与した更新、電子カルテとの連携強化についての必要性・優先順位を順次検討し、業務の効率化を図った。また、リース期間の終了に伴い、平成28年12月に医療用画像管理システム(PACS)を更新し、データ移行や運用を円滑に行った。 情報セキュリティ対策については、平成26年度に策定した「情報セキュリティ関係規程集」を基に、情報セキュリティの強化を図った。また、患者の診療情報の漏洩を防ぐため、マニュアル作成や安全対策についての検討を開始し、院内での情報セキュリティ監査についても今後の実施計画を策定して順次実施する。 中央市民病院との連携を一層推進するため、カルテの相互閲覧について運用を開始した。 患者数や病床利用率等の基本情報や退院患者統計データである臨床評価指標のホームページへの掲載を継続した。今後、電子カルテのデータの蓄積状況も踏まえ、より有用な指標の設定についても検討を行う。 診療データの遠隔保存のため、政府の健康・医療戦略等に基づくプロジェクトである「千年カルテプロジェクト」へ引き続き参加した。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを中心とした病院総合情報システムにより、医療の質・安全の確保を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを含む医療情報システムの更新(ハード部分)に向けて、具体的な更新計画策定の準備を進めた。 患者給食システムにおける禁忌情報の充実等、システム化や内容の充実によりヒューマンエラーのリスクを低減させ、引き続き医療安全や患者 				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>患者サービスの向上，業務の効率化を図る</p> <p>○年1回以上情報セキュリティに関する自主監査を行うなど，情報セキュリティ対策を推進する</p>	<p>サービスの向上，業務の効率化を図った。</p> <p>○従来から院内全職員及び院内業務委託職員に対して，情報セキュリティに関する自主監査を実施していたが，平成29年度より研修を実施し（受講率100%），情報セキュリティ対策を推進した。また，情報セキュリティ監査についても，実施計画を策定のうえ，10月に実施した。</p> <p>関連指標</p> <p>No.60:クリニカルパス数（種類）</p> <p>No.61:クリニカルパス適用率（%）</p>				
--	---	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化

中期目標	<p>医療の質の管理を徹底するため、引き続き組織として医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）の醸成に努め、医療の全過程に関して、全ての職員が意識して、インシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に傷害を及ぼした事例）に関する情報の収集及び分析を行い、その結果を反映させた上で、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むなど、医療安全対策を徹底すること。</p> <p>また、医療関連感染（院内感染）についても、職員への教育及び啓発を徹底するなど、院内感染対策を確実に実践すること。</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。</p>	<p>・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○院内シミュレーション研修の充実 各種医療技術の実施にあたっては、できるだけシミュレーション用の器具や人形を用いた研修を実施する。必要な研修を終えたものには資格証を発行し、その認証によって初めて侵襲的な処置の実施を許可する。ただし各診療科独自の専門的手技は除外する</p> <p>○全職員年2回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う。講演会を含め、年間の計画を作成・公表し、各々の職員が計画的に受講できるように働きかける。</p> <p>○医療安全教育のためのケーススタディ</p>	<p>・各病院において、患者の安全を最優先に万全な対応がとれるよう、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化の醸成に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○CVC（中心静脈カテーテル）研修、胸腔ドレーン研修等のシミュレーターを使用した研修を実施した。また、平成28年度に移乗介助時に起こった骨折事例を受け、リハビリテーション技術部の協力のもと、看護部主催の移乗介助のシミュレーション研修を8回実施し、今後も継続して行う予定である。</p> <p>○全職員が医療安全研修を年2回以上受講することを目標とし、研修を実施した。4月に医療ガス講習会を実施（275名参加）したほか、抗がん曝露対策研修（267名参加）、MRI高磁場体験（計3回実施、505名参加）等、医療安全に関する様々な研修会を年間通じて継続的に実施（計154回）し、職員の医療安全に対する意識向上に取り組んだ。</p> <p>○実際に起きた過去の医療事故に基づいたeラーニングを受講することによ</p>	2	3	3	

	<p>イ e ラーニングをベースとした機材を活用し、医療安全研修の一環とする</p> <p>○改定が必要なマニュアルに関しては医療安全管理会議等で討議し、決定事項について医療安全リーダーを通じて各部署の職員へ周知する</p> <p>○医療安全のためのチームワーク推進活動である「T e a m S T E P P S」に関しては、効果的な研修方法や時間を検討し、実施していく</p> <p>○R R S（院内救急対応システム）を全部署で展開できるようになってきたため、院内C P Aの発生件数等で評価し、今後の活動に繋げる</p> <p>○医療安全管理室・薬剤部との連携による院内講習会の開催により、医薬品適正使用の推進を啓発する</p> <p>○インスリン療法に関する研修を医師・看護師・薬剤師を講師として企画し、実施する</p> <p>○内服薬管理について、入院を機に処方内容を総合的に評価したうえで調整し内服薬の整理（減量）を薬剤師提案で管理していくことが出来ないか検討する</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○医療安全管理室を中心として医療安全集中管理ソフトを活用し、インシデント事例の迅速な収集と共有を図るとともに、要因分析に努め、再発防止及び発生予防に取り組む</p> <p>○医療安全管理委員会を定期的に開催するとともに、要点を業務経営会議で報告することにより、各診療科・各部門に周知する</p>	<p>り、医療事故を動画で疑似体験し、テストや解説で理解を深めた（延べ3,172名受講）。</p> <p>○医療安全マニュアル、各科当直マニュアル、南館診療マニュアル、人工呼吸器装着患者搬送マニュアルチェックリスト等の改定を行い、各部署の職員へ周知した。</p> <p>○ワークショップを中心とした参加型研修を計9回実施した（受講者数：154名）。神戸市内の病院でもT e a m S T E P P Sが取り入れられ、中央市民病院が共催で研修を行う「チームS T E P P S近畿」のセミナー参加者も増加しており、引き続き地域の中心となって取り組んでいく。</p> <p>○看護師だけでなく、コメディカルもR R S（院内救急対応システム）を起動できるようになってきており、引き続きブラッシュアップ研修や医師のシミュレーション研修を実施し、患者の安全を守る体制整備を図った（平成29年度実績：C P A件数22件、R R S起動件数98件）。</p> <p>○初期研修医1年目、新規採用看護師の必須研修として、インスリン療法に関する研修を開催した（計3回、471名参加）。また、WEBMINKに「インスリン指示の注意点」を継続して掲載し、インスリンの指示の出し方の統一を図っており、インスリン誤投与が減るよう仕組みづくりを行った。</p> <p>○平成28年度診療報酬改定において、薬剤総合評価調整加算が新設され、医師が内服薬を調整する際に薬剤師が共同で業務にあたる必要性が求められ、積極的にポリファーマシー対策に取り組んだ（平成29年度実績：薬剤総合評価調整加算算定件数68件）。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○医療安全集中管理ソフト「セーフマスター」を継続して活用し、迅速な情報収集を行うとともにとともに、週1回の医療安全管理室での事例検討会において、インシデント・アクシデントに関して討議し、情報共有等を行った。また、医療安全対策専従看護師を中心に、医療安全管理室メンバーによるインシデント・アクシデント調査・分析を実施した。</p> <p>○医療安全管理委員会を月1回定期的に開催するとともに、その要点を業務経営会議で詳細に報告することにより、各診療科・各部門にも周知を行った。また、医療安全管理委員長をトップとしたランチミーティングを週1回行い、個別事例の振り返りを行った。さらに、1月より診療科毎に医師1名の参加を呼びかけ、医師への啓発の強化を図った。</p>			
--	---	---	--	--	--

<p>・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組む。</p>	<p>○病院職員全体を対象とした，医療安全研修会を実施する</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○全職員年2回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う</p> <p>○改定が必要なマニュアルに関しては医療安全推進委員会等で討議し，決定事項について各部署の職員へ周知・徹底する</p> <p>○医療安全集中管理ソフトを活用し，迅速な情報収集を図るとともに，分析にも努め，再発防止及び発生予防に取り組む</p> <p>○医療安全推進委員会作業部会を定期的に開催するとともに，要点を病院運営協議会で報告することにより，各診療科・各部門に周知する</p> <p>○人工呼吸器等，患者の生命維持に直結する医療機器等が更新等になった場合に，使用する職員に対して，操作研修や使用方法等のマニュアル配備を徹底することで，誤操作等の事故を防止する</p> <p>・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者・医療従事者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者・医療従事者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組む。</p>	<p>○病院職員全体を対象に，アナフィラキシーショック，人工呼吸器の取り扱い，平成29年度インシデント報告の現況，MR講習会等のテーマで，医療安全研修会を定期的に開催（年15回）し，積極的な医療安全対策に取り組んだ。</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○引き続き，全職員対象の医療安全研修を企画し，実施した（第1回：12月，第2回：3月）。</p> <p>○インシデント報告を機にマニュアルの改定が必要な際は，医療安全推進委員会等で討議し，決定事項について各部署の職員へ周知・徹底を図った。</p> <p>○医療安全集中管理ソフト「セーフマスター」を活用し，迅速な情報収集を行うとともに，週1回医療安全推進室でコア・ミーティングを開催し，インシデント・アクシデントに関して調査・分析及び討議を行った。</p> <p>○医療安全推進委員会作業部会を定期的に開催するとともに（計12回），病院運営協議会で報告し，各診療科・各部門に周知を行った。</p> <p>○人工呼吸器，生体情報モニタ，心電計，内視鏡電気メス，持続吸引器等の医療機器等操作研修を実施し，誤操作による事故の防止を図った（平成29年度実績：医療機器等操作研修回数91回）。</p> <p>・各病院においてインシデント及びアクシデントについての報告を強化しその内容を分析することにより再発防止に取り組んだ。特に，各病院とも医師からのインシデント報告件数を増やすため，インシデント報告の必要性について周知徹底をして報告促進に取り組んだ。</p>				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全ニュースや注意喚起文を発行するとともに、他病院での医療事故報道も含め、関連事項に関する研修会を企画し、実施する ○インシデントレポート提出促進を行い、安全文化の醸成を図る。特に、医師からのインシデントレポート提出促進を図るため、他職種からのインシデントレポートで医師の関与が大きい事例等は、医療安全管理室から直接医師へレポート提出を依頼する ○レポート提出にあたっては、各科で振り返ってもらい医療の質改善を図るきっかけとするため、従来から定められている事例報告に加え、合併症報告基準を定め、提出の促進を計画する ○提出されたレポートについて、カルテ記録、指示内容などを確認して対応するとともに、必要時は事実確認を行うため現場視察により、問題点を明確にしたうえで、毎朝の医療安全ミーティングで改善策を検討する ○アクシデント報告については、報告会を開催し、医療過誤の有無、改善対策について検討する ○院内事故調査制度について、中央市民病院医療安全会議で決定した院内事故調査の方針に基づいて、院内全死亡・死産例に対して対応する <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○有害事象の共有、再発防止、医療事故の発生予防のために、安全管理ニュースレターを発行し、職員への周知・徹底に努める 	<p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理会議、医療安全リーダー会、看護部安全対策委員会、看護部セーフティーマネジメントナース会等でインシデント事例を共有し、多職種で改善策を検討した。また、その結果を各部署で報告し、事例の共有と注意喚起を行った。 ○医師からのインシデントレポート提出促進を図るため、他職種からのインシデントレポートで医師の関与が大きい事例等は、医療安全管理室から直接医師へレポート提出を依頼した（他職種からのインシデントレポートで医師に提出を依頼した件数：14件）。平成29年度において、医師からのインシデントレポート提出割合は7.4%（前年度比+1.0%）であった。 ○医師のレポート提出に関し、平成28年12月からは明らかな合併症であっても一定の基準（侵襲的な外来検査・処置後の緊急入院、同意書で十分説明しなかった合併症等）を設定して自主的に報告することを取り組み、レポート提出促進を図った（合併症報告基準で報告されたレポート件数98件）。 ○提出されたインシデントレポートについて、医療安全ミーティングにおいて、カルテ記録を確認し、医師の指示、指示コメント、看護記録等インシデント報告になる内容の確認を行い、看護計画や転倒転落アセスメント等を確認してからコメントを入力し、必要時は医療安全管理室がコメントを確認した。 ○医療安全ミーティングにおいて、多職種で改善策を検討することが望ましい事例に関しては、アクシデント報告会を開催し、事例検討を行った（計47回）。 ○院内死亡事例について、全例医療安全管理室で入院から死亡退院までの診療録を1次検証として確認を行い、その中で2次検証が必要な事例（平成29年度実績：9例）に関しては、検証会を実施した。 <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全管理ニュースレターを適宜発行し、有害事象の共有化、再発防止、予防の徹底を図った。 			
--	--	--	--	--	--

<p>・医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。</p> <p>・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。</p>	<p>○引き続き、医師等からの自発的なインシデント報告を安全管理ニュースレター等で促すとともに、報告事例の改善対策について検討する (西神戸医療センター)</p> <p>○注意喚起文を発行するとともに、他病院での医療事故報道も含め、関連事項に関する研修会を企画し、実施する</p> <p>○アクシデント報告については、症例検討会を開催し、医療過誤の有無、改善対策について検討する</p> <p>・医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○公表にあたっては、引き続き外部委員、中央、西、西神戸医療センター及び神戸アイセンター病院を交えた市民病院間医療安全会議において検討を行い、信頼性と透明性の確保に努める</p> <p>・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室やリンクナースを中心に、効率的な感染対策への取り組みを進める</p>	<p>○平成 28 年度より、研修医が医療安全委員会に委員として参加し、積極的にインシデント報告を行う重要性を周知した。また、平成 30 年 1 月からは週 1 回のランチミーティングに毎月医師が交代で参加し、医師等からの自発的なインシデント報告を促すよう取り組んだ。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○実際のインシデント等への対策として注意喚起文やレターを適宜発行するとともに、関連事項について研修内容に盛り込む等、職員への啓発を図った。</p> <p>○医療安全コア・ミーティング(計 49 回)及びアクシデント報告会(計 17 回)を開催し、改善対策等について検討を行った。また、院内の医療安全管理指針においてインシデント及びアクシデントの報告のみならず、ヒヤリ・ハット事例や合併症の報告まで求めるとともに、事例に対して報告者だけでなく関連当事者にもレポート提出を促した。</p> <p>・医療事故が発生した場合には、公表基準に基づき公表し、信頼性と透明性の確保に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○四半期ごとに市民病院間医療安全会議を開催し、公表基準に基づき、医療事故について公表を行った(包括公表件数:中央市民病院 2 件,西市民病院 1 件)。</p> <p>・各病院において、感染管理医師、感染管理看護師を中心に、研修会や各種会議、院内メール等を活用し、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンド等を実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行った。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○感染管理専従看護師(ICN)を 2 名配置し、感染予防教育、各種サーベイランス(手術部位感染、血流感染、人工呼吸器関連感染、尿路感染、手指消毒使用量と遵守率調査等)と対策立案、感染症の発生事例対応等を行い、効率的な感染対策への取り組みを進めた。</p>				
---	---	--	--	--	--	--

<p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や講演会を適宜実施し、院内全ての従事者に対して医療安全と感染症及び感染防止に関する正しい知識の維持向上を図る等、教育を充実する。また、医療事故の再発防止や院内感染の予防対策が確実に実行できるように体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○標準予防策，接触感染対策を全職員が実践できるように研修を行い，感染情報を全職員と共有し，耐性菌の検出率を減少できるように，体制を整える <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室を中心に，院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う <ul style="list-style-type: none"> ○標準予防策，接触感染対策を職員が実践できるように研修を行い，感染情報を院内で共有し，耐性菌の検出率を減少できるよう努める <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室やリンクナースを中心に，院内感染防止のため定期的にラウンドを行い，院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う <ul style="list-style-type: none"> ○標準予防策，接触感染対策を職員が実践できるように研修を行い，感染情報を全職員と共有し，耐性菌の検出率を減少できるように，体制を整える <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品及び医療機器の安全確保のため，安全に関する情報の的確な提供・管理体制の充実を図る。また最新の医療薬学に基づいて患者中心の医療に沿った薬物治療を提供するとともに，職種間の連携を図りながら， 	<ul style="list-style-type: none"> ○各々の職種に対して感染管理研修を実施し，ケア前後の手指衛生や適切な防護具の着脱，針刺し・血液曝露対策等の感染管理教育を実施した。また，ICTメンバーによるラウンドを実施したほか（1回/週），サーベイランスラウンドを実施し（2回/週），薬剤耐性菌，術後創部感染，血流感染，人工呼吸器関連肺炎，尿路感染の発生率とアウトブレイクの早期発見を図った。サーベイランス結果については，関係部署にフィードバックを行ったほか，必要に応じて関係部署に介入を行い，運用の確認や指導を行った。 <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染管理認定看護師（C N I C）の専従配置を継続し，感染制御医師（I C D）を室長とする感染管理室を中心に，耐性菌対策，流行性疾患対策等に取り組んだ。I C D，C N I C，薬剤師，臨床検査技師による院内ラウンドを週1回実施するとともに，手指衛生のタイミングラウンド（週2日）や輸液調剤・薬品管理ラウンド（月6回），胃腸炎やインフルエンザ等の有症状者ラウンドを適宜実施した。また，平成28年度より薬剤耐性菌検出時の細菌検査室からのF A X通知を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ○感染制御のための知識・技術の周知を図るため，院内を対象とした研修会及び院外も対象に含めたオープンカンファレンスを実施（平成29年度実績：実施回数：35回，延参加人数：1,021人）したほか，必要に応じて部署ごとに講習会を実施した。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTメンバーでラウンドを計画・実施（1回/週）するとともに，感染管理認定看護師の専従配置を継続し，感染制御医師を室長とし，感染管理認定看護師，感染制御認定薬剤師・感染制御認定臨床微生物検査技師を配置した感染防止対策室を中心に，感染防止や新興感染症対策に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ○感染制御のための知識・技術の周知を図るため，院内を対象とした研修会を実施（計120回）するとともに，必要に応じて部署ごとに講習会を実施した。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品情報管理室（D I 室）では，各製薬企業等からの最新情報の収集・評価に努め，院内に最新の医薬品情報提供を行った。 			
---	--	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の計画的更新及び保守による安全管理の徹底と医療機能の確保を図るとともに、薬剤師の病棟配置による医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。 	<p>医薬品適正使用の推進と医療の安全性の向上を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬剤部D I（医薬品情報）業務の充実を図り、院内への医薬品情報（医薬品安全性情報、副作用情報等）提供を行う。また、院内で発生した副作用情報については、引き続き迅速に情報収集し、医薬品医療機器総合機構（PMDA）への報告を行う ○各病棟に薬剤師を常駐させ、入院患者に対する持参薬の確認等を行うことで、適正な薬物治療実施のサポートに努める。また、集中治療室、救急部門を含めた全病棟で薬剤管理指導のより一層の充実に努め、安全性の向上を図る。さらに、各病棟の担当薬剤師を固定化することで病棟スタッフとのコミュニケーションや患者の病態把握を充実させ、処方提案を実践する ○薬剤師は手術室・デイスার্ジャーセンター等の中央診療部門において、麻薬、麻酔薬、向精神薬を管理し、麻酔医の負担軽減や適正な在庫管理を行う ○薬剤師は外来がん患者に対する医師診察前予診による服薬支援等、薬剤師外来を活用した患者指導の充実を図ることで、抗がん剤投与に伴う安全性の確保に努める <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の計画的更新及び主要機器の保守等、安全管理の徹底と医療機能の確保を図る。また薬剤師の病棟配置による医薬品管理、処方監査、調剤及び与薬における安全管理を徹 	<p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医薬品情報管理室（D I室）では、PMDAメディアナビや各製薬会社からの最新の情報を収集し、必要に応じて病棟薬剤師や院内スタッフに情報提供を行うとともに、院内スタッフからの医薬品に関する問い合わせに対応した。また、院内で発生した副作用情報については、PMDA又は製薬企業への情報提供に協力した（平成29年度実績：PMDAメディアナビからの情報収集件数225件、院内スタッフからの医薬品に関する問い合わせ件数2,848件、PMDA又は製薬企業への情報提供11件）。 ○各病棟に原則1名、薬剤師が常駐し、病棟薬剤業務を継続実施した（平成29年度実績：薬剤管理指導件数25,694件、病棟薬剤業務実施加算1：36,300件、加算2：16,414件）。 ○手術室にサテライトファーマシーを設置して薬剤師が常駐し、麻酔薬、筋弛緩薬、向精神薬の入ったリアルタイム薬品管理装置をすべての手術室に導入し、常時薬品管理を行った（平成29年度手術室サテライトファーマシー業務量実績：手術件数12,761件、麻酔科関与（麻薬件数）6,864件）。 ○薬剤師外来及びがん患者指導管理料の算定を継続し、支持療法に関する処方提案をはじめ、患者の精神的なフォローを実施し、外来経口抗がん剤治療の安全性、有効性の向上に寄与した。また、抗がん剤自動調製ロボットを平成29年3月に仮稼働させ、平成29年度より本格稼働を開始した。 <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な医療機器の保守契約等を徹底し、定期点検や故障時の至急対応を行い、安全管理の徹底を図った。また、医療機器の計画的な更新を行うため、病院全体の医療機器全般において、故障や修理の状況等、臨床工学技士や医師から頻繁に情報を収集し、医療機能の確保を図った。 				
--	--	---	--	--	--	--

<p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント事例を分析して院内で共有し、医療安全に対する知識を高めるとともに、医療機器の管理を徹底することにより安全文化の醸成を図る。 ・院内感染防止のため定期的にラウンドを行い、感染対策室を中心に防止策の策定等の感染コントロールを行う。 	<p>底する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全病棟への病棟薬剤師の配置を継続し、病棟での薬物治療の安全管理を徹底するとともに、患者サービスを向上させる ○注射薬について、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続するとともに、患者誤認や投薬誤りを防止する三点認証システムの円滑な運用を継続する ○「入院前お薬確認外来」の充実により、入院前に常用薬のチェックを行うことで、より安全な医療を提供する ○がん患者に対して化学療法やその副作用等について薬剤師による説明を行い、患者サービスを向上させる <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の計画的更新及び主要機器の保守等、安全管理の徹底と医療機能の確保を図る。また薬剤師の病棟配置による医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。 ・感染防止対策室を中心に定期的なラウンドを行うことで、院内感染防止対策について啓発していく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全病棟への病棟薬剤師の配置を継続し、病棟での薬物治療の安全管理を徹底するとともに、患者サービスを向上させる ○入院前に持参薬等のチェックを行うことで、より安全な医療を提供する ○N95 フィットテスト等感染予防方法について定期的に指導すること 	<p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全病棟への薬剤師の配置を継続し、薬剤師から医師への処方提案を行い、医薬品の適正使用に寄与する等、医療安全・患者サービスの向上に積極的に取り組んだ。また、病棟での医薬品管理を徹底するため、患者の処方・注射の内容確認から薬の実際の使用についても注意し、病棟での薬物治療の安全性を高めた。 ○注射薬の払い出しについて、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続し、週末も含めて毎日行うことで病棟での注射薬混合の安全性を高めた。また、注射薬払出における患者誤認や投薬誤りを防止するため、患者・看護師・注射薬を照合する三点認証システムによる運用を継続して行った。 ○平成 28 年 3 月より、抗凝固剤など手術前に中止すべき薬剤を入院前にチェックし、予定手術の延期を防ぐとともに、入院後の服用薬の安全管理をより高めるため、薬剤部にて「入院前おくすり確認外来」の運用を順次拡大した。 ○外来化学療法センターにおいて、化学療法やその副作用等について薬剤師が文書による説明を行い、患者サービスの向上を図った。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、経年劣化の機器の更新や需要の高い機能を有する機器を導入するとともに、主要機器の保守や点検をきめ細かく実施することで、安全管理の徹底と医療機能の確保を図った。また、病棟薬剤師配置を継続し、医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底した。 ○1回/週、ICTメンバーでラウンドを計画・実施するとともに、院内各部署に対して感染防止や新興感染症対策の啓発を行った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全病棟（ICU除く）への薬剤師の常駐を継続し、全ての患者の持参薬の鑑別から副作用や重複服用等の確認等を行い、患者サービスの向上に繋げた。 ○抗凝固剤など手術前に中止すべき薬剤を入院時にチェックし、予定手術の延期を防ぐとともに、入院後の服用薬の安全管理をより高めるため、薬剤部にて持参薬のチェックを引き続き実施した。 ○N95 フィットテストや手洗研修を実施するとともに、各種ワクチン接種を実施し、職業感染対策を積極的に取り組んだ。 				
--	---	--	--	--	--	--

	<p>で、引き続き職業感染対策を積極的に行う</p>	<p>関連指標</p> <p>No. 62 : 医療安全委員会等開催回数／No. 63 : 医療安全研修等実施回数</p> <p>No. 64 : インシデントレポート報告件数</p> <p>No. 65 : インシデントレポート報告件数うちアクシデントレポート報告件数</p> <p>No. 66 : 感染症対策委員会等開催回数／No. 67 : 感染管理チームラウンド回数</p> <p>No. 68 : 感染管理研修等実施回数</p>				
--	----------------------------	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底

中期目標	市民病院としての使命を適切に果たすため、医療法（昭和23年法律第205号）をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護や情報公開に関しては本市の条例に基づき適切な対応を行うなど、行動規範と倫理を確立し、社会的信用を高めることで、市民から信頼される病院となるよう努めること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 市民病院としての使命を適切に果たし、市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和23年法律第205号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底する。 法令及び行動規範遵守の重要性を全職員が認識及び実践するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和23年法律第205号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンス推進本部を中心に、コンプライアンスの徹底のための取り組みを継続して実施する ○コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践することを目的として、職場内研修や新規採用職員研修・フォローアップ研修等の各階層における研修において、コンプライアンスやサービス事故防止策等を取り入れた研修を実施する ○監事や会計監査人による監査に適切に対応するとともに、自主監査や情報セキュリティに関する監査を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが関係法令の遵守を徹底するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンス推進本部会議を4月に開催し、平成28年度の取組状況について報告を行うとともに、自主監査の強化等、平成29年度の取り組み方針を決定した。また、理事長通知により、綱紀粛正及び服務規律を徹底した。 ○コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践するために、新規採用職員研修、中堅職員研修、主任看護師研修、看護師長研修、採用3年次研修及び全職場において、コンプライアンス研修を実施した。 ○平成28年度決算監査については、法令に基づく会計監査人による監査及び監事監査規程に基づく監事による会計監査等を実施し、概ね適正との結果を6月の理事会で報告を行った。今後も、引き続き適正な業務執行に努めていく。 ○情報セキュリティについては、第1回情報セキュリティ委員会（6月）において実施計画を決定し、各病院及び法人本部において情報セキュリティ監査を実施した。 ○4月に中央市民病院及び西市民病院、法人本部の自主監査（決算監査）を実施した。 	2	3	3	

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

中期目標	患者のニーズを適切に把握し、インフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）や診療等の待ち時間対策などを実施するとともに、誰もが利用しやすい病院となるよう環境を整備するなど患者及びその家族の立場を踏まえ、患者に対するサービスの向上に努めること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・患者満足度調査や意見箱に寄せられた意見等により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。</p>	<p>・患者満足度調査等の実施により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○病院スタッフの接遇や療養環境などに対する患者満足度の現状把握及び改善すべき事項の抽出を行う</p> <p>○意見箱の設置や退院時アンケートから患者ニーズを把握し、サービス向上に努める</p> <p>○引き続き、入院前準備センターでの入院オリエンテーション、入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の向上に努めるとともに、社会的背景の確認による早期の患者支援を図る</p> <p>○専門外来の設置を行うなど、外来の混雑緩和やプライバシーの向上など、患者サービスの向上を図る</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○患者満足度調査の実施や意見箱の設</p>	<p>・患者満足度調査の実施や、意見箱を引き続き設置することで、来院者からの要望・意見等の把握に取り組むとともに、院内全体にも情報共有し、患者の視点に沿った病院づくりのため改善を図った。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○6月に患者満足度調査及び待ち時間調査を実施し、病院スタッフの接遇や療養環境等に対する患者満足度の現状把握及び改善すべき事項の抽出を行った。</p> <p>○意見箱を引き続き設置（平成28年度投稿件数：516件）するとともに、入院患者全員に「退院時アンケート」を実施し、患者のニーズ把握等に取り組んだ。また、患者満足度向上の一環として、接遇月間マナーを決め、病院全体で取り組んだ。</p> <p>○平成28年10月に入院前準備センターを移設し、患者のプライバシーを考慮して、面談室を完全個室化した。入院前準備センターでは、入院オリエンテーション、入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の向上に努めると共に、社会的背景等の確認も行い、必要な患者には入院前から患者支援を行った。</p> <p>○平成28年度に、混雑緩和を図るため、入退院受付と紹介窓口の壁を撤去して待合スペースを一体化し、窓口を3から5ブースに拡げた。また、北館を増設して外来の拡張を行い、患者のプライバシーを十分に保って病状の聞き取り等が行えるよう十分な相談室を確保した。さらに、同じエリアに病状説明外来を新たに設置し、入院後のスムーズな手術・治療の流れをつくるため病状説明ができるようにした。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○患者満足度調査の実施や意見箱の設置等により、患者ニーズを把握し、</p>	2	3	3	

【ウエイト付の理由】市民病院としての公的役割を果たす上で重要であるため

<p>・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上を図る。</p>	<p>置等により患者ニーズを把握し、サービス向上に努める</p> <p>○既存施設改修により、外来診察枠の増診等診療機能を拡充し、混雑緩和や患者サービスの向上を図る</p> <p>○引き続き、ボランティアとの意見交流会を定期的実施し、患者ニーズの把握を行い、必要な改善を行う</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○患者満足度調査の実施や提案箱の設置等により患者ニーズを把握し、サービス向上に努める</p> <p>○引き続きボランティアとの意見交流会を定期的実施し、患者ニーズの把握を行い、必要な改善を行う</p> <p>・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう、総合的な待ち時間対策やアメニティの向上、安全かつ良好で治療効果や食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○携帯端末を用いた呼び出しシステムによる待ち時間の有効活用及び自動精算機による会計待ち時間の短縮を推進する。特にFAX紹介の新患を優遇し、待ち時間のないように調整するとともに、引き続き外来の待ち時間調査を実施し対策を検討する</p> <p>○待ち時間のストレス緩和、医療情報の提供を目的にデジタルサイネージを設置することで、患者サービス向上に努める</p>	<p>サービス向上に努めており、意見箱に投稿された意見については、毎月会議の中で報告を行った。</p> <p>○既存施設の改修により、内科外来に2診、整形外科外来に1診と診察室を増やし、外来の混雑緩和や待ち時間の短縮など、患者サービスの向上を図った。</p> <p>○ボランティア調整会議を3か月に1回定期的に開催して意見交換を行い、患者ニーズの把握に取り組んだ。また、外来看護担当マネージャー及びフロアマネージャーが、ボランティアに参加された方々の意見を随時聴取することで、さらなる患者サービスの向上を図った。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○患者満足度調査を11月に実施し、病院スタッフの接遇や療養環境等に対する患者満足度の現状把握及び改善すべき事項の抽出を行った。また、調査結果について、外来への掲示や病院ホームページに掲載するとともに、広報誌「そよかぜ」に掲載し、患者に対して改善点を公表した。</p> <p>○ボランティアコーディネーター会議を定期的開催し、意見交換を行い、患者ニーズの把握に取り組んだ。</p> <p>・各病院において、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上に引き続き取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○外来患者待ち時間調査を6月に実施し、現状の把握を行うとともに、待ち時間のより一層の短縮及び外来の混雑緩和に向け検討を行った。また、FAX予約による待ち時間の短縮を周知するため、広報ポスターを掲示した。</p> <p>○待ち時間を有効活用できるよう、平成28年度にデジタルサイネージを外来に3か所設置し、病院からのお知らせ、四季の風景、生活情報、ニュース、天気、クイズ等を放送し、患者サービス向上を図った。</p> <p>○FAX予約患者はできるだけ待ち時間なく診察が受けられるよう優遇措</p>			
--	--	---	--	--	--

	<p>○FAX予約については、地域医療機関の要望に沿えるよう受け入れの円滑化に努める。また、FAX予約患者への優遇措置の充実に取り組み、FAX予約の利用を地域医療機関に働きかける</p> <p>○特別治療食の必要な患者には適正な治療食を提供し、治療効果につなげるとともに、特別食加算の算定増を目指す。また、特別食加算算定のための病名入力が増えなく行われる運用について検討する</p> <p>○特別治療食を提供している患者には、治療食の説明や栄養指導を実施していく</p> <p>○小児、周産期の栄養管理に関しては、県立こども病院と情報交換を図り、出来る限り食事サービスや栄養管理に関しては同等の内容を提供する</p> <p>○病院食に関する意見や苦情を参考に満足度の向上のための内容検討を行う</p> <p>○現在の選択食に関しては、選択率が低い状態であるが、患者サービスの向上に向けた検討を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○総合案内機能を継続し、どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス、患者が多い時のきめ細かい応対等を行う</p> <p>○院内コンサートや夏まつりの継続開催等による、やすらぎの提供のほか、患者サービスの向上を図る</p> <p>○入院食事アンケートの結果も踏まえ、引き続き、入院食の内容を充実させる等、入院食の満足度の向上を</p>	<p>置を徹底し、FAX予約の利用を地域医療機関に働きかけた。また、5月に市民向け紹介状・FAX予約推奨ポスターを改訂し、神戸市関係各所にポスターの掲示及びチラシ配付を依頼し、7月にFAX予約利用の少ない診療所（65か所）に対して案内文書を送付し、特に利用が少ない診療所（4か所）に訪問し、利用のメリットについて案内した（平成29年度実績：FAX予約件数17,183件、前年度比107.6%）。</p> <p>○平成29年3月より、入院前準備センターからの情報又は入院時の管理栄養士の確認により、特別食加算算定が可能な特別食を提供するための病名の入力が無い場合は、主治医に入力を依頼することで、特別食加算の算定増に取り組んだ（平成29年度実績：特別食加算率平均30.0%）。</p> <p>○特別治療食を提供している患者に対し、治療食の説明や栄養指導を実施した（平成29年度実績：病棟での栄養指導件数1,357人、前年度進捗137.1%）。</p> <p>○県立こども病院と栄養管理部の合同企画で栄養管理勉強会を6月に実施し、中央市民病院より12名出席、2症例を発表し、小児周産期の栄養管理に関して情報交換を図った。</p> <p>○全食種（7分がゆ以下の軟食、嚥下、きざみを除く）の食事摂取状況調査を10月に実施した。</p> <p>○8月1日より、選択食の選択率の低い食種（全粥食、シニア食、E食、ES食）を外し、成人食、分娩食、産婦食に絞って、献立の内容充実を図った（平成29年度実績：選択率平均5.5%）。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○外来看護担当マネージャー（外来患者の診察に関するアドバイス等）、フロアマネージャー（案内や苦情の対応）、医事課職員の配置を継続し、苦情や質問にきめ細かく対応できるよう体制を強化し、総合案内機能の充実を継続した。</p> <p>○入院患者やその家族等を対象として、合唱や演奏会等の院内コンサート、夏祭りを開催した。また、患者へのやすらぎの提供と病院の魅力向上のため、6階庭園や1階周りの植栽について、ボランティア等の協力を得ながら、継続的に管理を行った。</p> <p>○栄養サポートチーム（NST）において、勉強会及びコアスタッフミーティングを毎月1回開催し、栄養管理の観点からの治療向上に向けての検討を行った。また、医師がオーダーしやすいよう医療情報端末での</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>・「患者の権利章典」の下、患者中心の医療を常に実践し、インフォームド・コンセントを徹底するとともに、引き続きセカンドオピニオンについても対応する。</p>	<p>図る</p> <p>○患者一人ひとりの病状に応じた治療食の提供や栄養管理及び栄養指導を行い、治療効果の向上や退院後の生活習慣改善の支援につなげる</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○総合案内機能を継続し、どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス、患者が多い時のきめ細かい対応等を行う</p> <p>○院内コンサートの継続開催等による、やすらぎの提供のほか、患者サービスの向上を図る</p> <p>○特別治療食の必要な患者には適正な治療食を提供し、治療効果や退院後の食生活改善に繋げる他、必要に応じて栄養指導を実施していく</p> <p>○入院食事アンケートの結果も踏まえ、引き続き、選択食等の入院食の内容を充実させる等、入院食の満足度の向上を図る</p> <p>・「患者の権利章典」の下、患者中心の医療を常に実践し、インフォームド・コンセントを徹底するとともに、患者自身が医療方針を適切に自己決定できるように支援する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成 28 年 12 月に設置した患者サポートセンター（かかりつけ医相談窓口・患者相談窓口）において、患者や家族に対する総合的支援の強化を図る。かかりつけ医相談窓口では、患者</p>	<p>注意喚起や、栄養管理室が中心となって入院患者の既往歴に応じた適切な特別食の提供行う等、栄養サポートチーム加算の取得に積極的に取り組んだ（平成 29 年度実績：462 件）。</p> <p>○病院食は治療効果を高め、退院後の参考にもなるため、特に特別食を喫食している入院患者への栄養指導に取り組み、外来患者に対しても、栄養指導の予約枠や小児食物アレルギーに対する指導枠を順次拡大した。また、入院時食事療養費の患者負担引上げを受け、給食委託業者と協力して、平成 28 年度より選択食の対象食種を成人食のみからシニア食にも拡大し、患者サービスの向上を図った。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○平日の来院患者数がピークとなる時間帯において、総合案内に看護部副部長又は師長と委託職員を配置するほか、外来各フロアにフロアマネージャーを配置し、どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイスや患者が多い時のきめ細かい対応等を行った。</p> <p>○患者サービスの向上を図るため、神戸市混声合唱団を招き、年 2 回院内コンサートを開催した。</p> <p>○病院食は治療効果を高め、退院後の参考にもなることから、特に特別食を喫食している入院患者への病棟での栄養指導に取り組むとともに、外来患者に対しても栄養指導枠を拡大し（平成 27・28 年度完了）、充実を図った。</p> <p>○入院食事アンケートにより患者意見のあった「化学療法食」について、食種として確立させ、「すみれ食 A（ケモ食）・B（しみない食）」として 8 月 1 日から運用開始した。</p> <p>・各病院において、「患者の権利章典」の下、医師等は医療行為を行う際には、必要な事項を患者や家族にわかりやすい言葉や絵図を用いる等、患者が理解し納得できるように説明するとともに、十分に説明し、十分な理解のもとに意志決定（同意）できるように努め、引き続きセカンドオピニオンについても対応した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成 28 年 12 月に患者サポートセンターを開設し、かかりつけ医相談・患者相談業務等を外来診察室の近くに設置することで、患者が相談に行きやすい環境を整備した。かかりつけ医相談窓口では、かかりつけ医を持っていない患者に、自宅や職場から近い地域の医療機関を案内して、逆紹介の強化を図り、患者相談窓口では、医療・医療安全・介護・福祉等</p>				
--	---	---	--	--	--	--

<p>・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。</p>	<p>が治療の不安を解消しながら、「かかりつけ医」を持てるよう患者支援の充実と逆紹介機能の強化を図る。また、患者相談窓口では、医療・医療安全・介護・福祉等の相談について看護師と医療ソーシャルワーカーが対応する</p> <p>○患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する</p> <p>・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療通訳制度に参画するなど、外国人患者にとって安心かつ適切な医療サービスの提供に取り組む</p>	<p>の相談について、看護師と医療ソーシャルワーカーが対応をした。（平成29年度実績：かかりつけ医相談窓口相談件数1,844件）</p> <p>○かかりつけ医を持つこと及び紹介状・FAX予約の推奨について、市民向けの啓発を行政に働きかけるとともに、患者向けに外来待合でのポスター掲示を行った。</p> <p>○患者が十分納得して治療を受けることができるよう、病状、治療内容、診断や今後の治療方針について、引き続き、セカンドオピニオンを実施した（平成29年度実績：184件）。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○患者が十分納得して治療を受けることができるよう、病状、治療内容、診断や今後の治療方針について、引き続き、セカンドオピニオンを実施した（平成29年度実績：4件）。</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○患者が十分納得して治療を受けることができるよう、病状、治療内容、診断や今後の治療方針について、引き続き、セカンドオピニオンを実施した（平成29年度実績：8件）。</p> <p>・各病院において、患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展等による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○各病院において医療通訳制度を利用し、外国人患者にとっても安心かつ適切な医療を受けられるよう取り組んだ。</p> <p>《平成29年度医療通訳実績》</p> <p>中央市民病院：392件（英語：85件、ベトナム語：89件、中国語：108件、スペイン語：62件、タイ語：8件、インドネシア語：19件、ミャンマー語：7件、アラビア語：3件、ドイツ語：2件、フランス語：1件、ポルトガル語：2件、ネパール語：5件、ロシア語：1件）</p> <p>西市民病院：339件（ベトナム語298件、中国語29件、モンゴル語6件、英語5件、インドネシア語1件）</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>(中央市民病院)</p> <p>○案内表示の多言語化表記に加えて、患者へ配付する印刷物やホームページ等についても、多言語化対応を継続していく</p> <p>○外国人に対して、一般外来フロアに外国語に対応できるスタッフの配置やボランティアによる通訳のほか、民間通訳事業者の紹介などを行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○外国人患者が安心かつ適切に医療を受けられるよう、医療通訳制度を継続する</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○外国人患者が安心かつ適切に医療を受けられるよう、医療通訳制度を継続する</p>	<p>西神戸医療センター：9件（中国語：9件）</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○案内表示やホームページ、入院・外来パンフレットの多言語化を実施した。また、産婦人科で配布する出産説明文の英語翻訳や、渡航歴について記した文書（英語は作成済）の中国語・韓国語版を作成し、10月から配布を開始した。</p> <p>○外国語に対応できるスタッフの外来配置を継続した（英語、中国語、韓国語）。また、医療通訳派遣制度の利便性を高めるために、遠隔地通訳制度を2月より試験導入した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○医療通訳実績の増加に伴い、タブレットによる遠隔通訳のテスト導入を2月より開始した（平成29年度実績：5件）。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○医療通訳派遣制度に参画し、外国人患者にとっても安心かつ適切な医療サービスの提供に取り組んだ。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 69：患者満足度調査結果（入院患者）（満足+やや満足）</p> <p>No. 70：患者満足度調査結果（外来患者）（満足+やや満足）</p> <p>No. 71：入院食事アンケート結果（満足+やや満足）</p> <p>No. 72：ボランティア登録人数</p> <p>No. 73：ボランティア活動時間（延べ時間／月）</p> <p>No. 74：セカンドオピニオン受付数</p>				
--	--	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(2) 市民及び患者へ開かれた病院（市民への情報発信）

中期目標	市民及び患者に対し、市民病院の役割、機能などについてホームページ等により分かりやすく情報提供を行うとともに、健康づくりのための情報発信を積極的に行うことにより、市民及び患者へ開かれた病院になるよう努めること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・3病院の特色や疾患の治療方針、地域医療機関との連携状況、さらには急性期病院であるといった市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信する。</p> <p>・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロ</p>	<p>・市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院) ○引き続き、市民への情報提供を強化するために、ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに、患者向け広報誌を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する</p> <p>(西市民病院) ○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」の発行やリニューアルしたホームページの適宜更新により、診療情報や新しい取り組みについて情報を提供する</p> <p>(西神戸医療センター) ○引き続き、市民への情報提供を強化するために、ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに、患者向け広報誌「そよかぜ」を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する</p> <p>・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロ</p>	<p>・各病院において、市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため、広報誌やホームページ等を活用して情報を積極的に発信した。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院) ○各コンテンツの更新の進捗管理を行うとともに、コンテンツの整理や充実、アクセシビリティの向上等を目的に、29年1月にホームページのリニューアルを行った。また、患者向け広報誌「しおかぜ通信」及び職員向け広報誌「しおかぜ」について、引き続き親しみやすい広報媒体となるよう定期的に発行した。</p> <p>(西市民病院) ○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を発行し、診療情報や医療スタッフの役割、新しい取り組みについて情報提供を行った。また、スマートフォンやタブレット端末への対応に加え、音声読み上げソフトでの読込みに対応したレイアウトへの改善等、ウェブアクセシビリティの改善及び運用業務の簡便化を図るため、4月に病院ホームページのリニューアルを行った。</p> <p>(西神戸医療センター) ○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「そよかぜ」を定期的に発行し、当院の診療情報や医療スタッフの役割、新しい取り組みについて情報を提供した。ホームページについても、随時新しい情報の追加・更新を行い、市民等に分かりやすい情報の提供に努め、3月にウェブアクセシビリティに対応したホームページを公開した。</p> <p>・各病院において、患者や市民を対象とした公開講座や各種教室等を開催し、さまざまな情報提供を行い、市民の健康向上に取り組んだ。</p>	1	3	3	

<p>ン等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。</p>	<p>ン等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成28年10月，がん相談支援センターを拡張し支援機能の充実を図った。今後も，院内外を問わず，あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口として運営していく</p> <p>○がん相談支援センターにおいて，がん患者への支援や情報提供を行い，がんサロン開催や暮らしの相談（就労支援）に取り組む等，がん患者支援の強化を図る</p> <p>○糖尿病教室や消化器病教室等各種患者及び市民向け教室の開催と充実に取り組む</p> <p>○コンビニエンスストア等と共同し，健康・疾病予防・疾病と食事の関連を具体的に示し，情報を発信する</p> <p>○病院食の情報，疾病の重症化予防に向けた情報を発信する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○市民公開講座や患者向け教室において，医師やコメディカルがそれぞれの立場で講師を行い，市民の健康向上や患者へのきめ細かい情報提供に努める</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○院内外を問わず，あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口として運営していくため，がん相談支援センターの支援機能の充実を図る</p> <p>○糖尿病教室や禁煙外来，がん教室等各種患者及び「身近な保健医療講座」</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成28年10月よりがん相談支援センターをリニューアルオープンし，相談員が常駐して毎日がん相談を行い，ウィッグの展示や，がんに関する書籍・パンフレットの設置等，がん関連の資料の充実を図った（平成29年度実績：相談者983人）。</p> <p>○がん患者やその家族を対象としたがんサロンをについて，2か月ごとに継続して開催するとともに，平成28年9月より，社会保険労務士による「がん患者の仕事と暮らしの相談会」を毎月開催した。また，がん市民フォーラムを4回開催し，がん患者の支援に取り組んだ（平成29年度実績：がんサロン参加者90名，がんフォーラム参加者673名）。</p> <p>○患者や市民に各疾患についての教室を開催し（糖尿病9回，心臓病10回，腎臓病8回，消化器病6回），地域への情報発信を行った（年間参加者総数762名）。</p> <p>○健康・疾病予防・疾病と食事の関連を示すため，管理栄養士がファミリーマートの弁当，パン，デザートを監修し，情報発信を行った。</p> <p>○しおかぜ通信において，病院食の紹介を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○患者家族や市民も対象として，医師・看護師・コメディカルが中心となり，患者向け教室を開催した（糖尿病10回，禁煙7回，エピペン9回，市民公開講座7回）。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○平成29年1月より国立がん研究センター認定がん相談支援センターの認定を受け，さらなるがん相談支援体制の充実を目指した。5月より，がん相談担当者の離席時等不在時においても随時相談受付が可能となるよう録音装置等の設備を充実し，利便性の向上を図った。また，電話による相談も開始した。</p> <p>○患者家族や市民も対象として，患者向け教室を開催した（糖尿病10回，禁煙8回，発達障害家族2回，虹の会4回，摂食障害家族1回，心肺蘇</p>				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>等の市民向け教室の開催と充実に取り組む</p>	<p>生講習会 1 回，市民向け身近な保健医療講座 3 回，がん市民フォーラム 1 回)。</p> <p>関連指標 No. 75：各種教室等開催回数／No. 76：市民向け広報発行回数 No. 77：ホームページアクセス回数</p>				
--	----------------------------	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

中期目標	地域医療連携体制の構築に資するため、地域医療機関との連携及び協力体制を更に充実させ、医療機能や役割に応じて患者の紹介（地域医療機関からの患者の紹介）を受け、又は逆紹介（地域医療機関に対する患者の紹介）を行い、病病・病診連携（市民病院が行う地域の病院及び診療所との連携）を推進すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関のニーズを把握し、3病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行うとともに、地域連携パスの活用、持参薬情報の整理と共有等、地域医療機関との連携をより一層推進する。 オープンカンファレンスや研修会の開催、講師派遣等により顔の見える地域連携を実現する。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度医療機器の共同利用促進や連携登録医とのさらなる連携等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関のニーズを把握し、3病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携登録医とのさらなる連携や高度医療機器の共同利用促進等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。また、介護施設や福祉関係機関との情報交換も積極的に行う。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域医療連携センターにおいて、入院前準備センター等と連携して、患者が円滑かつ安心な治療を受けられるよう支援を行う ○神戸市民間病院協会の会員病院など地域の医療機関との情報交換を密にし、急性期及び亜急性期の患者の転院や後方連携の強化に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進した。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療支援事業運営委員会を9月に開催し、中央市民病院の地域医療支援病院としての事業運営について外部委員も交えて議論した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入院前準備センターにおいてリスクアセスメントを行い、入院当初から退院後の療養について相談を受け、支援を行った（平成29年度実績：入院前準備センターからの相談依頼受付数547件）。また、退院支援業務にタブレット端末を活用し、患者・家族への端末画面によるわかりやすい説明、病棟等での迅速な情報収集を継続した（平成29年度実績：退院支援実績4,490件、転院2,766人、自宅退院1,355人、施設199人、外来からの他院入院紹介（転送）348人）。 ○神戸市民間病院協会加盟病院への急性期、回復期、慢性期転院については、患者情報シートを活用し、連携強化と円滑な転院を図った。また、病病連携の強化のため、中央区内の病院の地域連携部門の連絡調整や情報交換の場として、神戸市中央区地域医療連携部門連絡協議会に毎月参加した。 	2	3	4	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センターでは、オープンカンファレンスや研修会・交流会の開催等により、顔の見える地域連携の推進を図り、3病院ともに紹介率が前年度を上回った。 西市民病院では、かかりつけ医相談窓口業務を拡大するとともに、FAX予約の受付時間を延長し、西神戸医療センターでは、土曜日のFAX予約を開始するなど、地域医療機関との連携を強化した。

<p>・地域医療における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。</p>	<p>○大腿骨頸部骨折や脳卒中等急性期から回復期へのリハビリテーションについては、地域連携パスを活用し、患者や家族のニーズを踏まえたうえで、できるだけ早期に継続したリハビリテーションが実施できるよう地域との連携を密に機能回復を図る。また、5大がんやその他の疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め、地域の医療機関との連携を図る</p> <p>○高度医療に対応した最新医療機器の導入等により、高度医療機器の共同利用等の促進に取り組み患者にやさしい検査・治療を提供する</p> <p>○地域医療機関との顔の見える連携促進を図り、新たな連携先を開拓する</p> <p>・地域医療水準の向上を図り、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○連携登録医に対しては、病院の情報を積極的に提供し連携しやすい環境を作るとともに、顔の見える連携の強化を図り、地域連携懇話会を開催する</p> <p>○オープンカンファレンス、地域連携セミナー等の研修会を引き続き開催し、地域医療機関等にとって</p>	<p>○大腿骨頸部骨折や脳卒中地域連携パスの積極的な活用を行った。地域連携パスで転院した患者は、大腿骨頸部骨折13人、脳卒中240人であった。また、がん連携パスについても積極的に活用した。</p> <p>○一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院と隔月で連携会議を継続して開催し、具体的な紹介実績、問題事例を挙げながら協議を行った（平成29年度転院支援270件）。また、神戸平成病院へ呼吸器内科医師及び総合内科医師を継続して派遣した（平成29年度転院支援243件）。</p> <p>○CT、MRI、PET-CT等の高度医療機器検査について、引き続きFAXによる予約申込を受け付け、地域医療機関からの利用を図った（平成29年度実績：地域医療機関からのFAX検査予約904件、前年度比131.4%）。また、先端医療センター病院より事業を引き継ぎ、11月からPET-CT検査、12月からPET-CT検診を南館で実施した。</p> <p>○新規開院の医療機関に患者紹介を呼びかける等、連携登録医の登録勧奨を行った。</p> <p>・地域医療水準の向上を図るとともに、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○圏域内の地域医療機関を対象に連携登録医を引き続き募集し、登録を行った（平成30年3月末現在：登録医療機関数1,049機関、登録医数1,340人）。</p> <p>○「中央市民病院ニュース」を引き続き発行し、中央市民病院の取り組みやカンファレンスの情報を地域医療機関へ発信するとともに、連携登録医へは、講演会やカンファレンス開催のお知らせ等をEメールでも発信し緊密なコミュニケーションに取り組んだ。また、連携登録医等の市内医療従事者との地域連携懇話会を11月に開催し、地域連携の強化を図った（参加者数 院内169人、院外191人）。</p> <p>○平成29年1月に患者サポートセンターの前の壁にデジタルサイネージを設置し、連携登録医と各種案内をわかりやすく表示することで、逆紹介の促進に取り組んだ。</p> <p>○地域連携セミナー、地域合同カンファレンス、リハビリテーション地域連携講演会を開催し、地域医療機関とのさらなる連携強化を図った。</p> <p>○地域医療機関への訪問や来院時の面談を積極的に行い、地域との情報交換</p>			
---	---	---	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り、信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 開院当初より開催している医師会や歯科医師会と組織する連携システム連絡協議会や地域医師会との合同カンファレン 	<p>有用な情報を提供する等内容の充実に努め、院外からの参加の促進を図る</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け、地域医療部が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図る ○診療科部長等とともに、より目的を明確化して地域医療機関訪問を行うことによって、さらなる連携強化に取り組む ○各診療科・部門については、積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との連携強化に取り組む ○地域医療連携をより一層推進するため、地域医療機関との交流会や連携の会を積極的に開催する <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開院当初より開催している医師会や歯科医師会と組織する連携システム連絡協議会や地域医師会との合同カンファレンスを継続する。 	<p>や連携強化を効果的に推進した（地域医療機関への訪問 48 件，地域医療機関の来院 74 件）。</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院としての役割の継続に向け、地域医療部が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図るための方策について精力的に検討するとともに、「かかりつけ医相談窓口」業務を拡大し、地域医療在宅支援室の看護師が担当となり相談体制を強化した。 ○地域医療機関との役割分担や機能連携を明確にするため、地域医療部長や各診療科長等による地域医療機関への訪問(平成 29 年度実績:77 件)、地域医療機関からの訪問受入れ(平成 29 年度実績:34 件)を行った(平成 30 年 3 月末現在:連携登録医療機関 424 機関、連携登録医 537 人)。 ○各診療科、チームにおいて積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との関係を密にすることで、連携の強化を図った。 ○紹介患者の増加及び F A X 予約の円滑化のため、開業医からの依頼後 2 週間以内の F A X 予約を前提とする運用を 4 月より開始し、1 月より 16 時 30 分以降の翌日 F A X 予約をとれる運用に変更した。 ○兵庫・長田二次救急病院連携の会において、近隣の医療機関の病院事情について意見交換を行い、平成 29 年度は兵庫・長田区の医師会長と消防局の係長級職員が参加した会議を開催した。また、インフルエンザ等で院内ベッド満床時の当日転送依頼の際、兵庫・長田二次救急病院間のメーリングリストを活用して二次救急病院の空床を確認し、後方連携に取り組んだ。 ○地域医療機関との連携の強化を図るため、3 区(長田・兵庫・須磨)医師会との交流会である「地域連携のつどい」を 2 月に開催した(参加者:164 人、うち院外参加者 99 人)。 <p>【西神戸医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開院以来の地域医師会・歯科医師会との協力体制や地域医療機関との連携の経緯・実績、地域性を踏まえつつ、地域医療機関との連携・協力体制を継続した。平成 28 年 11 月に西区・垂水区・須磨区医師会・歯科医師会および神戸市 6 区の連携登録医療機関を対象にアンケートを実施し、特に要 			
---	--	--	--	--	--

<p>スを継続する。また、医師による地域医療機関への訪問等により信頼関係を深め、垣根のない関係性を構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院として紹介・逆紹介のさらなる推進をはかり、円滑な転院調整等、地域医療機関との役割分担を確立していく。 	<p>また、医師による地域医療機関への訪問等により信頼関係を深め、垣根のない関係性を構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院として紹介・逆紹介のさらなる推進をはかり、円滑な転院調整等、地域医療機関との役割分担を確立していく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大腿骨頸部骨折や5大がん及びその他の疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め、地域の医療機関との連携を図る ○地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け、地域医療室が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図る ○診療科部長等とともに、より目的を明確化して地域医療機関訪問を行うことによって、「顔の見える連携」としてさらなる連携強化に取り組む ○各診療科・部門については、積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との連携強化に取り組む 	<p>望が多かった「土曜日FAX予約受付」を平成29年9月16日から開始した（平成29年度実績：1日平均14件）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、西区・垂水区・須磨区医師会・歯科医師会と共同で、地域全体の医療機能の向上を目的として、神戸西地域合同カンファレンスを開催し、講演会や研究発表を行った（平成29年度3回開催）。 ・地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進し、円滑な転院調整等、地域医療機関との役割分担の確立を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携パスの活用を進め、地域の医療機関との連携を図った（平成29年度実績：大腿骨頸部骨折連携パス転院78人、脳卒中地域連携パス転院72人、泌尿器科がん地域連携パス転院91人。泌尿器科がん地域連携パスの利用件数は、県内1位の実績。）。 ○地域医療支援病院としての役割継続に向け、地域医療室が中心となり、院内掲示等でわかりつけ医を持ってもらうための市民への啓発を行い、連携登録医療機関名をホームページ等で市民に公表した。また、平成29年度より初診予約方法や検査予約受付方法の簡素化と、対象医療機関の拡大を実施し、予約の利便性を高め、より一層連携医療機関との緊密な連携、紹介、逆紹介の推進を図った。 ○「顔の見える連携」のために、地域医療機関を医師が積極的に訪問し、専門分野や医療機能についての情報交換を行い適時適切な退院調整や医療連携に役立てた（平成29年度実績：訪問医療機関50施設）。 ○平成29年度から地域医療室長に副院長を配して副室長を2名に増員し、更に平成30年3月には医科歯科連携の強化を目的に歯科から副室長を1名任命した。 ○引き続き、広く連携先を開拓し「顔の見える連携」につなげるために地域の医療関係者等を対象に、在宅医療を含めたカンファレンス、研修を開催し、患者の希望やニーズに沿った連携の円滑化、普及に取り組んだ。 <p>関連指標</p> <ul style="list-style-type: none"> No. 78：紹介率（%）（地域医療支援病院算定式による） No. 79：逆紹介率（%）（地域医療支援病院算定式による） No. 80：地域連携パス適用患者数 No. 81：地域医療機関向け広報誌発行回数 No. 82：オープンカンファレンス開催回数 No. 83：オープンカンファレンス院外参加人数 				
--	--	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域医療連携の推進

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

中期目標	本市において構築を予定している地域包括ケアシステムに、市民病院の機能に応じて協力して取り組み、市民病院と地域の間における診療体制やケアの連続性を重視し、市民病院を退院した患者が安心して在宅で生活を送れるよう支援すること。 その際、本市と協力し、医療、保健及び福祉の連携を図ること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・患者が退院から在宅へと円滑に移行できるように、入院初期から積極的に退院支援を行う。</p> <p>・患者が安心して地域で療養できるように、地域の在宅診療医や介護施設、訪問看護ステーション等との連携や支援の強化、急変時の受け入れ体制の強化等を行い、神戸市における地域包括ケアシステムの中での市民病院としての役割を果たす。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>・在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、早期に退院ができるよう患者の状況に応じた支援を行う。特に、後方支援病院を経由して在宅復帰を目指す患者が在宅へ円滑に移行できるよう、回復期リハビリ病棟を設けている病院と連携を強化する。</p> <p>(西市民病院)</p>	<p>・患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に努める。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、退院前カンファレンス等を積極的に行って円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○在宅復帰を見据えて、他病院の地域包括ケア病棟との連携強化を図る</p> <p>○居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、在宅交流セミナーを積極的に開催する</p> <p>○後方連携支援業務に従事する薬剤師は、入院前から介入する入院前準備センターの薬剤師及び入院期間に担当する病棟薬剤師と連携し、転院時等の薬剤情報の円滑な提供に努めることで、後方支援体制の充実を図る</p> <p>【西市民病院】</p>	<p>・各病院において、患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に取り組んだ。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、退院前カンファレンスを積極的に開催した（平成29年度実績：279回）。また、各区でのネットワーク会議や在宅医療推進協議会などに積極的に参加し、地域の在宅医療・介護の担い手との連携強化を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○急性期治療の段階より、在宅生活を見据えたプランニングと地域包括ケア病棟からの在宅支援を見据えた準備（介護保険申請・区分変更・自宅療養環境評価等）を行い、シームレスな転院と在宅支援継続の引き継ぎを行った。</p> <p>○病院訪問をして過去の紹介患者の評価を行う等、より良い連携への改善に取り組むとともに、在宅交流セミナーを開催した（計2回、108名参加）。</p> <p>○地域医療連携センターに薬剤師の配置を継続し、転院先へのアレルギー・副作用、持参薬・常用薬、転院直前の処方等の薬剤情報提供を行った（平成29年度実績：薬剤情報提供書作成件数1,083件）。平成29年度は、薬剤情報提供書作成ツールを開発して活用を開始し、業務の効率化に繋がった。</p>	1	3	3	

<p>・在宅支援室を中心に地域の訪問看護ステーションの後方支援機能を充実させる等、地域との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>・地域の在宅診療医や居宅支援事業所、訪問看護ステーション等との切れ目のない連携に取り組み、在宅医療の円滑化、普及に努める。</p> <p>・入院時あるいは入院前からの退院支援への介入やリハビリの早期介入など院内における退院支援システムの再構築・強化に取り組み。</p>	<p>・地域の訪問看護ステーションや医療・保健・福祉等の関係機関の後方支援機能を充実させる等、在宅支援を中心とした地域社会との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○訪問看護ステーションの訪問看護師やケアマネジャーとの交流会を開催し積極的に意見交換を行うなど地域医療連携を強化し、在宅医療の支援を図る</p> <p>○訪問看護師やケアマネジャー等との退院カンファレンスや退院前訪問指導、院内外多職種交流会などを実施し、多職種の連携強化により円滑な退院支援に取り組む</p> <p>○訪問看護師など多職種の方を対象に「在宅療養カンファレンス」を開催し、退院患者の情報交換を行うなど地域医療連携の一層の推進を図る</p> <p>【西神戸医療センター】</p> <p>・地域の在宅診療医や居宅支援事業所、訪問看護ステーション等との切れ目のない連携に取り組み、在宅医療の円滑化、普及に努める。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等と連携し、円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行う</p> <p>○入院時あるいは入院前からの退院支援への介入やリハビリの早期介</p>	<p>・周辺地域での高齢化率の上昇や、「地域包括ケアシステム」構築への寄与を見据え、医療と介護の架け橋として在宅医療支援を展開していくため、平成 27 年度より「地域医療推進課」と「在宅支援室」を統合・再編した「地域医療在宅支援室」を設置し、引き続き地域医療の有機的連携を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療と介護の連携を進めるため、3 区（兵庫・長田・須磨区）のケアマネジャーとの交流会（8 月）や、地域の訪問看護師やケアマネジャーの知識習得と連携を深める機会として、市内の訪問看護ステーションやケアマネジャーへの研修会や、市内訪問看護師との交流会（6 月）を開催した。また、認定看護師や専門看護師による院内臨床実践研修への参加を募った。</p> <p>○患者の円滑な退院のため、入院中又は退院日に自宅へ訪問し、退院後の在宅での療養上必要なケア等を指導し、かかりつけ医、訪問看護師、介護支援専門員等との調整を行う退院前訪問指導を継続して行った。</p> <p>○院内外の多職種が専門性を生かして連携を進めていくため、院内外多職種交流会を 12 月に開催した（院外 40 人、院内 40 人参加）。</p> <p>○地域連携先の多職種を対象に、「退院前カンファレンス」を開催し、退院患者の情報交換を行う等、地域医療連携の一層の推進を図った（平成 29 年度実績：125 件）。</p> <p>【西神戸医療センター】</p> <p>・地域の在宅診療医や居宅支援事業所、訪問看護ステーション等との切れ目のない連携に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○引き続き、かかりつけ医（在宅医）、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等との切れ目のない連携に取り組むとともに、平成 29 年 7 月に、西区に医療介護サポートセンターが開設されたことを受け、同センターが主体として開催する多職種連携会議や研究会等に積極的に参加することで、担当者間の顔合わせや情報収集を行い、更なる在宅医療支援の推進を図った。</p> <p>○全病棟に専任の退院調整担当者（看護師または社会福祉士）を配置し、入院後 3 日以内から面談、退院支援カンファレンスを行う等、退院支援計画</p>				
---	---	--	--	--	--	--

	<p>入など院内における退院支援システムの再構築・強化に取り組む</p> <p>○MSW, 介護士, 介護支援専門員, 訪問看護師, 理学療法士, 作業療法士等と一緒に参加できるテーマのオープンカンファレンスを開催することで, 医療と介護, 病院看護師と訪問看護師の連携を図る</p>	<p>を立案するとともに, 退院困難な要因に応じて看護師または社会福祉士がそれぞれの専門性を発揮した退院支援を行った。</p> <p>○地域医療課主催で, 多職種オープンカンファレンスを年 2 回開催し, 医療介護サポートセンターの担当者をはじめ, 地域医療機関の看護師, 社会福祉士, 医師が参加し, 事例を通してグループワークで意見交換や発表を行い, 今後のさらなる連携のために情報共有を行った。また, 各区の医療介護サポートセンターが主体となって開催する多職種連携会議に, 退院調整看護師や社会福祉士が積極的に参加し, 今後の連携を見据えて情報収集や顔合わせを行った。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 84 : 退院調整実施件数</p> <p>No. 85 : 専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</p>				
--	--	---	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

6 神戸アイセンター病院の役割

(1) 高度医療及び専門医療等の充実並びに臨床研究及び治験の推進

中期目標	<p>神戸アイセンター病院は、市民に対し、眼疾患に関する優れた標準医療から最新の医学研究成果等を取り入れた最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療を安全に提供すること。</p> <p>眼疾患に係る臨床研究及び治験を高い倫理性と科学性を保持しつつ、安全かつ円滑に行うことによって、臨床基盤としての役割を果たすこと。</p> <p>医療安全文化の醸成に努め、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むなど、医療安全対策を徹底すること。</p>
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>(高度医療及び専門医療等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 眼科領域における高水準の医療を提供する基幹病院として、一般診療だけでなく、再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れ、網膜色素上皮細胞移植、培養口腔粘膜上皮細胞シートによる眼表面再建治療、角膜移植等、より高度で専門性を必要とする眼疾患に対応する。 <p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）を活用する。</p>	<p>(高度医療及び専門医療等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 眼科領域における高水準の医療を提供する基幹病院として、一般診療だけでなく、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れ、より高度で専門性を必要とする眼疾患に対応する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央市民病院及び先端医療センター病院の眼科機能を集約・拡充し、高度専門医療の提供を継続するとともに、新たな高度医療機器を導入し、より安全で精度の高い最先端の手術等を積極的に行う ○中央市民病院との連携のもと、全身疾患を有する患者及び眼科救急患者等への対応を行う <p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）を整備し、活用する。</p>	<p>(高度医療及び専門医療等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 眼科領域における高水準の医療を提供する基幹病院として、一般診療だけでなく、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れ、より高度で専門性を必要とする眼疾患に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央市民病院及び先端医療センター病院の眼科機能を集約・拡充し、12月1日に開院した。中央市民病院眼科が担ってきた地域医療の中核病院としての役割を引き継ぎ、地域の眼科診療施設と連携して質の高い標準医療を提供するとともに、様々な専門外来を受診できる診療体制を整備し、県下病院で初となる白内障手術機器フェムトセカンドレーザーをはじめとした高度医療機器を導入し、より安全で精度の高い最先端の手術等を積極的に行った。 ○中央市民病院と協議のうえ決定したルールに基づいて、全身疾患を有する患者及び眼科救急患者等への対応を行うとともに、ルール通りとならなかった場合は事後検証し、中央市民病院と協議して改善を進めた。 ○眼科救急については、当直体制に加えて毎日オンコール体制による24時間365日眼科医のコンサル及び診療ができる体制のもと、中央市民病院において救急医とアイセンター病院眼科医師が眼科救急を提供する体制を整備した。 <p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）を整備し、活用した。</p>	1	3	3	

<p>(臨床研究及び治験)</p> <p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、研究部門（機関）と緊密に協力して橋渡し研究を行い、眼疾患に係る臨床研究及び治験に積極的に取り組む。なお、臨床研究及び治験の実施に当たっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行ったうえで同意を得ること。）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院のクリニカルパスを準用し、実状に合わせた内容に精査するとともに、疾患の拡充に伴う新規クリニカルパスの作成に取り組む等、医療の質の標準化を進める</p> <p>(臨床研究及び治験)</p> <p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、眼疾患に係る臨床研究及び治験に積極的に取り組む。なお、臨床研究及び治験の実施に当たっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行ったうえで同意を得ること）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○臨床研究及び治験実施における諸規程を整備し、院内の体制を構築するとともに、実施に当たっては、必要に応じて中央市民病院とも連携し、積極的に臨床研究及び治験を実施する</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院眼科のクリニカルパスを基に、アイセンター病院用クリニカルパスを作成し、活用した。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 86：手術件数（入院・外来合計） No. 87：手術件数（入院・外来合計）うち白内障手術 No. 88：手術件数（入院・外来合計）うち硝子体手術 No. 89：手術件数（入院・外来合計）うち緑内障手術 No. 90：硝子体注射件数／No. 91：レーザー治療件数 No. 92：検査人数（眼底三次元画像解析） No. 93：検査人数（蛍光眼底造影検査）／No. 94：専門外来患者数 No. 60：クリニカルパス数（種類）／No. 61：クリニカルパス適用率</p> <p>(臨床研究及び治験)</p> <p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、眼疾患に係る臨床研究及び治験に積極的に取り組んだ。なお、臨床研究及び治験の実施に当たっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行ったうえで同意を得ること）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○先端医療センター病院及び中央市民病院眼科で実施していた治験・臨床研究について、治験・臨床研究にかかる諸規程を整備し、手続きに従って引き継ぐとともに、アイセンター病院の治験・臨床研究の審査業務（倫理委員会）を中央市民病院に委託し、初期体制を整備した。また、新たな治験・臨床研究の実施に向けて準備を進めた。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 55：治験実施件数／No. 56：受託研究件数／No. 57：臨床研究件数</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>(医療安全及び医療関連感染(院内感染)対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内に設置する委員会等において、医療安全及び院内感染対策にかかる課題について議論を行うとともに、必要な情報を積極的に発信する等、医療安全及び医療関連感染(院内感染)対策の強化を図る。 <p>院内で発生したインシデント(医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例)及びアクシデント(医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に障害を及ぼした事例)についての報告を強化し、その内容を分析することにより再発防止に取り組む。また、医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明</p>	<p>(医療安全及び医療関連感染(院内感染)対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内に設置する委員会等において、医療安全及び院内感染対策にかかる課題について議論を行うとともに、必要な情報を積極的に発信する等、医療安全及び医療関連感染(院内感染)対策の強化を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全及び感染防止に関する研修会を実施する等、必要な情報を積極的に配信し、職員の意識を高める ○患者の急変時は、中央市民病院のRRS(院内救急対応システム)と連携するとともに、院内でも速やかに対応できるよう中央市民病院で開催するICLS研修又はBLS研修に積極的に受講する <p>院内で発生したインシデント(医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例)及びアクシデント(医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に障害を及ぼした事例)についての報告を強化し、その内容を分析することにより再発防止に取り組む。また、医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明</p>	<p>No. 58 : 論文掲載件数 / No. 59 : 学会発表件数</p> <p>(医療安全及び医療関連感染(院内感染)対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内に設置する委員会等において、医療安全及び院内感染対策にかかる課題について議論を行うとともに、必要な情報を積極的に発信する等、医療安全及び医療関連感染(院内感染)対策の強化を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公益社団法人 NEXT VISION の協力のもと実施した視覚障害者誘導研修(2月)、中央市民病院と共催で浅田弁護士による医療安全研修会(3月)を実施し、職員の意識向上に取り組んだ。また、医療安全管理指針を整備するとともに、毎月、医療安全管理会議を開催し、インシデント報告内容・件数等の確認・検証を行った。 ○日本医療機能評価機構への医療事故情報の報告(任意)を行うこととした。 ○開院前に、医師はICLS研修及びRRS研修を受講し、医師以外はBLS研修を受講した。 ○毎月1回、医師・看護師・事務職員で院内ラウンドを行い、現状の把握とともに、発生したインシデントに関わる場面に赴き、現場での確認動作が定められた方法で実施されているのか確認・指導・検討などを実施した。 <p>院内で発生したインシデント及びアクシデントについての報告を強化し、その内容を分析することにより再発防止に取り組んだ。</p>				
---	--	---	--	--	--	--

<p>性を確保する。</p>	<p>性を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○インシデント及びアクシデントについては、医療安全集中管理ソフトを活用し、迅速な情報収集を図るとともに、要因分析に努め、再発防止及び発生予防に取り組む</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○インシデント及びアクシデントについては、毎月、医療安全管理会議で報告・検証し、再発防止及び発生予防に取り組んだ（平成29年度実績：（アクシデント0件、インシデント104件（うち医師14件））。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 62：医療安全委員会等開催回数／No. 63：医療安全研修等実施回数</p> <p>No. 64：インシデントレポート報告件数</p> <p>No. 65：インシデントレポート報告件数うちアクシデントレポート報告件数</p> <p>No. 66：感染症対策委員会等開催回数</p> <p>No. 67：感染管理チームラウンド回数／No. 68：感染管理研修等実施回数</p>				
----------------	--	--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

6 神戸アイセンター病院の役割

(2) 市民及び患者とともに築くやさしい病院並びに地域連携の推進

中期目標	患者の視点に沿った病院運営や、市民及び患者への積極的な情報提供に努めること。 地域医療機関との連携及び協力体制を推進し、積極的な連携を図ること。特に、隣接する中央市民病院とは、医療機能面における役割分担を推進するとともに、緊密な連携体制を構築すること。また、ロービジョンケア（視覚に障害がある人に対する支援）との連携を図ることによって、社会生活への円滑な復帰支援を行うこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>(患者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー・ユニバーサルデザインを意識し、来院者の目線に配慮した施設配置やスムーズな動線、分かりやすい表示を確保するとともに、外来での待ち時間対策を行う。 <p>・病院の特色や疾患の治療方針等について、市民及び患者に幅広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信する。</p>	<p>(患者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー・ユニバーサルデザインを意識し、来院者の目線に配慮した施設配置やスムーズな動線、分かりやすい表示を確保するとともに、外来での待ち時間対策を行う。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見箱の設置等による患者のニーズの把握に努め、院内での情報共有及び必要に応じた改善を図る ○待ち時間を院内で快適に過ごすための取り組みを行う等、待ち時間対策について検討する <p>・病院の特色や疾患の治療方針等について、市民及び患者に幅広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページを作成するとともに適宜更新し、診療情報や新しい取り組みについて市民に分かりやすく提供する等、積極的に市民への 	<p>(患者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物整備にあたっては、ロービジョンケアの専門医や視覚障害者対応のデザイン専門家にも意見を聞き、病室入り口部分の床を濃色とし、部屋番号を記載するなど視認性の向上を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見箱を外来と病棟に設置し、いただいた意見は幹部会等で情報共有し、必要な改善を行った。また、退院患者アンケートについても同様の対応を行った。あわせて、主な患者意見への回答集を作成の上、外来と病棟に置き、取組状況等の周知を図った。 ○待ち時間対策（院内滞在時間対策）として、開院にあたり、外来診察室を増床（7室程度→10室）、外来検査の拡充（視能訓練士パート増員）を図るとともに、外来待合スペースにおけるアメニティの整備（疾患パンフレット、イベント案内サイネージ）を行った。さらに開院後は、外来表示盤の増設等を行うとともに、2階ビジョンパークで待ち時間を有効に過ごしていただくようアナウンスを行った。 <p>・病院の特色や疾患の治療方針等について、市民及び患者に幅広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開院前からティザーサイトを公開し、11月29日より正式にホームページを公開し、主な疾患・治療法、入院・外来案内等を紹介した。また、開院前に市内各所にポスター掲示等を行うとともに、病院紹介パンフレットを作成し、外来・病棟を配置した。視察やマスコミの取材を積極的に受け、アイセンター病院の周知を行った。 	1	3	3	

<p>(連携の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関との連携や機能分担を図り、高度医療及び専門的医療の必要な患者や入院患者を積極的に受入れるとともに、患者の病状に応じた地域医療機関への逆紹介を推進する。 ・隣接する中央市民病院と患者の診療情報を連携することも含めて医療機能面における役割分担、連携の促進を図る。 ・ロービジョンケア（視覚に障害がある人に対する支援）と緊密に連携を行うことにより、重篤な眼疾患から社会生活へ復帰を支援するワンストップセンターとしての役割を果たす。 	<p>情報提供を行う</p> <p>(連携の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関との連携や機能分担を図り、高度医療及び専門的医療の必要な患者や入院患者を積極的に受入れるとともに、患者の病状に応じた地域医療機関への逆紹介を推進する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域医療機関との顔の見える連携に取り組み、信頼関係を構築するとともに、新たな連携先の開拓に取り組む ・隣接する中央市民病院と患者の診療情報を連携することも含めて医療機能面における役割分担、連携の促進を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央市民病院との役割分担について、現状及び課題の情報共有を行うため、引き続き、中央市民病院との連携検討会議を開催する ○中央市民病院との電子カルテの相互閲覧機能を活用し、より円滑な患者の紹介・逆紹介を行う <ul style="list-style-type: none"> ・ロービジョンケア（視覚に障害がある人に対する支援）と緊密に連携を行うことにより、重篤な眼疾患から社会生活へ復帰を支援するワンストップセンターとしての役割を果たす。 <p>具体的な取り組み</p>	<p>関連指標</p> <p>No. 69：患者満足度調査結果（入院患者）（満足+やや満足） No. 70：患者満足度調査結果（外来患者）（満足+やや満足） No. 76：市民向け広報発行回数／No. 77：ホームページアクセス回数</p> <p>(連携の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関との連携や機能分担を図り、高度医療及び専門的医療の必要な患者や入院患者を積極的に受入れるとともに、患者の病状に応じた地域医療機関への逆紹介を推進した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開院前に地域医療機関訪問を行うほか、中央市民病院ニュース等で周知を図るとともに、県下全眼科医療機関に内覧会の案内等を行う等、地域医療機関への周知を図った。 ・開院前に、中央市民病院と連携に関するルール作りを行うとともに、患者情報についても情報共有が図られるようシステムの整備を行った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開院前に中央市民病院と連携会議を行い、情報共有を図るとともに、連携ルール等を整備した。開院後も継続して連携を進めていくため、3月に連携検討会議を実施した。（今後も年2回実施予定） ○開院前に中央市民病院と協議し、電子カルテの相互閲覧ができるようシステム整備を行った。また、平成29年度の実績は、中央市民病院からの紹介患者数192人、中央市民病院への紹介患者数95人であった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロービジョンケアと緊密に連携を行うことにより、重篤な眼疾患から社会生活へ復帰を支援するワンストップセンターとしての役割を担った。 <p>具体的な取り組み</p>				
--	---	--	--	--	--	--

	<p>○両施設が円滑に運用できるよう、ロービジョンケアを運営する（公財）ネクストビジョンと密接に連携を行う</p>	<p>○ビジョンパークを運営する公益社団法人NEXT VISIONと開院前から協議し、情報共有を図るとともに、開院後はビジョンパークでの相談業務やイベントの紹介を行った。</p> <p>○特にロービジョンケアが必要な患者に対しては、医師が連携カードに必要事項を記載してNEXT VISIONに紹介し、生活相談や拡大鏡等補助具の紹介等につなげた（NEXT VISIONへの紹介・連携件数：197件）。</p> <p>関連指標 No. 78：紹介率（%）／No. 79：逆紹介率（%） No. 82：オープンカンファレンス開催回数 No. 83：オープンカンファレンス院外参加人数 No. 177：市関連病院からの紹介患者数／No. 178：市関連病院への紹介患者数</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
1 優れた専門職の確保と人材育成
(1) 優れた専門職の確保

中期目標 市民病院としての役割を果たすために優秀な医師，質の高い看護師など医療職を始めとする人材の採用方法を工夫し，優れた専門職の確保に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	判断理由
<p>・全ての職種について，新卒採用のみならず，中途採用，外部登用，定年退職後の再雇用等，柔軟な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材を確保する。</p>	<p>・すべての職種について，新卒採用のみならず，中途採用，外部登用，定年退職後の再雇用等，柔軟な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○全国的な看護師確保の厳しい状況を踏まえ，県外も含めた採用選考の実施，合同就職説明会への参加，大学・専門学校等への訪問，修学資金貸付制度のPR等を行い，看護職員の確保を図る</p> <p>○柔軟な採用形態を用いて，引き続き，専門的な知識や経験を有する職員の確保に努める</p> <p>○平成30年度から開始される新専門医制度に向けて，日本専門医機構からの情報収集及び対応策の検討を行い，優秀な人材の確保に努める</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○薬剤師レジデント制度，リハビリ</p>	<p>・すべての職種において，様々な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材の確保に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○全国で開催される合同就職説明会への参加，大学や専門学校等への訪問，募集広告の掲載，病院見学会・インターンシップの受入れを随時実施した（合同説明会29回，学校訪問65回）。また，県外での採用選考に加え，毎月中途採用試験を実施する等，看護職員の確保に取り組んだ結果，年度途中採用者が6名，平成30年4月採用者は226名となった。そのほか，内定者懇談会や国家試験対策講座を実施し，内定者の入職前の不安軽減に取り組んだ。</p> <p>○平成29年4月より，法人本部経営企画室に看護業務統括担当部長を配置し，看護職員確保等について体制の強化を図った。</p> <p>○豊富な知識や経験を生かし，即戦力となってリーダー的な役割を担える人材を求めため，病院等の勤務経験者を対象とした採用選考を継続実施した。</p> <p>平成29年度中途採用：理学療法士，治験コーディネーター（CRC），病院業務員，病院総合職</p> <p>平成30年4月採用：薬剤師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，視能訓練士，病院総合職</p> <p>○日本専門医機構及び基本領域の学会からの情報収集を積極的に行った上で，採用活動を行い，平成30年4月から新制度による専攻医の研修を開始した。引き続き対応策の検討を行いながら，優秀な人材確保に努める。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○薬剤師レジデント制度を引き続き活用し，新しい評価法（知識を問う試験）を</p>	2	4	4	<p>【評価のポイント】</p> <p>・先端医療センター病院との統合にあたっては，新たに治験コーディネーターを採用するなど，実情に合わせて専門職を確保した。</p>

<p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実，県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。</p>	<p>職員レジデント制度，管理栄養士レジデント制度を活用し，優れた医療技術者の育成及び確保に努める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○薬剤師レジデント制度を活用し，優れた人材の確保に努める</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実，県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○神戸市看護大学と定期的に情報交換を行うとともに，連携方策等について議論を深めながら，連携の強化を図り，看護職員の確保を図る</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○近隣大学薬学部，薬科大学との連携により，職員同士の相互交流を図ることで，職員のスキル向上に努める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○大学医局への訪問・意見交換を通じて，大学との連携を強化し，優秀な人材確保につなげる</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○大学医局へ訪問を行う等連携を強化し，優秀な人材確保につなげる</p>	<p>導入してレジデントの研修到達度を把握し，個々のレベルに応じた指導を行うことで，レベルアップやモチベーション向上を図り，レジデント教育を充実させた。また，より臨床に対応できる管理栄養士の育成を目指すため，管理栄養士レジデントを活用し，教育を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○高度医療に対応した薬剤業務及びチーム医療を実践できる薬剤師の養成と人材の確保のために，薬剤師レジデント制度を活用し，人材育成及び確保を図るとともに，薬剤部において，積極的に学生の受入れを行った。</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や，教育及び研修の充実，県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材の確保に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○学生の就職活動の状況や動向等について，キャリア支援室と定期的に情報交換を行い，看護職員の確保に取り組んだ。また，12月にキャリア支援室との共催で，就職活動を始める前の3年生を対象とした就職セミナー（中央市民病院・西市民病院・西神戸医療センター・神戸リハビリテーション病院が参加）を開催した。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○神戸学院大学，関西学院大学，神戸市婦人大学等において，学生へ向け講義を実施した。また，28年度に引き続き，29年度も非常勤薬剤師（8時間/週）として雇用した大阪薬科大学講師（がん専門薬剤師）が，血液内科病棟および外来にて業務に従事した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○院長自ら関連大学及び医局への訪問等を精力的に行い，連携強化と医師の確保に取り組んだ。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○関連大学の医局への訪問等を院長，診療科長が精力的に行い，連携強化と医師の確保に取り組んだ。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 95：専門医数（延人数）／No. 96：認定医数（延人数）</p> <p>No. 97：臨床教授等（延人数）／No. 98：研修指導医数（延人数）</p> <p>No. 99：専門看護師数（合計）／No. 100：専門看護師数（急性・重症患者）</p> <p>No. 101：専門看護師数（慢性疾患）／No. 102：専門看護師数（感染症）</p>				
---	---	---	--	--	--	--

		No. 103 : 専門看護師数 (がん) / No. 104 : 専門看護師数 (老人) No. 105 : 専門看護師数 (精神) / No. 106 : 専門看護師数 (小児) No. 107 : 専門看護師数 (母性) / No. 108 : 認定看護師数 (合計) No. 109 : 認定看護師数 (皮膚・排泄ケア) / No. 110 : 認定看護師数 (集中ケア) No. 111 : 認定看護師数 (救急) / No. 112 : 認定看護師数 (感染管理) No. 113 : 認定看護師数 (がん化学療法) / No. 114 : 認定看護師数 (緩和ケア) No. 115 : 認定看護師数 (がん性疼痛) / No. 116 : 認定看護師数 (糖尿病) No. 117 : 認定看護師数 (手術) / No. 118 : 認定看護師数 (摂食・嚥下障害) No. 119 : 認定看護師数 (乳がん) / No. 120 : 認定看護師数 (不妊症) No. 121 : 認定看護師数 (脳卒中リハビリテーション) No. 122 : 認定看護師数 (新生児集中ケア) / No. 123 : 認定看護師数 (認知症) No. 124 : 認定看護師数 (慢性心不全) No. 125 : 認定看護師数 (がん放射線療法) No. 126 : 認定看護師数 (慢性呼吸器疾患) No. 127 : 認定看護師数 (小児救急) / No. 128 : 専門薬剤師数 No. 129 : 診療情報管理士数・職員 / No. 130 : 診療情報管理士数・委託 No. 131 : 医療情報技師数				
--	--	---	--	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(2) 職員の能力向上等への取組み

中期目標	病院で働く職員の能力の高度化及び専門化を図るため、職員の資格取得等に対する支援や指導者の育成に努めるとともに、専門技術の向上に加えて患者への対応も含めた人材の成長を促す研修制度の充実を図ること。 なお、病院業務の受託者に従事する者も共に病院を運営するパートナーであるので、その能力向上が可能となるような環境の整備に努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性を兼ね備えた職員を育成する。 全ての職員が必要な技能や知識を習得できるよう教育及び研修制度を充実し、指導者の育成も含めた次世代医療を担う人材を育成する。また、高い意識とホスピタリティ（思いやり）の心を持った職員を育成するため、患者対応研修等も実施する。 学術や研究の促進支援体制、研究休職制度及び資格取得支援制度を充実させ、積極的に活用することにより、職員の技術及び知識の向上や専門性の高い資格の取得を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため資格取得の促進、研修制度の充実を図る。 <p>具体的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各階層における研修や、資格取得支援制度、研究休職制度、短期国内外派遣制度、自己啓発等休業制度及び看護職員に対する留学制度を継続的に実施し、職員の資質や専門性の向上を図る（中央市民病院） ○学術支援センターでの研究計画支援等の業務や講習会等により、研究活動や質の高い研究ができるような支援を行い、職員の研修・教育・研究の充実を図る。年1回院内研究フォーラムを開催し、外部発表の論文等を院内に公表するとともに優秀演題表彰を行いモチベーションの向上を図る ○人材育成センターを利用した教育・研修機能を強化するとともに、研修企画・実施により、優れた能力と豊かな人間性を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため、資格取得の支援及び促進、研修制度の充実を図った。 <p>具体的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員の専門性の充実を図るために、従来から実施している資格取得支援制度、医師の研究休職制度、短期国内外派遣制度等を継続して実施した（平成29年度利用者数：資格取得支援制度27名、医師研究休職制度2名、短期国内海外派遣制度1名、看護職員長期留学制度1名、看護職員大学院留学制度2名）。 ○医事課職員及びMSWのスキルアップを目的とした研修会を引き続き実施するとともに、6月に医療技術職員の中堅職員に対し、資質向上及び職場における立場・役割を自覚するための研修を実施したほか、係長級に昇格した職員に対し、マネジメント能力の向上を図るための研修を7～9月に実施した。 <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学術支援センターにおいて、院内スタッフを対象として論文の質を高めることを目的に、臨床研修セミナー及び統計解析勉強会を開催し、職員の研究・教育の充実を図った。また、平成30年2月に、第1回4病院合同学術研究フォーラムを開催し、外部発表の論文等を機構内に公表するとともに優秀演題表彰を行いモチベーションの向上を図った。 ○全ての職種を対象に、病院職員の資質向上のための能力開発・スキルアップ支援を目的として、平成28年度に人材育成センターを設置し、教育・研修の充実を図った（平成29年度利用実績：研修ホール338件、トレーニングラボ307件、外科系ラボ507件）。 	2	3	3	

<p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJT（職場の上司や先輩が部下や後輩に対し具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識、技術、技能及び態度等を指導すること。）による人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行</p>	<p>た医療人を育成する</p> <p>○臨床研修センターを利用した研修支援体制の強化により、職員のモチベーションの向上を図る （西市民病院）</p> <p>○新専門医制度の開始に円滑に対応し、人材の確保に繋げるため、臨床実習や臨床研修、専門医研修等の支援体制の構築を進める</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○病院全体として臨床実習や臨床研修、専門医研修等の研修支援体制の充実を図る</p> <p>○がん登録実務の精度を向上するため、引き続き県等の研修会へ参加する （神戸アイセンター病院）</p> <p>○学会や院内外の研修会等にも積極的に参加し、すべての職員が必要な技能や知識の習得に努める</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○長期的な人材育成を考慮し、様々な部署での経験が積めるよう、計画的に人事異動を行い、</p>	<p>○臨床研修センターに専任の事務担当者を配置することにより、研修プログラムのより質の高い事務的サポートを継続して行うとともに、初期研修医の相談役となる等、状況把握に取り組み、モチベーションの維持・向上を図った。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○平成30年度からの新専門医制度施行に向け、10月から19の基本領域での専門医の登録が始まった。内科については基幹施設として、それ以外の診療科については、中央市民病院をはじめとする他病院の協力施設としての指定を受け、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目標とした臨床研修が行われる。</p> <p>○臨床研修の基本理念をベースに臨床研修プログラムの改訂及び診療科毎の研修プログラムの見直しを随時進めた。</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○新専門医制度の開始に向けて、従来の初期臨床研修に係る管理委員会に加えて、専門医研修のプログラム管理や関連施設との連絡調整等への対応のため、新専門医制度にかかる準備委員会を組織した。平成30年度採用として、内科1名・小児科1名・外科・消化器外科2名・脳神経外科1名・皮膚科1名・泌尿器科1名・産婦人科2名の計9名を確保した。</p> <p>○新たに組織した学術研修部において学術研修の充実を検討し、学術研修部運用委員会で、学術研修部の理念及び活動方針を策定した。</p> <p>○がん登録実務の精度向上のため、引き続き、医事課職員のがん登録実務者の研修会受講を進めた。</p> <p>（神戸アイセンター病院）</p> <p>○基本的な方針として、学会や院内外の研修会等にも積極的に参加し、すべての職員が必要な技能や知識の習得に努めることとした。</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本に、できるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○長期的な人材育成を考慮した人事異動（ジョブローテーション）を行った。また、特定の職員に情報が集中することの無いよう配慮するとともに、専門分野に関し知識を有する職員を複数育成することや職員の総合力の向上に積極的に取り組んだ。</p>				
---	--	--	--	--	--	--

<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に努めるよう働きかける。 	<p>将来の病院運営を担う人材を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> 受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に努めるよう働きかける。 <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院経営のパートナーである P F I 事業者においても、医療安全の確保や感染管理への意識向上を図るため、医療安全や感染管理等の講習会への受講を促していく <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医事委託職員について、診療報酬請求や患者サービス向上などに関わる各委員会への参加により、病院運営のパートナーとしての資質向上を図る <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医事委託職員について、診療報酬請求や接遇など各委員会への参加により、病院運営のパートナーとしての資質向上に努める ○医療安全や感染防止対策等の情報提供や研修会の案内について、院内グループウェアにより受託業者に対しても発信していくことで、情報共有を図るとともに研修会への参加を促進する <p>(神戸アイセンター病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○委託職員については、必要に応じ各委員会等に参加し、病院運営のパートナーとしての資質向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院主催の医療安全や感染管理の研修には病院職員に加え、病院経営のパートナーである P F I 職員の受講も促し、医療安全の確保や業務品質・患者サービスの向上を図った。 <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医事委託職員にも D P C 保険対策委員会へ毎回出席してもらい、査定等についての学習を積極的に実施した。また、医事委託職員の責任者は、各診療科部長及び部門長が出席する業務経営会議へ参加し、病院全体の情報把握を図った。さらに、診療報酬改定に関する講演会等に参加してもらい、最新情報を提供したほか、B L S 講習会等、院内研修等への参加を促した。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医事委託職員については、保険対策医事委員会に毎回出席してもらい、査定等についての現況分析を積極的に実施した。また、診療報酬改定に関する外部での講演会等にも参加してもらい、最新情報の提供に取り組んだ。 ○引き続き、受託業者に対して、院内講習会など院内で実施される医療安全や感染防止対策に関する研修等への参加を促し、病院職員としての資質向上を図った。 <p>(神戸アイセンター病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全委託事業者に病院運営協議会やそれぞれの業務に応じて各委員会に参加いただくとともに、院長ヒアリングを行い、ともに病院を運営するパートナーとして現状や課題の共有を図り、問題点の改善を図った。 <p>関連指標</p>				
--	---	--	--	--	--	--

		No. 132 : 患者対応研修等参加者数 / No. 133 : 研究休職制度等利用者数 No. 134 : 資格取得支援制度利用者数				
--	--	---	--	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(3) 人材育成等における地域貢献

中期目標	臨床研修医及び専攻医の受入れ及び神戸市看護大学を始めとした看護学生の受入れに努め、教育研修制度を充実させるなど教育病院（専門医等の研修施設として認定された教育施設としての性質を有する病院）としての役割を果たすこと。 また、学生だけでなく地域医療機関の職員への研修を行うことを始めとして地域全体の医療の質の向上に資すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、臨床研修医及び専攻医のみならず、医学部生、看護学生、薬学部生をはじめとした、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実等、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p>	<p>・公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実を図り、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○潜在看護師の復職支援対策として、兵庫県看護協会が実施する合同就職説明会への参加や、各病院において研修会を開催し、潜在看護師の復職支援についての取り組みを進める</p> <p>○神戸市看護大学等と連携を図り、看護学生の受け入れを行い、看護学生の能力向上に寄与する （中央市民病院）</p> <p>○医師、看護師、薬剤師等医療系学生を積極的に受け入れる</p> <p>○「がん専門薬剤師研修施設」として、資格取得を目指す薬剤師を外部より受け入れ、講習会等を開催する （西市民病院）</p> <p>○薬剤師等、医師・看護職員以外の</p>	<p>・公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実を図り、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○看護師の資格を持ちながら、家庭の事情等で看護の現場を離れ、ブランクはあるが再就業を希望している方を対象に、復職支援のための研修を開催した（西神戸医療センターは2月に開催、中央市民病院、西市民病院については、受講希望者がいなかったため平成29年度は開催せず。）。</p> <p>○神戸市看護大学キャリア支援室が平成27年度に開設されて以来、情報交換や学生の進路相談等を通じて積極的な看護学生の受入れと神戸市看護大学への講師派遣を継続して行っている。また、指導者と病棟師長、教員、看護部教育担当が、実習の受け入れ体制や学生の実習の様子などを情報交換する場としてカンファレンスを実施し、より効果的な実習につなげた。</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○市民病院機構や神戸市内医療施設で働く優秀な人材を確保し、市内全体の医療の質の向上を図るため、依頼施設と協力して積極的に学生等の受け入れを行った。</p> <p>○がん専門薬剤師研修施設として、9月よりがん専門薬剤師研修生を受入れ、日本医療薬学会の規定のカリキュラムにて指導対応を行った。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士等の学生の</p>	1	3	3	

	<p>専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い、人材の育成に貢献する</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医師、看護師等医療系学生を積極的に受け入れる ○薬剤師等、医師・看護師以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い、人材の育成に貢献する <p>(神戸アイセンター病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医師、視能訓練士等の医療系学生の実習について、受入れ体制を整備する 	<p>受入れを積極的に行い、人材の育成に貢献した。また、医師については初期研修医・専攻医を積極的に受入れ、研修管理常任委員会を中心に人材育成の充実を図った。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医師について、優秀な初期研修医の確保に繋がるよう京都大学や神戸大学の臨床実習、病院見学など積極的に受け入れを行うとともに、看護師及び助産師について、各看護学校からの実習、病院見学会、インターンシップなど積極的に受け入れ、優秀な人材の確保に引き続き取り組んだ。 ○引き続き、看護師及び助産師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、視能訓練士、臨床工学技士、管理栄養士等の学生の受け入れを積極的に行い、人材の育成に貢献した。 <p>(神戸アイセンター病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医師の学生実習について受入れ体制を整備した。また、視能訓練士についても体制を整備し、学生実習を受け入れる方針である。 <p>関連指標</p> <ul style="list-style-type: none"> No. 135：講師派遣数（延べ人数） No. 136：臨床研修医数 No. 137：専攻医数 No. 138：学生実習等受入人数（医学部・歯学部生） No. 139：学生実習等受入人数（看護学生） No. 140：学生実習等受入人数（薬学部生） No. 141：学生実習等受入人数（臨床検査） No. 142：学生実習等受入人数（理学療法・作業療法・言語聴覚） No. 143：学生実習等受入人数（臨床工学） No. 144：学生実習等受入人数（管理栄養） No. 145：学生実習等受入人数（視能訓練） 				
--	--	--	--	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

中期目標	努力が評価され、報われる人事給与制度や昇任制度を導入するなどやりがいのある病院となるよう努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を導入し、社会一般の情勢への適合に加え病院の経営実績も加味しつつ、賞与等の給与に反映する制度を構築する。 昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全職種において人事評価を実施し、組織目標の達成や個人の能力伸長を図る <ul style="list-style-type: none"> 昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○法人職員の係長昇任選考を実施し、優秀な職員を積極的に登用する 	<ul style="list-style-type: none"> 組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成28年4月より、医師の人事評価制度を試行的に実施した。また、医師以外の職種については、神戸市と同様に平成28年4月より本格実施し、人事評価結果を基にして、勤勉手当及び査定昇給への反映を行った。 昇任制度について、能力や経験等を踏まえた改善を行い、優秀な職員を積極的に登用した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○優秀な職員を積極的に登用するため、法人固有職員の係長昇任選考を実施した（平成29年度合格者：薬剤師2名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務職3名）。 	1	3	3	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(2) 働きやすい環境の整備

中期目標	市民病院で働く職員の業務を明確にし、適切な役割分担を図るとともに勤務環境を整備するなど、意欲ある職員が働き続けられるように努めること。
------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・病院で働く全ての職員にとってやりがいを持って、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上に繋がる具体的な取り組みを実施する。</p> <p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい</p>	<p>・病院で働くすべての職員にとってやりがいを持って、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上につながる具体的な取り組みを実施する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○職員のモチベーション向上のため、職員表彰を継続して実施する（優秀職員表彰、善行職員表彰、永年勤続職員表彰）</p> <p>○職員満足度調査結果に基づき、改善が可能なものから順次実施し、職員満足度の向上に取り組む</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○東館増築に続いて既存施設改修工事に着手し、医局スペースや更衣室を充実させるなど職員の執務環境の改善を図る</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○既存施設改修により、職員の執務環境の改善を図る。</p> <p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい</p>	<p>・病院で働くすべての職員にとってやりがいを持って、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上につながる取り組みを実施した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○特に優れた行いや病院経営に貢献した職員・団体を表彰することにより、職場の活性化・勤労意欲の向上を図ることを目的として、優秀職員表彰を実施した（永年勤続表彰：勤続30年 西1名、西神戸1名、勤続20年 中央1名、西1名、西神戸10名）。</p> <p>○中央市民病院で、平成26年度に実施した職員満足度調査結果を踏まえ、平成29年度は、複数の職種が垣根を越えて実施する「多職種研修」など研修の充実を行った。今後も引き続き各部署で取り組み、職員満足度の向上に繋げていく。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○東館増築・既存施設改修事業において、更衣室や事務スペースを拡充する等、職員の執務環境やアメニティの改善を図った。</p> <p>○院内の食堂に関して、事業者が平成29年9月末に契約終了となったため、職員にアンケートを行い、次期事業者募集に反映することで職員満足度の向上に取り組んだ。食堂後の利用について、北館地下区画を一体的に整備し、物販コーナーの充実を図り、平成30年9月を目途にリニューアルオープンできるよう準備を進めた。</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○既存施設改修において、更衣室や各種チーム活動のスペースを拡充する等、職員の執務環境やアメニティの改善を図った。</p> <p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所の充実等、職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組んだ。</p>	2	3	3	<p>【評価のポイント】</p> <p>・育児短時間勤務制度や院内保育所に関して、子育て中の職員に対する支援体制の充実を図った。</p> <p>・今後は、医師をはじめとした職員の負担軽減を含めた働き方の改革に取り組む必要がある。</p>

<p>環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。</p> <p>・ 職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。</p>	<p>環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○育児や介護と仕事を両立できるよう、育児短時間勤務制度や介護休暇制度の充実に図る</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、平成29年4月より院内保育所の定員を拡充し、利用しやすい運営に努める。また、28年度より開始した病児保育についても利用しやすい運営となるよう努め、職員が働きやすい職場づくりをより一層図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、院内保育所を新たに開設するとともに病児保育室の設置を進める</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、利用しやすい運営に努める。また、病児保育の運営を引き続き行うことで、職員が働きやすい職場づくりを継続する</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○院内保育及び病児保育については、中央市民病院と連携し、育児をしながら安心して勤務が続けられる体制を確保する。</p> <p>・ 職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医師・看護職員の負担軽減のため、医</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○育児短時間勤務制度や介護休暇制度を継続的に運用した（平成29年度末実績：育児短時間勤務制度利用者7名）。また、平成29年7月より、医師以外の正規職員に育児短時間勤務制度を試行実施し、運用の拡充を図った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○職員の勤務環境の改善の一環として、院内保育所の設置及び21時までの延長保育を継続実施した。また、保育所利用者の増加に合わせて、ウッドデッキを改修し、4月より院内保育所の受入れ定員を25人増の145人を定員として運営した。さらに、平成28年度より病児保育室の運用を開始した（利用者数310名（3月末現在））。引き続き職員の子育てを支援するとともに、働きやすい環境づくりを進めていく。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○職員が育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、平成28年度より、病児保育施設と協定を締結して柔軟な預け入れ体制を確保するとともに、認可外保育所の入所枠（2名）を確保した。また、4月より、近隣の賃貸物件を借り上げて院内保育所を開設した。引き続き、病児保育室の設置を検討していく。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○子育てをしながら働きやすい環境づくりの一環として、院内保育所を継続的に運営し、病児保育及び20時までの延長保育も引き続き実施した。</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○院内保育及び病児保育については、中央市民病院の協力を得て、受入れる体制を確保した。</p> <p>・ 職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○各病院において、医療クレーンや病棟クレーン等を継続配置し、医</p>				
--	--	---	--	--	--	--

<p>療クラークや病棟クラーク等の活用、職種間における連携や役割分担を引き続き進める</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○外来クラークと文書作成補助等を行う医療クラークについて、引き続き業務内容の検討を行い、医師の負担軽減に努める</p> <p>○病棟クラーク及びナースエイドを活用し、看護職員等の負担軽減を図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し、職種間の連携や役割分担により、医師・看護職員の負担軽減に努める</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し、職種間の連携や役割分担により、医師・看護職員の負担軽減に努める</p> <p>○メディカルクラークの更なる活用のための検討及び職種間における連携や役割分担を引き続き進める</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○外来クラークや病棟クラークを配置し、職種間の連携や役割分担により、医師をはじめとした医療職全体の負担軽減に努める</p> <p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス、ハラスメント及び内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。</p>	<p>療クラークや病棟クラーク等の活用、職種間における連携や役割分担を引き続き進める</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○外来クラークと文書作成補助等を行う医療クラークについて、引き続き業務内容の検討を行い、医師の負担軽減に努める</p> <p>○病棟クラーク及びナースエイドを活用し、看護職員等の負担軽減を図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し、職種間の連携や役割分担により、医師・看護職員の負担軽減に努める</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し、職種間の連携や役割分担により、医師・看護職員の負担軽減に努める</p> <p>○メディカルクラークの更なる活用のための検討及び職種間における連携や役割分担を引き続き進める</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○外来クラークや病棟クラークを配置し、職種間の連携や役割分担により、医師をはじめとした医療職全体の負担軽減に努める</p> <p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。</p> <p>具体的な取り組み</p>	<p>師・看護職員の事務負担軽減を図った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○医師の負担軽減を図るため、医師事務作業補助者として、外来クラーク（84名）、医師事務作業入力（10名）、救急クラーク（1名）を引き続き配置した。</p> <p>○患者搬送や介助補助等の患者周辺業務を行う病院業務員（ナースエイド）及び文書入力等の機器操作に関する業務等を行う病棟クラークの配置を継続し、看護師の負担軽減を図った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○各外来診察室、薬剤部、臨床検査技術部への事務クラークの配置継続や、外来クラーク、メディカルクラーク（メディカルアシスタント）の順次増員により、医師・看護職員等の負担軽減を図った。また、看護職員が看護業務に専念できるよう、病院業務員のケア業務の拡大に取り組んだ。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○各外来診察室へのクラークの配置を継続し、医師の負担軽減を図るとともに、薬剤部と臨床検査技術部、放射線技術部のクラークについても継続し、負担軽減を図った。</p> <p>○メディカルクラーク（メディカルアシスタント）について、配置を継続し、医師の事務負担軽減を図った。</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○外来クラーク及び病棟クラークを配置し、職種間の連携や役割分担を行い、職員の負担軽減を図った。また、職種によっては遅出早出など勤務体制の工夫も行った。</p> <p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実した。</p> <p>具体的な取り組み</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>○労働安全衛生の確保のため、法人本部において4病院を統括する市民病院機構安全衛生委員会を開催して、機構内の情報共有を図り、必要な対策に取り組む</p> <p>○新たなメンタルヘルス対策への対応を踏まえ、職員自身が心の健康状態を自覚し、ストレスの軽減等に努め、不調の早期発見・対応ができるよう、全職員を対象にストレスチェックを実施する</p> <p>○リエゾンチームによるせん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図り、職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○リエゾンチームによるせん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図り、職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○夜間・休日に安心して診療活動を実施できる環境をつくるため、警察OBの毎日24時間配置体制を継続する</p>	<p>○労働安全衛生の確保のため、市民病院機構職員安全衛生委員会を2回開催し、各病院職員安全衛生委員会の活動状況等について意見交換を行ったほか、2月に西神戸医療センターにおいて、安全パトロールを実施した。</p> <p>○職員の健康確保等を目的とした機構全体での時間外勤務の縮減について、職員に周知を行い、時間外勤務が長時間となっている職員については、部門長等による改善策等の報告をもとに、法人本部長がヒアリングを行った。また、医師等の働き方改革について、関係省庁や地元選出の国会議員、兵庫県等に対して、直接要望活動を行った。</p> <p>○職員安全衛生委員会で策定した実施要綱に基づき、全職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施し、結果を通知した。併せて、職員にセルフケアの方法や相談窓口等を周知したほか、回答結果の集団分析を行った。</p> <p>○各病院において、リエゾンチームにより、せん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図るとともに、診療に関わるスタッフのメンタルヘルスサポート体制を強化して、安心して勤務できる環境づくりに取り組んだ。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○7月より月2回のリエゾナーズによるメンタルヘルスに関する相談を実施したほか、5月31日に職員安全衛生委員会、医療安全委員会共催で「せん妄患者への対応」をテーマにした講演会を実施するなど診療サポートの充実を図った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○総務課への警察OBの配置、警備員の24時間365日配置を継続し、安全・安心な診療体制を確保した。また、暴力や徘徊等の問題行動をとる恐れがある患者等について、定期的な巡回を依頼するとともに、「暴力行為等対策マニュアル」に基づき、暴力行為等に対する的確に対応した。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

中期目標	本市からの運営費負担金の交付の下、政策的医療を行い、市民病院としての役割を果たしながら、中期目標期間を通じて収支を均衡させるよう、各年度安定的な病院経営の維持を図ること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、増収対策及び費用の合理化により、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。 医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。 医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政的医療・不採算的医療及び資本に係る運営費負担金について、資本分等の変動要素を踏まえ、神戸市財政局と調整、協議を行い、平成30年度分について適正な額を確保した。引き続き、平成31年度以降分について協議を行う。 <p>【平成29年度決算概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院においては、先端医療センター病院との統合に伴い救急医療体制等の機能強化を図ったほか、ダヴィンチ手術等高度専門医療の実施、外来化学療法件数の増による診療単価の上昇等により、入院・外来ともに前年度を上回る収益を確保した。西市民病院においては、在宅医療への支援を含め、地域医療機関との連携強化を図るとともに、地域包括ケア病棟を導入し、在宅復帰を目指したリハビリテーションの実施体制を強化したことにより、収益の確保を図った。西神戸医療センターにおいては、地域医療連携の推進等により新入院患者を確保するとともに、外来化学療法件数の増による診療単価の上昇等により、移管前と比較し入院・外来ともに増収となった。神戸アイセンター病院については、中央市民病院及び先端医療センターの患者を着実に引き継ぐとともに、積極的な広報等により患者の確保を図った。また、費用の合理化の面では、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげた。さらに、適正な在庫管理を引き続き行った。 <p>平成29年度決算では、消費税負担の増等、医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、職員一丸となって上記の経営改善策に取り組み、収益の改善や経費の縮減等に努めた結果、機構全体として経常収支及び単年度資金収支ともに予算を上回る黒字を確保した。経常収支比率は中央市民病院で目標値100.3%に対して101.0%、西市民病院で目標値100.0%に対して96.1%、西神戸医療センターで目標101.2%に対して103.0%、神戸アイセンター病院で目標値76.1%に対して70.5%となり、単年度資金収支については、長期借入金等借入金返</p>	3	3	4	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、各病院においては、DPCデータ活用や適切な病床運用の徹底などによる効率的・効果的な病院運営や収入確保に努めた結果、平成29年度の経常損益は、法人全体で250百万円となり、3年ぶりの黒字となった。

	<p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会計規程等の関連規程の下、弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行う ○財務データや診療データの各種経営指標による状況分析等を実施し、安定した経営基盤の確立に取り組む <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○診療科別原価計算を活用した院長ヒアリングを実施し、各診療科の傾向把握・分析を通じて、各診療科部長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底し、安定した経営基盤の確立に取り組む <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院長ヒアリングの機会を活用し、各診療科部長に経営の視点を踏まえた業務の遂行を促すとともに、戦略的投資による収益力の向上を図り、安定した経営基盤を維持する ○平成30年度の診療報酬改定の方向性について外部コンサルタントの講演会を開催する等、情報収集及び対応策の検討を行う <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の院長ヒアリングを実施することで、経営状況について直接各診療科部長に伝達するとともに、経営の視点を踏まえて業務を行うことを促進し、安定した経営基盤の確立に取り組む ○戦略的投資による収益力の向上と安定 	<p>済の減や、西神戸医療センター移管にかかる神戸市都市整備等基金の受入等により、中央市民病院で13億1,700万円の黒字、西市民病院で3億円の赤字、西神戸医療センターで60億5,000万円の黒字、神戸アイセンター病院で1,500万円の黒字となった。なお、市からの運営費負担金について交付を受け、これまで同様に政策的医療を行い、市民病院としての役割を果たした。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会計規程等の関連規程の下、引き続き複数年契約等弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行った。 ○月次決算・決算見込み等において、病院ごとに診療科目別の患者数や在院日数等の各種主要指標の確認を行い、活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図った。 <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院長ヒアリングを年2回実施した(7月、1月)。主に診療科別収支資料・DPC資料をもとに各診療科の現状を分析し特性を把握するとともに、各診療科部長が経営改善への取組や5年間中期計画などを作成し、経営に寄与できる各科の取り組み・傾向を把握した。 <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○診療科別の収益概要をもとに、新規患者獲得に関して意見交換を行う等、各診療科・部門毎に院長ヒアリングを行い(5月、11月)、診療科ごとの経営改善意識の向上を図った。 ○平成30年度診療報酬改定の方向性について、外部コンサルタントの講演会を開催(計3回)する等、情報収集及び対応策の検討を行った。 <p>(西神戸医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回院長ヒアリングを実施し、各診療科の現状分析や特性を把握するとともに、各診療科部長に経営の視点を意識することを促進した。 ○戦略的投資による収益力の向上と安定した経営基盤の確立を実 				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>した経営基盤の確立を実現するため、収益及び費用の分析方法（診療科別損益計算等）及び活用方法について検討する</p> <p>（神戸アイセンター病院）</p> <p>○各部門に対し院長ヒアリングを実施し、経営状況の情報共有や各部門の課題抽出等を行い、安定した経営基盤の確立に取り組む</p>	<p>現するため、診療科別損益計算資料を作成するとともに、その活用方法を検討した。</p> <p>（神戸アイセンター病院）</p> <p>○2月～3月にかけて、全部門・全委託事業者に対して、現状と課題、患者サービス、時間外勤務時間縮減策、待ち時間対策等に関して院長ヒアリングを実施した。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 146：単年度資金収支／No. 147：経常収支比率</p> <p>No. 148：医業収支比率／No. 149：運営費負担金比率</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(2) 収入の確保

中期目標	病床や手術室及び高度医療機器の効率的な運用を行うとともに、診療報酬の請求漏れや減点を防止し、堅実な未収金対策を講ずるなどして、確実に収入を確保すること。 また、診療報酬改定に的確かつ速やかに対応するため、人的及び物的な資源を有効に活用し、収入が確保できるよう努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化、手術室や医療機器の効率的な運用等を行う。</p>	<p>・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化、手術室や医療機器の効率的な運用、増収のために体制の充実・適正化等を行い継続的に安定した収入を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○機構の資金需要を予測した上で、留保資金について、大口定期、国債、地方債等での資金運用を積極的に行う ○寄付金を積極的に受け入れるため、引き続き院内でPRチラシを配布するほか、寄付方法の利便性向上等に向けた取り組みを行うとともに寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行う ○救急患者受入、紹介患者確保の強化による利用率の向上、入院期間の適正化等の取り組み強化による入院単価の向上等による収益確保を行う <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病床の一元的管理を徹底し、救急部門、重症部門の効率的な運用を図る ○専門外来を積極的にPRし、新たな 	<p>・各病院において医療機能に応じた患者の受け入れを行い、適切な病床利用率を維持するとともに、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化に取り組み、手術室等の効率的な運用や増収のための体制づくり等を実施し、安定した収入の確保を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資金需要を予測し、大口定期や地方債での安全かつ有利な方法で資金運用を積極的に行った（平成30年3月末時点：大口定期運用額110億円、債券運用額7.6億円、利息収入額21,299千円）。 ○院内でのPRチラシの配布、ホームページでの紹介等、寄付金を積極的に受け入れるための取り組みを継続した（平成29年度実績：機構全体での寄付受入額122,110千円）。また、臨床研究・治験の一層の推進に向け、研究に係る財源を確保するため、必要な規定の整備を行った上で、平成29年11月より、新たに製薬企業からの寄付の受け入れを行った（平成29年度実績：機構全体での寄付受入額50,000千円）。 ○常任理事会における月次決算の報告様式について、診療科毎の期間別DPCを加えることにより、入院期間を意識した病床運営に関する活発な議論を展開し、単価の向上を図り、収益の確保に繋がった。 <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○看護部所属の病床管理専従看護師（ベッドコントローラー）を地域医療推進課との兼務にすることによって、病床の一元的管理を行い、稼働状況を適切に把握し、スムーズな情報伝達を行った。 ○新規患者を確保するため、ホームページや病院機能案内での広報に加え、 	2	4	4	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央市民病院は紹介・逆紹介の推進等による新規患者確保や寄付受入、西市民病院は地域包括ケア病棟の導入や各診療科・病棟の配分病床数の見直し、西神戸医療センターは外来化学療法増加により収益を確保した。また、神戸アイセンター病院は、開設準備費用の負担があったが、積極的な広報等により患者の確保を図るなど、計画達成に向けた努力を重ねた。

	<p>患者獲得を図るとともに、紹介・逆紹介をより一層推進し、地域医療機関との連携を進め新規患者確保に努める</p> <p>○高度専門医療センターをはじめとした新たな機能を有効に活用するなど、さらなる医業収益の確保に向け経営戦略を推進していく</p> <p>○神戸アイセンター病院開設後、眼科移転に伴う病院内の機能を再構築する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○紹介・逆紹介のより一層の推進，地域医療機関との連携強化とともに，施設改修による診療機能の拡充を通じて，新規患者確保に努める</p> <p>○看護部病床一元管理者により，午前退院・午後入院を含め，円滑な病床利用に努める</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○紹介・逆紹介をより一層推進し地域医療機関との連携を強化するとともに，救急車の積極的な受け入れにより新規患者確保に努める</p> <p>○拡充した内視鏡センターなど新たな機能を活用することで，医業収益の確保を進める</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○手術室の効率的な運用に努め，患者受入れ体制の充実を図る</p> <p>○積極的な広報活動及び地域医療機関との連携強化に取り組み，新規患者</p>	<p>平成 29 年度は地域連携懇話会の場で専門外来の講演を行うとともに，外来の紹介資料を配布して P R を行った。</p> <p>○新たな医療機能を有効に活用する等，さらなる医業収益の確保のために検討を行った。また，積極的な治験の実施により，医業収益を確保した。</p> <p>○眼科移転及び先端統合に伴い，診療科別の病床配分や手術枠の割り当てについて検討し，再構築した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○紹介率の向上に向け，地域医療部長や各診療科長等による地域医療機関への訪問を継続したほか，患者・市民等への啓発として，かかりつけ医の紹介状をできるだけ持参いただくよう患者・家族に P R するチラシの配布やポスターの掲示，立看板や横断幕の設置，院内放送を行った。また，オープンカンファレンス等の開始前に「診療予約のご案内」のスライドを表示するほか，市民公開講座等の開始前にも紹介状の持参を P R し，地域住民へも広く啓発を行った。</p> <p>○看護部病床一元管理者の専任制を継続し，病床の稼動状況把握や判断を円滑に行い，午前退院午後入院を含め救急患者受入れ等のため病床確保を的確に行った。また，病床運用を最適化し，医療ニーズに柔軟に対応するため，前年度実績や医師数の変更を踏まえて，各診療科・病棟の配分病床数の見直しを行った。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○紹介・逆紹介をより一層推進し，地域医療機関との連携を進め，新規患者確保に努めるとともに，院長のリーダーシップの下，救急車の積極的な受け入れに取り組んだ。</p> <p>○引き続き，新たに拡充した内視鏡センターを始め，あらゆる人的・物的資源を活用して医業収益の確保を進めた。</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○2つの手術室を効率的に活用していくとともに，医療事故のないよう確実な運用に取り組んだ。</p> <p>○開院前から地域医療機関と連携を密接に行い，アイセンター全体としての広報活動により，新規患者の大幅増加につなげた。</p>			
--	--	---	--	--	--

<p>・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実及び適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、その発生の未然防止を図るとともに、回収率を向上させる。</p>	<p>確保に努める</p> <p>・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実・適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○診療報酬改定に対して、引き続き新たな加算の取得に向けた対応策の検討を行う。また、平成30年度の診療報酬改定に向けて、可能な限り早期に改定内容の情報収集に努める</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○救急、小児及び周産期医療に注力するとともに、多職種によるチーム医療を推進し、診療報酬改定にきめ細かく対応する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○診療報酬制度と診療報酬請求業務内容の分析を徹底し、収入増に繋がる新たな加算の取得等にも積極的に対応する</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○診療報酬制度と診療報酬請求内容の分析を徹底し、収入増に繋がる新たな加算の取得等にも積極的に対応する</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○診療報酬制度と診療報酬請求内容の分析を実施する等、安定した収入の確保に努める</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、各病院で職場間の連携をより充実させ、その発生の未然防止を図るとともに、発生した未収金については回収率を向上させ</p>	<p>・各病院において、診療報酬の分析を行い、増収のために体制の充実・適正化に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○診療報酬改定に関する各種講演会や研修に職員を派遣するとともに、コンサル等を招き勉強会を開催する等、平成30年度の診療報酬改定に向けて、情報収集や関係部署との情報共有に取り組んだ。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○救急、小児及び周産期医療に注力するとともに、多職種によるチーム医療を推進し、診療報酬改定に細かく対応した。平成29年度は、認知症ケア加算1(5月)、脳波検査判断料I(6月)の算定を開始し、MPUについては、精神科急性期医師配置加算の届出を行い、2月から算定を開始した。また、先端統合により外来化学療法件数の増加が見込まれるため、外来のベッド数を40床として届出を行った(9月)。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○医療者と情報共有を図り、取得が可能な施設基準は積極的に獲得した。また、平成30年度の改定に向けて、医事課職員が講師となり、院内職員を対象とした研修会等を12月、1月、3月(2回)と計4回実施した。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○平成28年4月の診療報酬改定で「排尿自立指導料」が新設されたことを受け、新たに排尿ケアチームを組織し、9月から算定を開始した。費用対効果を見極めながら新たな加算等の取得を検討するとともに、平成30年度の改定に向けた情報収集や関係部署との情報共有に取り組んだ。</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○開院前に中央市民病院眼科の収益分析を行い、それに基づき、予算を編成し、月次での決算分析を行った。</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、未収金の発生防止を図るとともに、回収率を向上させる取り組みを行った。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

	<p>る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○未収金対策について、より効果的な取り組みが各病院で実施できるよう、検討会を適宜開催し、方法の検討や調整、ノウハウの共有、実施段階での協力を積極的に行う</p> <p>○未収金の回収について、引き続き弁護士に債権回収を委託するとともに、支払い能力があるにも関わらず請求に応じない者については、簡易裁判所へ支払督促を申し立てるなど回収策の強化を図る</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○医事課職員と協賛法人で構成する既存の査定対策チームで、診療報酬の請求漏れや減点を防止する またレセプト院内審査支援システムを活用し査定率改善に努める</p> <p>○医師に働きかけ当月請求率を上げていく</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○医事委託業者と連携し、診療報酬の請求漏れ防止や査定率改善のための現状分析及び対策について引き続き検討する</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○医事委託業者とも連携し、診療報酬の請求漏れ防止や査定率改善のための現状分析及び対策について引き続き検討する</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○債権回収委託先に対して各病院医事課とヒアリングを実施するとともに、回収方法等について協議を行った(5月・8月)。また、未収金対策について、医事課長会(7月)、未収金対策会議(8月)、常任理事会・理事会(8月)において、平成28年度取り組み状況の報告を行った。</p> <p>○平成28年度に未収金回収業務委託の公募を行い、平成28年10月より新しい弁護士事務所との契約を開始した。回収方法等について協議を行い、簡易裁判所への新規支払督促については、弁護士事務所が代行する運用となった。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○査定対策WGを立ち上げ、査定の多い項目や診療科について、医師も参加し、対応について検討を開始した。また、DPCと出来高差の大きい症例について、コーディングが正しいかの検証を請求担当者と医事課で行い、平成28年6月よりレセプト審査支援システム「べてらん君」を本格導入し、精度の高い事務点検を効率的に行った。</p> <p>○医局等にポスターを掲示し、医師にレセプト点検期間を守るように働きかけ、未返却の医師には電話督促を行う等、当月請求率向上を図った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○毎月病院と委託業者と打合せを行い、日常業務の改善点等を協議し、実施可能なものから取り組んだ。また、平成29年度末で見直しを行う物品管理搬送業務の中でも、保険請求可能な診療材料の請求漏れ防止対策を検討した。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○保険対策医事委員会を開催し、査定対策や、DPC分析結果・基本的理解、運用についても議論し、月毎の査定事例の詳細な検討や情報共有を行う等、請求漏れ防止や査定減対策を図った。</p> <p>○保険診療の取り扱い、診療報酬の請求等に関する事項について周知徹底させることを目的とした個別指導・適時調査(近畿厚生局・兵庫県)が、10月に実施された。11月の結果通知を受け、指摘された事項について運用の流れの見直しや、職種ごとの役割を明確にする等、チェック体制を強化するとともに、保険診療の理解とさらなる周知徹底を図った。なお、指摘事項に対する改善報告書については、12月に近畿厚生局に提出した。</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p>				
--	--	---	--	--	--	--

	<p>○診療報酬の請求漏れや査定内容についての現状分析及び対策等について、医事委託業者とも連携し、適正な診療報酬請求を行うための体制を構築する。</p>	<p>○医事委託業務として、請求漏れ対策や査定対策等が入っており、委託業者とともに、適正な診療報酬請求を行うための体制の構築を進めた。</p> <p>○毎月保険対策委員会を開催し、算定可能な指導料や検査項目等を説明し、請求漏れがないよう周知を図った。また、査定項目について全件確認を行い、可能なものについては積極的に再請求等を行った。</p> <p>○診療報酬改定の説明会として医師・看護師・視能訓練士・薬剤師に対し改定事項の説明を行った。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 150：病床利用率</p> <p>No. 151：結核病床 病床利用率</p> <p>No. 152：【参考】病床利用率（退院を除く）</p> <p>No. 153：【参考】結核病床 病床利用率（退院を除く）</p> <p>No. 154：平均在院日数</p> <p>No. 155：結核病床 平均在院日数</p> <p>No. 156：延患者数・入院（一般）</p> <p>No. 157：延患者数・入院（結核）</p> <p>No. 158：延患者数・外来（一般）</p> <p>No. 159：延患者数・外来（結核）</p> <p>No. 160：新規患者数・入院（一般）</p> <p>No. 161：新規患者数・入院（結核）</p> <p>No. 162：新規患者数・外来（一般）</p> <p>No. 163：新規患者数・外来（結核）</p> <p>No. 164：患者1人1日当たり診療単価・入院（一般）</p> <p>No. 165：患者1人1日当たり診療単価・入院（結核）</p> <p>No. 166：患者1人1日当たり診療単価・外来（一般）</p> <p>No. 167：患者1人1日当たり診療単価・外来（結核）</p> <p>No. 168：査定減率・入院</p> <p>No. 169：査定減率・外来</p> <p>No. 170：未収金額・現年</p> <p>No. 171：未収金額・滞納繰越</p>				
--	--	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(3) 費用の合理化及び業務の効率化

中期目標

引き続き地方独立行政法人のメリットを生かし、コストの徹底管理及び各部門での業務内容や委託業務の見直しを行い、費用の合理化及び業務の効率化を図ること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。また、業務内容や執行状況等を定期的に検証し、業務の効率化を進める。</p> <p>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により</p>	<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○給与費比率、経費比率等を考慮しながら、給与費を始めとした固定費について、削減や効率化を図る方策を検討し、実施していく</p> <p>○固定費について、引き続き分析を行い、適正な職員配置を実施するとともに、共同購入を実施するなど4病院体制による合理化に向けた取り組みを進める</p> <p>○システムや医療機器の更新時期を調整する等、減価償却費の平準化を図る工夫を行う</p> <p>○常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより、定期的に経営指標の確認を行う。経費については、経費比率を意識しながら適切な執行管理に努める</p> <p>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効</p>	<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○月次決算により、給与費比率や経費比率について、常任理事会へ報告し、比率に上昇傾向が見られれば、その要因を分析し、削減や効率化を図る方策を検討した。</p> <p>○医療機器の複数年契約や委託費の削減、在庫の適正数量の確保等、各病院と本部が協力し、固定費削減にむけた取り組みを進めた。</p> <p>○平成30年度予算編成において、中央市民病院と西神戸医療センターで更新を予定している電子カルテや、その他高額な医療機器の整備等、各病院の今後の投資について、理事長による各病院へのヒアリングを実施し（11月）、時期や投資額等、各病院と協議を行った。</p> <p>○毎月、常任理事会で経営指標を報告し、情報の共有と課題の抽出に取り組んだ。また、年度途中で適切な執行管理ができていくかどうか、四半期ごとの決算見込みや予算編成時などの機会を通じて、各病院と法人本部にヒアリングを実施した。</p> <p>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織の構築に取り組んだ。</p>	2	3	3	

<p>効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</p> <p>・診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、さらには多様な契約手法の活用等により、医師はじめ病院全体で、より一層の費用の削減を進める。</p>	<p>果的な体制及び組織を構築する。</p> <p>・診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、さらには多様な契約手法の活用等により、より一層の費用の削減を進める。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○調達から使用までの一貫したコストマネジメントへの取り組みに努めるとともに、必要な人員数や体制の精査を行い、中長期を見据えた費用の合理化を図る</p> <p>○在庫管理については、各病院、特に中央市民病院においては、先端医療センター病院との統合で60床増床になるため、KMC Pと協同して適正な在庫額について検討し、在庫削減に取り組んで適正な維持管理に努めるとともに、神戸アイセンター病院の開設により、眼科における手術の大半がなくなるため、眼科の在庫を減らす取組みを進め、廃棄在庫を減らす</p> <p>○消耗品・診療材料の更なる共通化を図り、平成29年度より機構に移管する西神戸医療センターもあわせ、スケールメリットを生かした材料費の削減に努める</p> <p>○4病院で使用する材料の共同購入を進めるため、引き続き共通する消耗品の入札を行う</p> <p>○29年度の診療材料の購入にあたっては、ベンチマーク比較を行い、値引率が適正ではない材料の交渉を行う。また、医薬品については、9月末までに薬価総額50%以上の妥結率を達成できるよう取り組む。さらに、先端医療センター病院との統合でオブジーボ</p>	<p>・診療材料及び医薬品において、在庫削減に努めるとともに、ベンチマークシステムを活用した価格交渉を行い、経費のさらなる削減に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○機構全体でスケールメリットを活かした値引き交渉を行うほか、院内の材料委員会を通じて必要以上に材料の種別が増えないよう努めるとともに、収支等を十分に意識し、医療体制の維持・充実に必要な人員体制を確保し、費用の合理化を図った。</p> <p>○4月に中央市民病院に設置された在庫適正化会議（法人本部、中央経理調達係、KMC P）において、先端統合に伴う在庫定数の見直しの検討を行った。また、神戸アイセンター病院については、中央の眼科診療材料の正確な捕捉を行い在庫数量に注意を払い、材料定数を決定した。</p> <p>○各病院と法人本部で診療材料について、ベンチマークや他病院への聞き取り等の分析を踏まえ、価格交渉を実施した。また、看護師が使用する物品の共通化に向けた看護副部長出席の意見交換会を開催した。</p> <p>○4病院で使用する材料の共同購入を進めるため、平成30年度に品目数を増やせるか検討を行った。</p> <p>○5月に3病院薬剤部長会を開催し、今年度上半期交渉方針と30年度薬価改定を念頭に置いた医薬品契約方法を検討した。7月から9月まで3病院及び本部で交渉した結果、薬価総額50%以上の妥結を達成し（妥結率100%）、交渉効果として3病院で約320万円を削減した。また、理事長をはじめ、3病院長・幹部出席の「3病院診療材料合同見積合せ」に関する説明会を9月に開催し、診療材料卸（14社26名）・メーカー（16社28名）に対して4%削減目標の協力要請した。</p>				
---	--	---	--	--	--	--

	<p>に代表される高額医薬品の購入量が 増大することが予想されることから 30年度薬価改定を見据え、薬価差益 を大きくする契約方式に繋がる薬価 交渉を行う</p> <p>○医師の負担軽減のために設置したド クターズクレークの適正人数につい て検討し、人件費の削減に努める</p> <p>○薬剤部は医薬品の安全性を評価した うえで、後発医薬品の導入を促進する</p> <p>○より公平・公正で効果的な入札・契約 制度を構築していく</p> <p>○入札・契約に関する勉強会や研修会を 開催し、理解を深めるとともに、透明 性・公正性を高め、競争性がより働く よう取り組む</p>	<p>○ドクターズクレーク検討委員会を開催し、配置状況について検証を行い、 人件費の削減に取り組んだ。</p> <p>○各病院において、医薬品の安全性を十分評価したうえで、後発医薬品の 導入を促進し、平成29年度は、中央市民病院で16品目、西市民病院で 9品目、西神戸医療センターで9品目導入した。</p> <p>○入札にあたり、入札期間・納期や仕様書等を厳重にチェックし、公平・ 公正な執行に取り組んだ。</p> <p>○神戸市工事入札を参考に、透明性・公正性を高め、競争性がより働く よう機構の工事入札方法の検討を行った。</p> <p>関連指標 No.172：給与費比率／No.173：材料費比率 No.174：経費比率／No.175：後発医薬品の数量割合</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(1) 質の高い経営体制の維持

中期目標	中期目標及び中期計画を着実に達成するために、経営に関する状況や問題点を全職員が共有し、PDCAサイクル（計画、実行、評価及び改善の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること）を確実に実行できるよう目標管理の仕組みを確立させるとともに、リスクマネジメント体制を構築するなど、長期的視点に立った質の高い経営を行うこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。</p>	<p>・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○毎月開催する常任理事会及び四半期毎に開催する理事会において、引き続き経営状況や事務事業を検証する</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○院長がリーダーシップを発揮するとともに、全職員が経営状況や問題点及び責任を共有して引き続き経営改善に取り組み、短期的視点、長期的視点の両面から質の高い経営を進める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○院長のリーダーシップの下、各診療科長や部門長をメンバーとする業務経営会議を開催し、経営状況のほか、病院全体の情報共有を行うとともに、長期的視点に立って、より質の高い経営を進める</p>	<p>・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ、院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、質の高い経営ができる体制を維持した。平成29年度は、西市民病院の経営改善支援の一環として、「経営者としての心得」をテーマに、外部講師を招き、幹部職員向けセミナーを開催したほか、「西市民病院のあり方及び経営改善の取り組みについて」をテーマに外部講師を招き、勉強会を開催した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○毎月の常任理事会及び四半期ごとの理事会において、月次決算等を報告した。月次決算では、収支だけでなく病院ごとに診療科目別の患者数や在院日数等の主要指標の確認を行い、活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○予算執行状況を厳しく管理するため、幹部会や毎月の運営協議会において、毎月の決算状況を分析した。また、業務経営改善委員会では、管理会計上の決算見込みを月次で検証する等、院内全体で経営状況の把握、経営改善の取り組みを実施した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○各診療科長、各部門長がメンバーである業務経営会議を院長主導のもと月1回定期的に開催し、経営状況のほか、各委員会の開催概要等、病院全体の現在の情報共有や意見交換を行い、懸案事項について院長より対応を促した。また、幹部会を週1回開催し、院長がリーダーシップをとる意思決定機関として機能させるとともに、各診療科及び部門からのマンスリーレポート（月次活動報告書）を継続し、各所属の診療内容、問題点、今後の計画等について病院幹部と随時情報共有を行った。さらに、コメディカル幹部と事務局長の連</p>	2	4	4	<p>【評価のポイント】</p> <p>・常任理事会や理事会における決算報告や経営分析、院長による部門別ヒアリングの実施などによるガバナンスの強化や役員研修会の実施など、全職員に対する組織目標の共有化や経営への意識向上を図った。</p>

<p>・全職員、特に、診療科部長や部門長が目標及び課題を共有し、PDCAサイクル（計画、実行、評価及び改善の4段階を繰り返すこと）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより、経営改善に取り組み、長期的視点に立った質の高い経営を進める。</p>	<p>(西神戸医療センター) ○院長のリーダーシップの下、各診療科長、部門長がメンバーである病院運営協議会を開催し、経営状況のほか、病院全体の情報共有を行うとともに、意見交換の場としても機能させる。</p> <p>(神戸アイセンター病院) ○院長のリーダーシップの下、各部門長等による会議を定期的に開催し、経営状況等について情報共有を行うとともに、全職員が経営意識を持ち、より質の高い経営を進める</p> <p>・全職員が目標及び課題を共有し、PDCAサイクル（計画、実行、評価及び改善の4段階を繰り返すこと）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより、経営改善に取り組み、長期的視点に立った質の高い経営を進める。</p> <p>具体的な取り組み ○月次決算や四半期毎の決算見込みと予算を比較、分析し、課題の把握及び収支改善に向けた取り組みを実施していく ○診療科部長や部門長を対象とした院長ヒアリングを実施し、目標や課題の共有を行い、経営改善につなげる ○引き続き、マネジメントシートにより、年度計画の達成状況の確認及び課題把握を行い、全職員の情報共有を図</p>	<p>絡会を毎週1回定期的に開催し、情報共有を図った。</p> <p>(西神戸医療センター) ○各診療科長、各部門長がメンバーである病院運営協議会を、院長主導のもと月1回定期的に開催し、経営状況のほか、各委員会の開催概要等、病院全体の現在の情報の共有や意見交換をするとともに、懸案事項については院長より指示を行い、対応を促した。また、年2回の院長ヒアリングにおいて、経営改善、かかりつけ医への紹介、新規紹介患者を増やす方法等についてヒアリングを行い、各診療科・部門ごとの今後の課題や方策に取り組んだ。さらに、院長副院長会議を週1回開催し、院長がリーダーシップをとる意思決定機関として機能させるとともに、各所属の診療・活動内容、問題点、今後の計画等の情報共有を随時行った。</p> <p>(神戸アイセンター病院) ○開院以後、毎週、幹部会で患者数等状況を情報共有し、対応策を協議して実践した。また、委託業者を含め、各部門がメンバーとなる運営協議会を月1回開催し、経営状況のほか、各委員会の開催概要、課題等の情報共有を行うとともに対策について検討を行った。</p> <p>・中期目標、中期計画及び年度計画については、各病院の職員サイト（イントラ）へ掲載し共有を図るとともに、平成28年度業務実績の評価委員会による評価を受け、評価結果の概要について職員サイトやメール、職員向け広報誌等へ掲載し周知した。また、評価結果に基づき課題把握を行い、四半期ごとに、年度計画の進捗確認と情報の共有化を図り、経営改善に繋げた。</p> <p>具体的な取り組み ○月次決算において、毎月の経営状況を迅速に把握するとともに、通期の収支も意識できるよう様式の変更を行い、常任理事会を通じて周知した。また、決算見込みにおいても、経営状況を適切に把握し、常任理事会、理事会等を通じて周知し、赤字にならないよう各病院と協力して対策に取り組んだ。 ○各病院において、年2回ずつ各診療科及び部門ごとに院長ヒアリングを実施し、本部からも出席することで現状の把握及び課題の共有を図った。 ○年度計画の達成状況確認及び課題把握のために、四半期毎にマネジメントシートを作成し、事務局ヒアリングを実施した（8月、11月、2月）。なお、11月のヒアリングは、平成30年度計画の重点項目及び市関連予</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>るとともに、PDCAサイクルの活用を進める</p>	<p>算要求と併せて理事長ヒアリングを実施し、検証体制の充実を図った。また、2月のヒアリングは、平成30年度の年度計画についてもヒアリングを実施し、課題等を共有した。四半期ごとのマネジメントシートは進捗状況確認後、職員サイトへ掲載して情報の共有・周知を図った。</p>				
--	------------------------------	--	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(2) 計画的な投資の実施

中期目標	社会情勢の変化や周辺の医療状況，市民ニーズ等を踏まえ，状況に応じた的確な投資を検討すること。その際，投資効果はもちろんのこと，投資後の収支の見通しを立てた上で，最終的には収支のバランスがとれるよう計画的に投資を行い，投資の実施後はその効果を検証すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・超高齢社会に向けて，今後の医療需要の変化や医療政策の動向等を踏まえ，人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し，病床規模及び外来機能等について検討するとともに，高度医療機器の更新及び整備等，総合的な投資計画を策定し，着実に投資を行うとともに，その効果を検証する。</p>	<p>・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し，着実に投資を行うとともに，その効果を検証する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○引き続き人材の確保・育成に努めるとともに，適正な人員配置体制の構築を図る</p> <p>○各病院及び法人本部が共同して投資の必要性や採算性を分析し投資を実施する。特に多額の固定費を増加させる電子カルテの更新については機構一体となった検討を行う</p> <p>○地域の医療ニーズ，近隣医療機関の状況等を分析した上で適切な投資を進める</p> <p>○高額な医療機器については，整備時に想定していた効果が得られているか，稼働実績及び収支等について四半期毎に事後検証を行う</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○神戸市の基幹病院として，患者中心の質の高い医療を安全に提供し，市民の生命と健康を守るため，経年劣化した機器の更新や，安全性や精度がより高い機器等の導入を図る</p> <p>○高額な医療機器について，投資額の平</p>	<p>・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し投資を行うとともに，その効果について検証した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療を取り巻く状況の変化への対応，医療の質向上や医療安全の確保，患者サービス向上等に十分配慮した上で，業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織の構築を図った。</p> <p>○各病院の今後の投資について，平成 30 年度予算編成において，中央市民病院と西神戸医療センターで更新を予定している電子カルテや，その他高額な医療機器の整備について，理事長による各病院へのヒアリングを実施し（11 月），時期や投資額など各病院と協議を行った。</p> <p>○地域の医療ニーズ，近隣医療機関の状況等について情報収集し，分析した上で適切な投資を進めた。</p> <p>○PET-CT等，高額医療機器については，稼働実績及び収支について，四半期毎の決算見込み等により定期的に報告を行った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○神戸市の基幹病院として，患者中心の質の高い医療を安全に提供するため，経年劣化した機器の更新や，安全性や精度がより高い機器を導入した。また，8 月下旬～9 月上旬にかけて，各診療科・コメディカル部門・看護部に対し，導入を希望する医療機器についてのヒアリングを行い，平成 30 年度予算編成に向けての検討を行った。</p> <p>○平成 30 年度予算編成において，大型放射線機器の投資額の平準化を</p>	1	3	3	

	<p>準化に努めるとともに、大型放射線機器を更に延命化するなど、経営状況に応じた投資に努める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○内視鏡検査件数の増加や小児科感染症患者の受け入れ増加等に対応するため、既存施設改修工事に着手し、診療機能の拡充を図る</p> <p>○高度医療機器の更新及び整備について院長ヒアリングを行い、長期的な収益性を考えた判断を行うとともに、その効果を検証する</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○高度医療機器の更新・整備については、経年劣化した機器の更新、安全性や精度がより高い機器等の導入を図るとともに、院長によるヒアリングで意見交換を行ったうえで、長期的な収益性を考えたうえで判断する</p> <p>○経年劣化した既存設備の保全・改修を実施する</p>	<p>進めるとともに、医療機器の更新について、更新対象の基準を引き続き取得後8年とした。また、複数台の更新対象機器について、投資額の平準化を図った計画に基づき導入を進めた。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○平成28年3月に、既存施設改修の一環として、内科外来診察室を1診増診(9診→10診)し、外来機能の充実及び患者サービスの向上を図った。また、平成29年度に実施した既存施設改修において、内視鏡センターの拡張や小児・周産期医療の充実等の医療機能の向上や執務環境の向上を図った。</p> <p>○医療機器等要求については毎年ヒアリングを実施し、各部門の収益状況や今後の方針を踏まえて、長期的な収益性も考慮したうえで購入予定機器の優先順位を決定した。</p> <p>(西神戸医療センター)</p> <p>○医療機器等要求について、院長ヒアリングを実施し、経年劣化した機器の更新、安全性や精度がより高い機器等の導入を図るとともに、各部門の収益状況や今後の方針を踏まえて、長期的な収益性も考慮したうえで購入予定機器の優先順位を決定した。</p> <p>○引き続き、保全計画に基づく建物設備の保全・改修を実施した。</p>				
--	---	--	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(3) 環境にやさしい病院づくり

中期目標	本市が策定した「神戸市地球温暖化防止実行計画」の達成に向けて、温室効果ガスの削減に取り組むとともに、エネルギーや資源の消費を自主的に又は継続的に節減するなど環境にやさしい病院づくりを目指すこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・省エネルギー化及び自然エネルギーの積極的活用、ゴミ分別の徹底及びリサイクルの推進による廃棄物の減量等により、温室効果ガスの削減に取り組む等、環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりを行う。</p>	<p>・環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりを行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市が取り組んでいる「神戸市地球温暖化防止実行計画」の実現に向けて、CO₂排出量のさらなる削減に努める</p> <p>○省エネ法に基づく特定事業者としての年平均1%以上のエネルギー消費原単位の削減に取り組むとともに定期報告、中長期計画の策定と届出を行う</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○環境負荷軽減のため、ゴミ分別の徹底を図り、古紙・ペットボトルのリサイクルなどにより廃棄物の削減に努める</p> <p>○省エネルギー熱源機器の効率的運用、照明・エレベーター・エスカレーター・換気・空調温度のきめ細かな制御等、さらなるCO₂の発生削減に向けた取り組みを進め、エネルギーの使用量データを蓄積し、分析を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○省エネルギー化の取り組みやCO₂排出量のさらなる削減を図る等、引き続き環境にやさしい病院づくりを行う</p>	<p>・各病院において、環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりに取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○CO₂排出削減に向けてエネルギー使用の抑制のため、照明設備等の効率的運用、太陽光発電の活用、不要照明の間引き、空調温度設定の適正化等、引き続き実施した。</p> <p>○第1種エネルギー管理指定工場に指定されている中央市民病院及び、第2種エネルギー管理指定工場の指定を受けている西市民病院において、省エネルギーへの取り組みを継続するとともに、エネルギー使用の合理化に関する法律に基づく定期報告及び中長期計画書を近畿経済産業局及び近畿厚生局に提出した。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○リサイクル可能な古紙類、ペットボトル等について分別回収を推進するため、引き続き回収拠点の充実を図るとともに、ポスター展示、メールオール等で職員に周知し、廃棄物の削減に向けた取り組みを進めた。</p> <p>○不用照明の間引き、空調設定温度の変更、エレベーター・エスカレーターの一部時間外運転停止等を継続し、新たに神戸市環境局への協力で水素発電による実証運転で熱供給を受け入れた。前年同月と比べ、夏季は平均気温が低かったが、冬季も同様に平均気温が低かったため、エネルギー使用量は前年とほぼ同様（微減）となった。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○不用照明の間引き、空調設定温度の変更に引き続き取り組むとともに、ボイラー運転時間について冬季2台運転の原則停止といった見直しを行い、本館改修においても一部照明器具のLED化を行うなど取り組みを進めた。（エネルギー使用前年度比削減率0.4%）</p>	1	3	3	

	<p>(西神戸医療センター)</p> <p>○省エネルギー推進委員会を中心に、空調温度のきめ細かな制御等、さらなるCO₂の発生削減に向けた取り組みを進め、エネルギーの使用量データを蓄積し、分析を行う</p> <p>○ESCO事業を継続し、引き続き省エネルギーを推進する</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○省エネルギー化の取り組みやCO₂排出量の削減を図る等、環境にやさしい病院づくりを行う</p>	<p>(西神戸医療センター)</p> <p>○CO₂の発生削減に向け、引き続き不用照明の間引き、空調設定温度の変更や一定時間での一時停止等を実施した。</p> <p>○ESCO事業を継続し、引き続き省エネルギーを推進したほか、老朽化の著しいファン、コイル等を計画的に更新し、空調設備の稼働負荷を低減した。</p> <p>(神戸アイセンター病院)</p> <p>○アイセンタービルの整備主体である神戸都市振興サービスと調整しながら、省エネルギー化に取り組んだ。</p> <p>関連指標 No. 176 : エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

1 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進

中期目標	中央市民病院については、PFI事業者との連携をより密にし、協働で質の高い病院サービスの提供を図っていくこと。そのため、PFI事業については定期的に検証し、その検証の結果を踏まえ、迅速に業務改善等を行い、円滑に事業を行うこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<ul style="list-style-type: none"> ・病院経営のパートナーであるPFI事業者との連携をより密にし、協働の精神により、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。 ・病院及び事業者の双方が、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下、病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。また、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下、病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PFI事業導入後5年間の実施状況の検証を踏まえ、今後のPFI事業の進め方について検討していく ○PFI事業に関して、日常モニタリング、定期モニタリング、随時モニタリング等を行い、業務水準の達成状況を確認するとともに、業務品質や患者サービスの向上に引き続き取り組み、病院全体の業務改善を図っていく ○PFI事業者（協力法人含む）も危機管理体制整備会議、院内合同防災訓練等に参加し、災害等の非常時にも迅速かつ柔軟に連携できるようPFI事業者と病院が一体となって危機管理に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央市民病院において、PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部コンサルタントにおいて、数値の比較、関係者へのヒアリングを行う等、定量的・定性的な評価をすべく5年間検証を行った。 ○PFI業務に関して、個別業務連絡会（週1回）、PFI業務連絡会（月2回）、モニタリング会議（月1回）、PPP会議（月1回）を定期的で開催してモニタリングを行い、業務実施状況の確認や経営改善を図った。 ○引き続き、PFI事業者も危機管理体制整備会議等に参加するとともに、非常時においてもPFI事業者とスムーズな連携がとれるよう、院内合同防災訓練にも参加した。 	1	3	3	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央市民病院におけるPFI事業に関しては、定期・随時の業務実施状況の確認や改善によって効率的で円滑な運営を行っているが、先端医療センター病院の統合による対象業務拡大部分への対応の検証に加え、市民病院機構全体で委託業務に関する消費増税の収支への影響を最小限にするための対応についても検討を行うべきである。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

2 市関連病院との連携

中期目標	神戸リハビリテーション病院も含めた本市の関連病院で、医療機能に応じて相互に患者の紹介を行い、職員の人事交流も積極的に行うなど意思疎通を図ること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・市関連病院（市民病院及び神戸リハビリテーション病院）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や研修会等の開催、人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。</p>	<p>・市関連病院（市民病院及び神戸リハビリテーション病院）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や研修会等の開催、人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市関連病院間での人事交流について、引き続き積極的に推進し、効果的・効率的な連携に取り組む</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○市関連病院とは、医療機能に応じて相互に患者の紹介・逆紹介を行うとともに、職員の人事交流も積極的に行う等、さらに効果的かつ効率的な連携に取り組む</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○放射線治療をはじめとして、医療機能に応じた患者の紹介・逆紹介を継続するとともに、職員の人事交流を行う等、市関連病院と密接に連携する</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○医療機能に応じて相互に患者の紹介</p>	<p>・市関連病院（市民病院及び神戸リハビリテーション病院）では、医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や研修会等の開催、人事交流についても積極的に行い、連携の促進を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○各部門で連携会議（医事課長会議、看護部長会議、薬剤部長会議、地域連携会議等）を開催し、情報の共有及び情報交換を行った。また、神戸リハビリテーション病院が、「回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ加算」を取得するにあたり、これまで受け入れが困難であった重症度の高い患者の受け入れ、情報共有や地域包括ケアシステムを念頭にした在宅までの充実したリハビリ連携の強化につき、医師・看護師・リハビリ・事務での中央市民病院との連携会議を開催した。</p> <p>○第1回4病院合同学術研究フォーラムを2月に開催し、4病院の人事交流を深めた。</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○医療機能に応じて市関連病院と効率的な連携に取り組む、平成29年度実績で紹介患者が1,061人、逆紹介患者が1,349人となった。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○放射線治療等の患者について市関連病院と積極的に連携を図り、全体紹介件数1,289件のうち、連携件数は20件となった。</p> <p>（西神戸医療センター）</p> <p>○医療機能に応じて、市関連病院との積極的な連携を行い、平成29年</p>	1	3	3	

	<p>介・逆紹介を行うとともに、職員の人事交流を行う等、さらに効果的かつ効率的な連携に取り組む</p> <p>○平成 30 年度の新専門医制度開始に伴い、柔軟かつ効果的な研修体制の構築を検討する</p> <p>・先端医療センターの中央市民病院への統合及びアイセンター病院開設に向け、課題の整理や手続きの実施等、着実に準備を進める。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○平成 28 年 9 月に設置した先端統合検討委員会(委員長:坂田院長)及びその下部組織である医療機能検討部会、施設整備・医療機器検討部会、管理運営検討部会、医療情報システム検討部会等において引き続き検討を行い、統合に向けた必要な準備を進め、先端医療センター病院の医療機能の継承と中央市民病院の機能充実を図る。併せて、アイセンター病院開設による眼科機能の移転に向けた必要な準備を進めていく</p> <p>(法人本部(アイセンター病院整備室))</p> <p>○アイセンター病院は、眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から再先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供するとともに、眼科疾患に係る臨床研究及び治験推進の基盤としての役割を果たすため、平成 28 年 8 月に設置した分野ごとのワーキング等において検討を</p>	<p>度実績で紹介患者が 367 人、逆紹介患者が 715 人であった。そのほか、神戸こども初期急病センターからの紹介患者の受け入れを行った(平成 29 度 3 月末実績:紹介 89 人)。</p> <p>○平成 30 年度の新専門医制度開始に向けて、柔軟かつ効果的な研修体制の構築を目的として、新専門医制度にかかる準備委員会を組織した。</p> <p>・先端医療センター病院の中央市民病院への統合及びアイセンター病院開設に向け、課題の整理や手続きの実施等、着実に準備を進めた。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○平成 29 年 11 月の統合までに、先端統合検討委員会及び各部会において、統合に向けた検討を重ねるとともに各部署において必要な準備を行った。11 月より、スムーズな運営を進め、統合後の効率的な運用については、外来調整会議や病棟調整会議等、各委員会で検討した。また、12 月のアイセンター病院開設による眼科機能の移転に向けた必要な準備を行った。</p> <p>(法人本部(アイセンター病院整備室))</p> <p>○平成 29 年 4 月より事務部門・看護部門においてアイセンター病院整備室の職員を配置し、開院後の体制も踏まえて 4 月以降の検討体制を見直すとともに、各種委員会等を開催して各部門と調整し、開院に向けた準備を進めた。12 月 1 日の開院に向け、開設許可申請(4 月 4 日中央区医師会・4 月 27 日神戸市保健医療審議会医療専門分科会)をはじめとする必要な手続きを行った(10 月 4 日付開設許可)。</p> <p>○運営面では、システム整備をはじめ 10 月下旬からの医療機器・什器備品の整備及び移設に向けた準備を進めるとともに、各種 WG を開催し、各種業務フローを作成するなど運営基準等を整備するとともに、機器等を購入し開院準備を進めた。</p> <p>○施設面では、整備主体である神戸都市振興サービス等と調整を進め</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>進めるとともに、開設に必要な関係機関との協議を進め、本年度後半の開院に向けて、着実に準備を進める</p>	<p>た。</p> <p>○11月に模擬患者による開院前リハーサルを2回実施するとともに、11月26日には開院式典及び内覧会を実施した。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 177：市関連病院からの紹介患者数</p> <p>No. 178：市関連病院への紹介患者数</p> <p>No. 179：市民病院との職員の人事交流数（神戸市地域医療振興財団）</p> <p>No. 180：市民病院との職員の人事交流数（先端医療振興財団）</p> <p>No. 181：市民病院との職員の人事交流数（神戸在宅医療・介護推進財団）</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

3 神戸医療産業都市における役割

中期目標	本市が推進する神戸医療産業都市に関して、特に中央市民病院は、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供していくこと。また、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携し、市民にとって最適な治療を提供すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			神戸市の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	判断理由
<p>・神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。また、特に中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。</p>	<p>・神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○臨床に応用される段階になった医療が速やかに市民に提供できるよう、体制の充実に努める</p> <p>・中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○治験・臨床試験の支援体制を整備するとともに、周辺医療機関等とのネットワーク構築を目指す</p>	<p>・中央市民病院では、神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療について、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供できるよう取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○治験・臨床研究の推進を図るため、11月1日に「臨床研究推進センター」を新設した。また、AMEDからの資金を基に、中央市民病院、大阪大学、京都大学IPS細胞研究所、理化学研究所による共同研究で加齢黄斑変性に対するIPS細胞を用いた網膜移植の臨床研究を引き続き行った。</p> <p>・近隣の神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院との連携を進めるため、それぞれ定期的に連携会議を開催した。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○メディカルクラスター連携推進委員会に参加し、関連病院及びメディカルクラスター内の病病連携を検討するとともに、医療情報データベースの在り方などについて検討を行った。また、臨床研究（治験）部会などの連携会議に参加し、具体的な連携について議論に加わった。</p> <p>○神戸低侵襲がん医療センターとの毎月の連携会議において、紹介実績や問題事例を挙げながら協議を行うとともに、化学療法治療等の連携強化や緩和ケア目的の転院の促進を行った（転院支援33件）。</p> <p>○西記念ポートアイランドリハビリテーション病院との隔月での連携会議において、リハビリ連携強化を主軸に紹介実績や問題事例を挙げながら協議を重ねた（転院支援314件）。</p> <p>○平成28年5月にポートアイランドに移転した県立こども病院と、対応困難な分野を相互に補完することとし、転院・転送における連携を</p>	3	3	4	<p>【評価のポイント】</p> <p>・中央市民病院では、11月に先端医療センター病院を統合し、医療機能を効果的に継承するとともに、PET-CT検査予約・検診事業を引き継ぐなど、より神戸医療産業都市の中核機関としての役割を強化した。また、神戸低侵襲がん医療センターとの化学療法治療等の連携強化や緩和ケア目的の転院の促進を行った。</p>

		<p>進めた。</p> <p>○平成 29 年度から、神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター、兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センターとの連携も開始した。</p> <p>関連指標</p> <p>No. 182：先端医療センターとの共同研究件数</p> <p>No. 183：先端医療センターからの紹介患者数</p> <p>No. 184：先端医療センターへの紹介患者数</p> <p>No. 185：周辺病院からの紹介件数／No. 186：周辺病院への逆紹介件数</p>				
--	--	--	--	--	--	--